

173
262

日本地理問答全



普通學問答全書第一編

特

特61

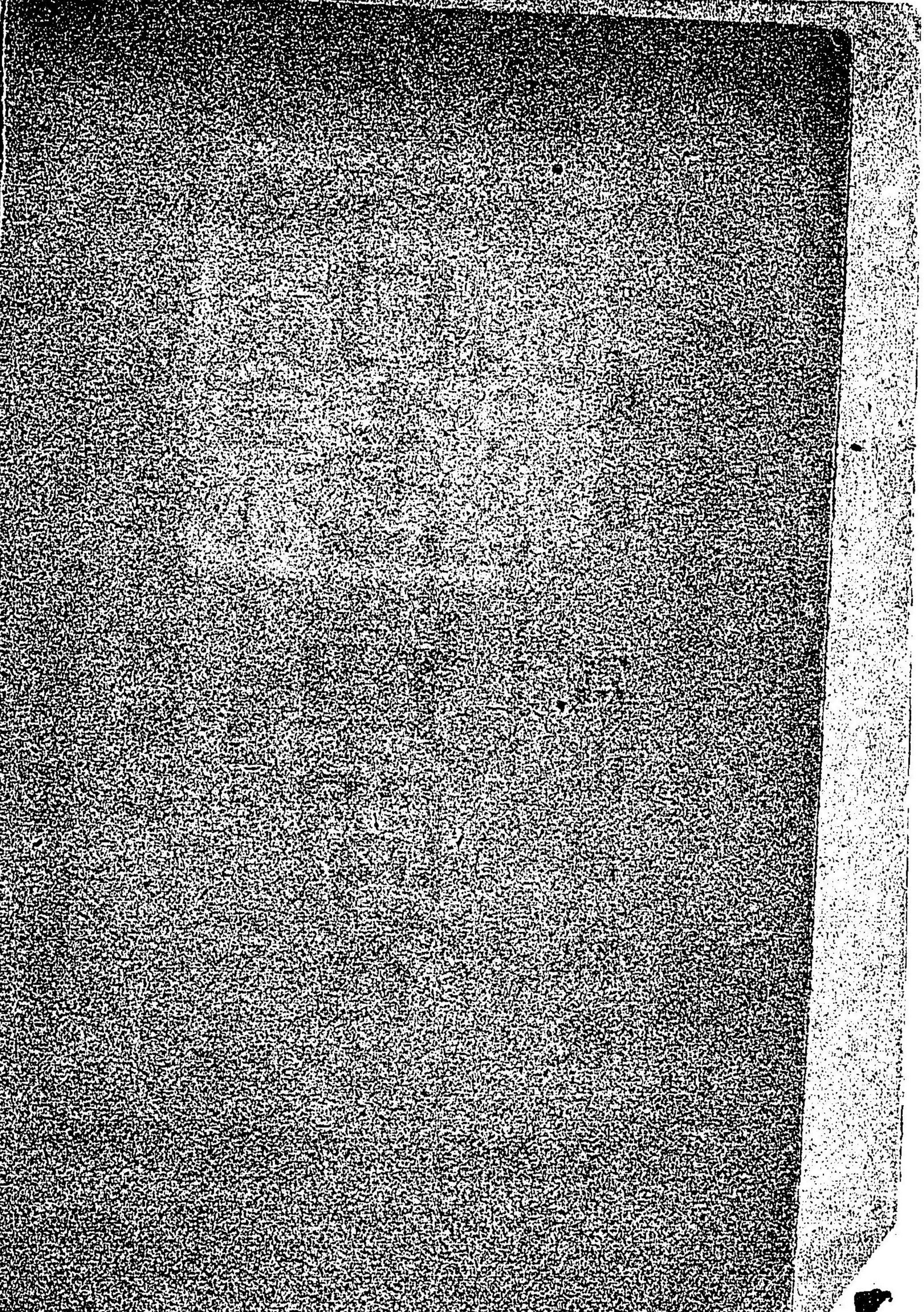
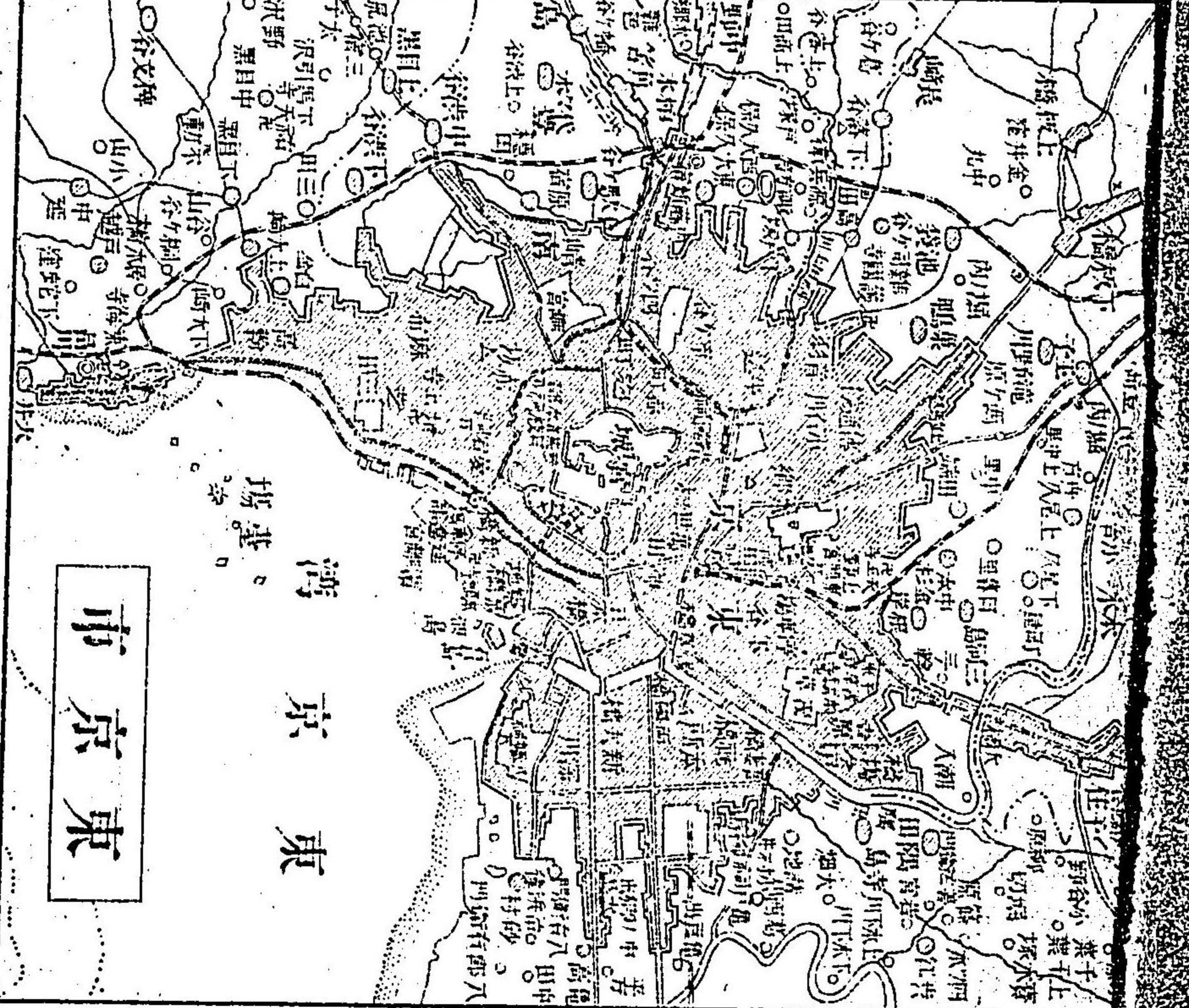
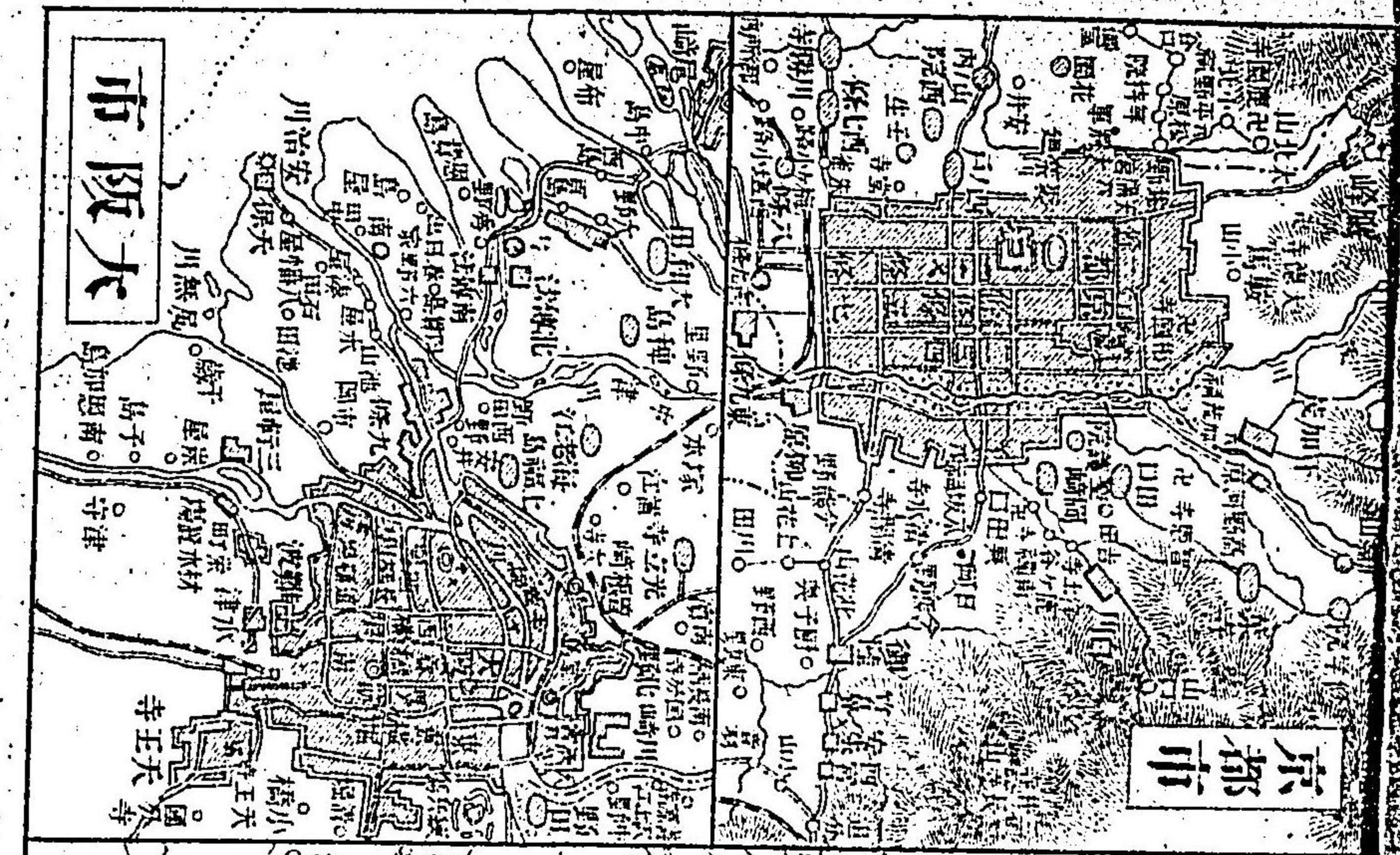
234

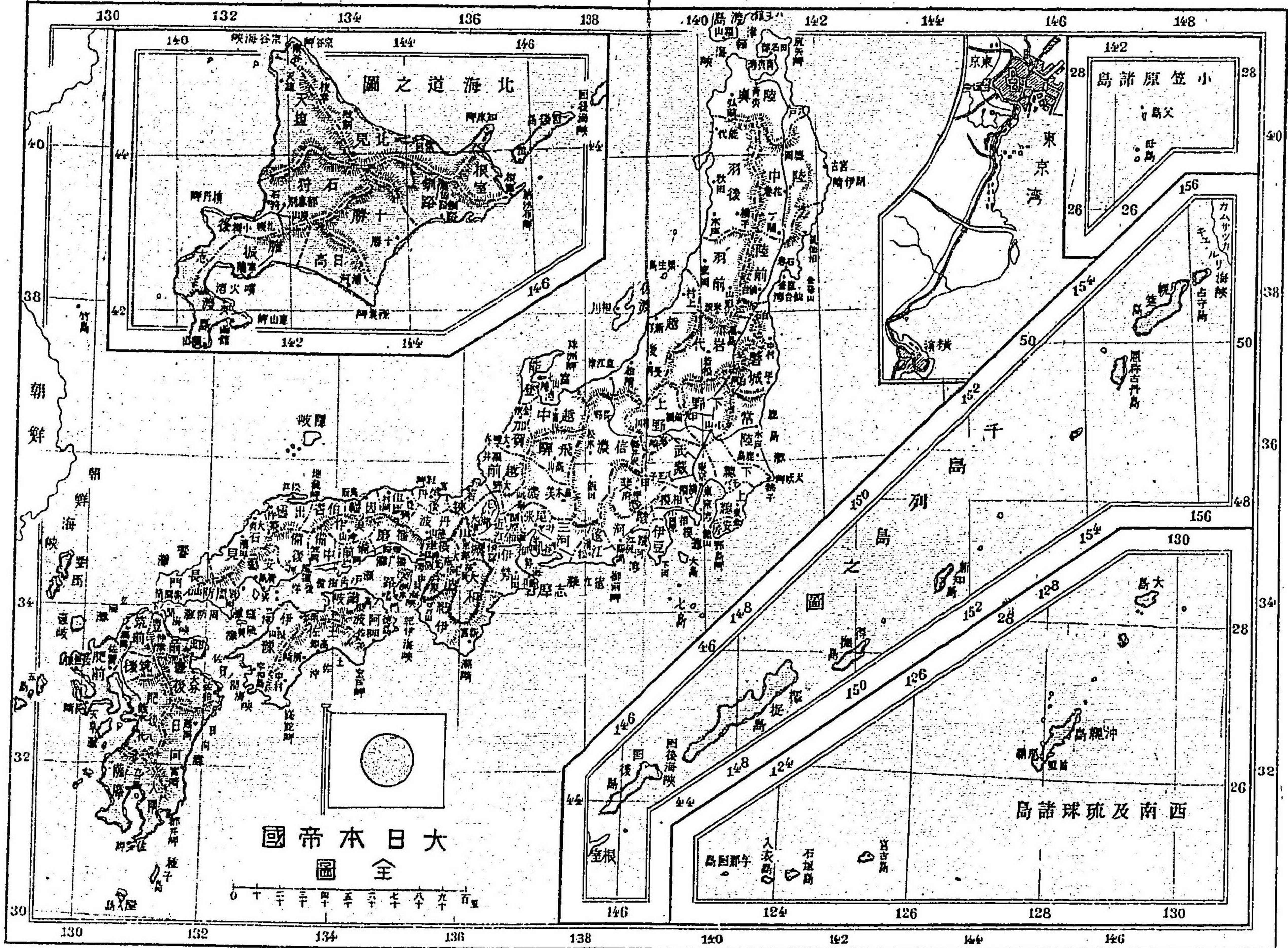
富山房編輯所編纂

日本地理問答
全

東京

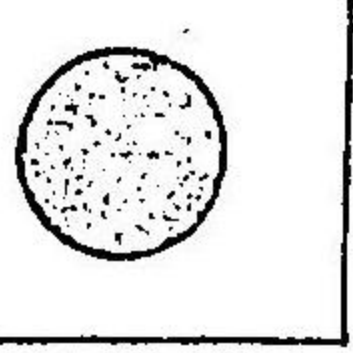
富山房藏版





大日本帝國全圖

0 十 三 十 四 十 五 十 六 十 七 十 八 十 九 百

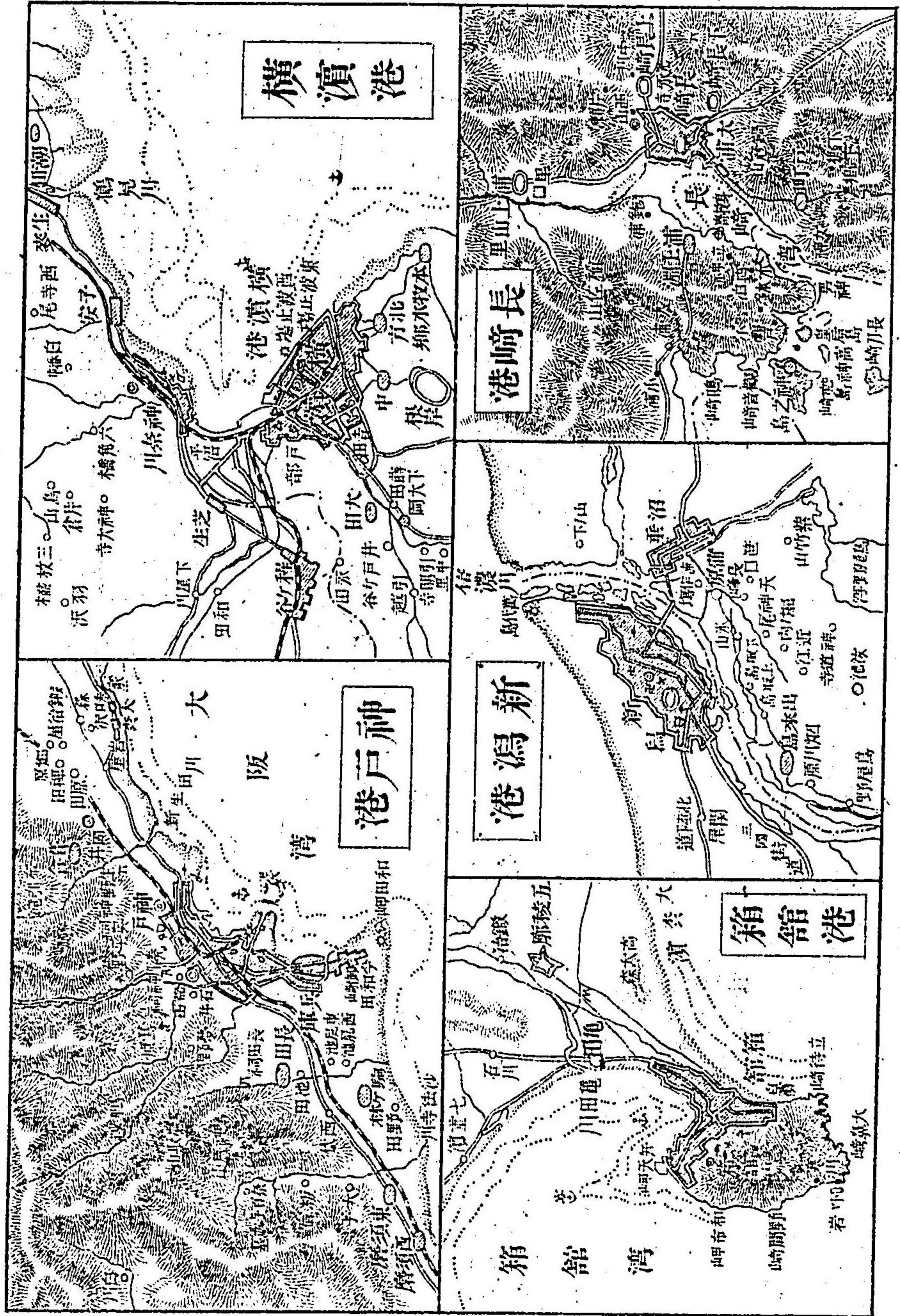


北海之道圖

小笠原諸島

西南及琉球諸島

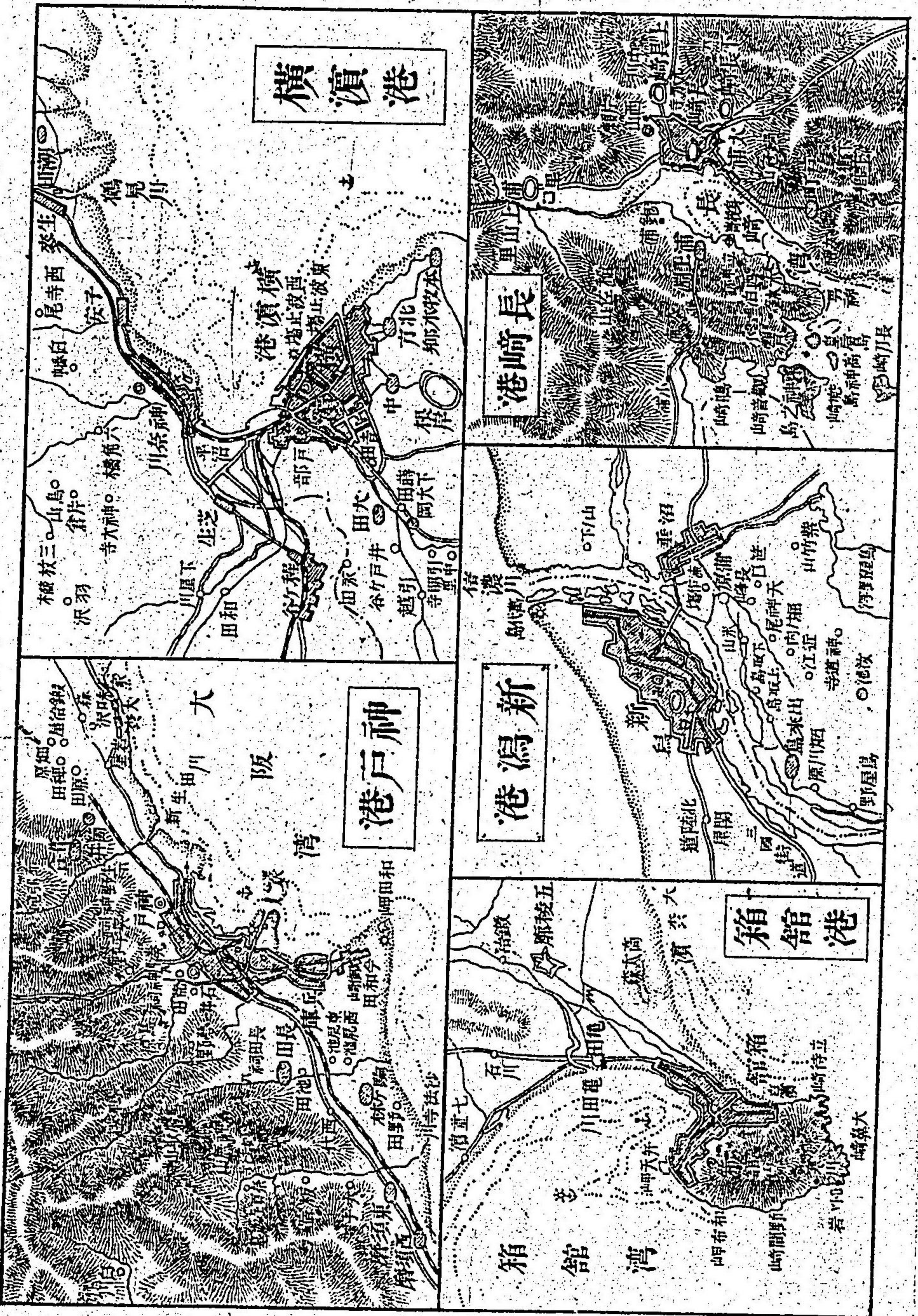
東京灣



緒言

時運の開明に趨くや、世事滋々繁し、故に人情近捷を尙んで而して迂遠を棄つ、況んや新勝國威日に揚るの今日に於てをや、宜なり百般の文物一に功を簡便捷速に期せざるなきこと、蓋し此の如くならずんは以て繁に應ずるに足らざるなり、吾儕普通教育の普及を希ふもの、復た此に意を注かすんはあらず、是に於て乎普通學問答全書の編あり、本書即ち其の第一篇なり、文は則ち拙に意は則ち漏れたりと雖も、巻帙の縮小なるに比して夥多の事實を治集す、功罪聊か相償ふを得んか

聞説く問答の書は勉めて許多の題項を蒐集するを要すと、是の如きは則ち斯書の單に試験用を主とし、學科全體の上に些の價值なきを證するものなり、若し夫れ題目の數假令千百の多きに達する



緒言

時運の開明に越くや、世事滋々繁し、故に人情近捷を尙んで而して迂遠を棄つ、況んや新勝國威日に揚るの今日に於てをや、宜なり百般の文物一に功を簡便捷速に期せざるなきこと、蓋し此の如くならずんは以て繁に應ずるに足らざるなり、吾儕普通教育の普及を希ふもの、復た此に意を注かすんはあらず、是に於て乎普通學問答全書の編あり、本書即ち其の第一篇なり、文は則ち拙に意は則ち漏れたりと雖も、巻帙の縮小なるに比して夥多の事實を浴集す、功罪聊か相償ふを得んか

聞説く問答の書は勉めて許多の題項を蒐集するを要すと、是の如きは則ち斯書の單に試験用を主とし、學科全體の上に些の價値なきを證するものなり、若し夫れ題目の數假令千百の多きに達する

も、前後の照應を缺き、全體の脈絡關聯を失はんには、何に由てか學科の全豹を窺はん、天下豈に斯の如きの狹少迂遠を容れんや、是を以て本書は一ら科學上の順序を逐ひ、首尾の脈絡は毫も之を失はず、且つ徒らに技巧を凝して題目の増加を衒ふの陋を學はず、問題は學科の進行上特に記憶を要する點に向つて間投するを限りとし、唯々學者講究の便を計らんか爲に之を設くるのみ、此の如くにして始めて其の用廣く其の効大に、以て簡便捷速の世運に負かざるべきを知る

吾儕の信する所既に此の如し、而して唯々意行き才足らず、本篇また能く其の志望に達するを得ず、敢て大方の是正を仰く而已

明治二十七年十二月

編者識

日本地理問答目次

富山房編纂

第一章 總國篇

一頁

- (一) 大日本の位置及び境界は如何 (二) 周圍の海洋の名を問ふ (三) 對岸諸國の名を問ふ
- (四) 經緯度及び廣袤幅員は如何 (五) 周邊の長さは如何 (六) 島嶼の位置及び大小の比較と示せ (七) 四大島の名を問ふ (八) 屬島の主なるもの及び其の大數と示せ (九) 地勢の大要と示せ (一〇) 山脈の趨向は如何 (一一) 火山脈の配布は如何 (一二) 南北兩部の比較如何 (一三) 南日本の地勢と略述せよ (一四) 南日本の中主要の山脈を問ふ (一五) 南日本の火山脈と示せ (一六) 南走山脈中の高山を列舉せよ (一七) 北走山脈中の高山を舉げよ (一八) 北日本の地勢は如何 (一九) 北日本中主要の山脈を問ふ (二〇) 北日本中の火山脈を舉げよ (二一) 諸山脈中最も火山に富めるものは何なるや (二二) 北日本の高山を舉げよ (二三) 富士帶火山脈の形勢を問ふ (二四) 富士山の位置及高さは如何 (二五) 我が國火山の總數附地震(二六) 礦泉分數の有様は如何 (二七) 本邦礦泉の種類を問ふ (二八) 著名の礦泉と示せ (二九) 礦産物及び其の産地を舉げよ (三〇) 河流の形勢及び都會との關係如何 (三一) 九州の河流及び都會と示せ (三二) 四國の河流及び都會を舉げよ (三三) 中國の河流及び都會を列舉せ

も、前後の照應を缺き、全體の脈絡關聯を失はんには、何に由るか學科の全豹を窺はん、天下豈に斯の如きの狹少迂遠を容れんや、是を以て本書は一ら科學上の順序を逐ひ、首尾の脈絡は毫も之を失はず、且つ徒らに技巧を凝して題目の増加を銜ふの陋を學はず、問題は學科の進行上特に記憶を要する點に向つて間投するを限りとし、唯々學者講究の便を計らんか爲に之を設くるのみ、此の如くにして始めて其の用廣く其の効大に、以て簡便捷速の世運に負かざるべきを知る

吾儕の信する所既に此の如し、而して唯々意行き才足らず、本篇また能く其の志望に達するを得ず、敢て大方の是正を仰く而已

明治二十七年十二月

編者識

日本地理問答目次

富山房編纂

第一章 總國篇

一頁

- (一)大日本の位置及び境界は如何 (二)周圍の海洋の名を問ふ (三)對岸諸國の名を問ふ
(四)經緯度及び廣袤幅員は如何 (五)周邊の長さは如何 (六)島嶼の位置及び大小の比較と示せ (七)四大島の名を問ふ (八)屬島の主なるもの及び其の大數と示せ (九)地勢の大要と示せ (一〇)山脈の趨向は如何 (一一)火山脈の配布は如何 (一二)南北兩部の比較如何 (一三)南日本の地勢と略述せよ (一四)南日本の中主要の山脈を問ふ (一五)南日本の火山脈と示せ (一六)南走山脈中の高山と列舉せよ (一七)北走山脈中の高山と舉げよ (一八)北日本の地勢は如何 (一九)北日本中主要の山脈を問ふ (二〇)北日本中の火山脈と舉げよ (二一)諸山脈中最も火山に富めるものは何なるや (二二)北日本の高山と舉げよ (二三)富士帶火山脈の形勢を問ふ (二四)富士山の位置及高さは如何 (二五)我が國火山の總數附地震 (二六)礦泉分數の有様は如何 (二七)本邦礦泉の種類を問ふ (二八)著名の礦泉と示せ (二九)礦産物及び其の産地と舉げよ (三〇)河流の形勢及び都會との關係如何 (三一)九州の河流及び都會と示せ (三二)四國の河流及び都會と舉げよ (三三)中國の河流及び都會と列舉せ

- (三) 山陽道第一の都會は何れ (三) 山陰道第一の都會と問ふ (三) 紀伊半島の河流及び都會は如何 (三) 琵琶湖東富士帯以西の河流及び都會と問ふ (三) 關東の河流及び都會と擧げよ (三) 本州第一の大平野と問ふ (四) 東北地方の河流及び都會と擧げよ (四) 我邦第一の長流は如何 (四) 日本海沿岸最大の平野は何れ (四) 北陸第一の都會と問ふ (四) 北海道の河流湖沼及び都會と示せ (四) 我邦第一の大河と問ふ (四) 北海道の大湖は如何 (四) 海岸の模様如何 (四) 海岸線の延長幾何 (四) 近海の模様と問ふ (五) 世界最深の海は何れなりや (五) 北海道の港灣は如何 (五) 本州東南海岸の港灣と擧げよ (五) 東京灣は何によりて形つくらるや (五) 大坂灣の各門口と示せ (五) 四國の沿岸並に瀬戸内海の港灣と問ふ (五) 瀬戸内海の各門口と擧げよ (五) 九州の沿海及び港灣は如何 (五) 岬灣の出入最も多きは何れの地方なるや (五) 日本海の沿岸及び港灣は如何 (六) 本州中央の地頭部とは何れぞ (六) 我が國沿海の潮流と示せ (六) 暖流の起點及び徑路と問ふ (六) 寒流の起點及び其の徑路と問ふ (六) 潮汐の景況如何 (六) 我が國近海中潮差の最も大なる地及び其の原因と問ふ (六) 氣候の大別と記せ (六) 寒暑の差少き地方及び寒暑の差大なる地方と擧げよ (六) 風位の梗概 (六) 夏日南風多き所以と問ふ (七) 冬日北風多き所以と問ふ (七) 暴風の起る原因と問ふ (七) 雨雲の量は如何 (七) 我が國の雨雪は主に如何なる所より來るか (七) 瀬戸内海沿岸地方の天候如何 (七) 梅雨の起因は如何 (七) 植物分布の狀況と示せ (七) 我が國森林地の廣さ如何 (七) 動物の種類は如何 (七) 極南地方と極北地方との動物の相違如何 (八) 0

- 邦制の大体及び沿革と略述せよ (八) 管轄及び里程一覽表 (八) 各府縣市區一覽表 (八) 外交の沿革と略叙せよ (八) 我邦の制度及び立法部の組織如何 (八) 司法上の組織と略記せよ (八) 行政部の組織は如何 (八) 租税の種類と擧げよ (八) 族制及戶數人口と擧げよ (八) 一方里の平均人口と問ふ (八) 一月平均の人口如何 (九) 都府の大なるものと示せ五萬以上 (九) 兵役の種類と問ふ (九) 軍事の監督及び教育は如何 (九) 陸軍の編制及び配置と記せ (九) 砲臺の位置と記せ (九) 海軍區の分割と問ふ (九) 海軍の編成は如何 (九) 教育機關の組織如何 (九) 小學教育上の統計と示せ (一〇) 學齡兒童の數及び不就學者との比例如何 (一〇) 宗教及び社寺の有名なるものと列擧せよ (一〇) 宗派の數及び名目は如何 (一〇) 土地の種類と問ふ (一〇) 官有地と民有地との比例は如何 (一〇) 耕地の面積は如何 (一〇) 鐵道の延長は幾何なるや (一〇) 郵便及び電信 (一〇) 條約國名と列擧せよ (一〇) 輸出入の主要なるものと擧げよ (一一) 四方海に接せざる國は如何 (一一) 近海に於ける航路の難所は如何 (一一) 美術の起原及び其發達は如何 (一一) 農産の梗概 (一一) 牧畜の大略と記せ (一二) 工産物の大略と記せ (一二) 漁業は如何 (一二) 道路の區別と記せ (一二) 航路の大略と記せ (一二) 内國商業の有様は如何 (一二) 外國の貿易の景況如何 (一二) 特別輸出港と列擧せよ

第二章 東海篇……………六八頁

- (一三) 東海道の位置境界は如何 (一三) 東海道中有名の山脈と擧げよ (一三) 東海道の氣

- 候は如何 (二三) 關東諸國の形勢は如何 (二三) 關八州の國名は如何 (二三) 東京及び其の沿革は如何 (二六) 東京の驛路井に貨物運輸の景況を問ふ (二九) 鐵道の起點を問ふ (二九) 横濱の景況と記せ (二三) 横濱より外國に至る航路を問ふ (二三) 横須賀浦賀附近の形勢如何 (二三) 東洋第一の造船所及び其の位置を問ふ (二三) 鎌倉江ノ島の形勢如何 (二二) 小田原箱根附近の都邑と擧げよ (二三) 關東平野中東京以北の都會 (二三) 秩父地方の形勢如何 (二六) 東京市水道の起端を問ふ (二九) 利根下流の都會及び産物の著名なるものと記せ (二〇) 常陸の形勢及び都會と擧げよ (二四) 房總半島の形勢及び産物如何 (二四) 富士帶地方の形勢は如何 (二四) 甲斐の地勢は如何 (一四四) 甲斐の産物は如何 (二四) 伊豆の地勢は如何 (二四) 伊豆の温泉は如何 (二四) 伊豆の産物は如何 (二四) 豆南諸島及び小笠原島の形勢を問ふ (二四) 八丈島の産物は如何 (二五) 小笠原島の沿革及び産物は如何 (二五) 駿河の地勢及び河流を記せ (二五) 駿河の形勢及び産物を問ふ (二五) 東海道中第一の勝地は何れなるや (二五) 静岡の沿革は如何 (二五) 遠江の山川都邑及び産物を問ふ (二五) 今切の沿革如何 (二五) 遠州灘航行の困難 (二六) 東海道西部諸國と關東諸國との比較を示せ (二五) 參河の山川都邑及び産物を問ふ (二六) 參河灣は何によりて形つくらるや (二六) 伊勢内海の門口となすものは何なるや (二六) 尾張の山川都邑及び産物を擧げよ (二六) 三府に次ける大都會は何れ (二六) 名古屋の名産は如何 (二六) 伊勢の山川都邑交通及び産物の概略を示せ (二六) 皇廟の所在地を問ふ (二六) 東京より神廟巡拜の順路を示せ (二六) 二見浦の位置は如何 (二六) 志摩半島の形勢如何

- (二七) 鳥羽港の盛衰を問ふ (二七) 伊賀の地勢都會及び産物を問ふ (二七) 東海道の市制地と列擧せよ

第二章 畿内篇

八七頁

- (二七) 畿内の位置井に地勢を略記せよ (二七) 全國第一の美術地とは何れぞ (二七) 全國第一の工業地は如何 (二七) 畿内の國名を問ふ (二七) 京都の所在は如何 (二七) 京都の勝地と擧げよ (二七) 山城の地勢及び産物を問ふ (二八) 大和の地勢及び都會を問ふ (二八) 奈良の沿革は如何 (二八) 舊都吉野の所在を問ふ (二八) 全國第一の櫻花の勝地は何れぞ (二八) 大坂の地勢を略記せよ (二八) 大坂の沿革は如何 (二八) 外國貿易の景況は如何 (二八) 鐵道の起點を問ふ (二八) 釀酒の名地は如何 (二八) 神戸の形勢如何 (二八) 神戸の外國貿易の景況は如何 (二九) 湊川神社の所在は (二九) 福原の由来を問ふ (二九) 攝津の山川及び名勝を問ふ (二九) 河内の山川及び産物を問ふ (二九) 金剛山の位置を問ふ (二九) 和泉の都會と擧げよ (二九) 堺港の盛衰を問かん (二九) 畿内の市制地を問ふ

第四章 東山篇

九四頁

- (二九) 東山道の位置及び地勢を略記せよ (三〇) 本州大河の發源地とは何れ (三〇) 東山道の國名を問ふ (三〇) 近江の山川都邑を問ふ (三〇) 我邦第一の大湖及び其の四邊の都

會は如何 (二〇四) 關ヶ原の位置を問ふ (二〇五) 美濃の山川都會及び産物を擧げよ (二〇六) 平野の大なるものを擧げよ (二〇七) 中仙道中央部の形勢如何 (二〇八) 全國第一の高地は何れなるや、又其の地方に聳ゆる高山の名を述べ (二〇九) 飛騨の都會及び産物を問ふ (二一〇) 信濃の山川都會及び産物を略記せよ (二一一) 信濃の名刹を問ふ (二一二) 我國に於て鐵道にアプト式を用ゆるは何れぞ (二一三) 日本武尊東望詠嘆の地は何れぞ (二一四) 川中島の位置は如何 (二一五) 觀月の勝地は何所なるや (二一六) 生絲の産額最も多きは何れなるや (二一七) 中仙道東部の地勢は如何 (二一八) 上野下野の山川名勝及び産物を問ふ (二一九) 我國第一の製絲場は何れにあるや (二二〇) 日光山の縁起及び景況は如何 (二二一) 會津諸郡の山川都會及び産物を示せ (二二二) 阿武隈上流地の山川及び産物を問ふ (二二三) 陸前の山川都邑名勝及び産物を擧げよ (二二四) 東山道第一の都會は如何 (二二五) 松島の位置及び風景は如何 (二二六) 北上川上流地の山川都邑を問ふ (二二七) 衣川柵の位置如何 (二二八) 陸奥の山川都邑及び産物を擧げよ (二二九) 羽前の山川都邑及び産物は如何 (二三〇) 羽後の山川都邑及び産物を記せ (二三一) 東山道の氣候を問ふ (二三二) 東山道中の市制地を問ふ (二三三) 東山道南北二部の比較を示せ

第五章 北陸篇

一〇九頁

(二三四) 北陸道の地勢及び區劃如何 (二三五) 北陸道西部の山川都邑及び産物を擧げよ (二三六) 新田義貞戦死地の所在を問ふ (二三七) 加賀の山川都邑及び産物は如何 (二三八) 九谷燒の

産地は如何 (二三九) 能登の山川都邑及び産物を擧げよ (二四〇) 日本海沿岸中第一の製鹽地は何れ (二四一) 輪島漆器の産地は何れ (二四二) 越中の山川都邑及び産物を記せ (二四三) 越後の山川都邑及び産物は如何 (二四四) 新潟の形勢如何 (二四五) 佐渡の山川都邑及び産物 (二四六) 日本海中の金庫とは何れなるや (二四七) 順徳天皇の御陵の所在は如何 (二四八) 本道の氣候は如何 (二四九) 本道中の市制地を問ふ (二五〇) 北陸道東西兩部の比較を示せ (二五一) 東海道と北陸道との比較を示せ

第六章 山陰篇

一一七頁

(二五二) 山陰道の位置地勢及び區劃如何 (二五三) 中國とは何れの部分の名稱なるや (二五四) 山陰道の國名を問ふ (二五五) 丹後丹波の山川都邑及び産物を示せ (二五六) 天ノ橋立の位置及び風景は如何 (二五七) 但馬の山川都邑及び産物は如何 (二五八) 生野銀山の在所を問ふ (二五九) 因幡の山川都會及び産物を擧げよ (二六〇) 伯耆の山川都邑及び産物如何 (二六一) 中國第一の高山を問ふ (二六二) 船上山の所在は如何 (二六三) 出雲の山川都邑及び産物は如何 (二六四) 大社の位置及び祭神を問ふ (二六五) 石見の山川都邑及び産物如何 (二六六) 中國第一の大河の名を問ふ (二六七) 隱岐の山川都邑及び産物を擧げよ (二六八) 後鳥羽天皇山陵の所在を問ふ (二六九) 山陰道の氣候(北陸道との比較)は如何 (二七〇) 山陰道の市制地を擧げよ

第七章 山陽篇

一二五頁

- (二五二) 山陽道の位置地勢及び區劃如何 (二五三) 海岸の有様如何 (二五三) 播磨の山川都會及び産物と問ふ (二五四) 美作備前の山川都邑及び産物と問ふ (二五五) 児島高德勃興の地は何れなるや (二五六) 長船刀劍と産せし地方は何れなるや (二五七) 備中の山川都會及び産物と問ふ (二五八) 備後の山川都邑及び産物如何 (二五九) 江ノ川の上流と問ふ (二六〇) 安藝の山川都邑及び産物と問ふ (二六一) 中國第一の大都會は何れなるや (二六二) 嚴島の位置及び風景如何 (二六三) 周防の山川都邑及び産物と問ふ (二六四) 錦帯橋の所在如何 (二六五) 長門の山川都邑及び産物と問ふ (二六六) 防長の三關は何々 (二六七) 馬關の形勢如何 (二六八) 檀ノ浦の所在と問ふ (二六九) 山陰道の氣候と略述せよ (二七〇) 山陽道の市制地と舉げよ (二七一) 山陰山陽兩道の比較と示せ

第八章 南海篇

一二三頁

- (二七二) 南海道の形勢如何 (二七三) 南海道の國名と問ふ (二七四) 紀伊の山川都邑及び産物と問ふ (二七五) 和歌浦の所在と問ふ (二七六) 本州第一の大瀑布及び其の所在と問ふ (二七七) 良好なる密柑の産地と問ふ (二七八) 淡路の山川都邑及び産物と問ふ (二七九) 淡路の三海峡と舉げよ (二八〇) 我が國第一人口の稠密なる土地は如何 (二八一) 阿波の山川都會及び産物と問ふ (二八二) 四國第一の大河は如何 (二八三) 我が國第一の産藍地は何れ (二八四) 讃岐の市制地は如何

第九章 西海篇

一四三頁

- (二八五) 西海道の位置地勢と略記せよ (二八六) 西海道の國名と問ふ (二八七) 九州の海岸は如何 (二八八) 豐前の山川都邑及び産物如何 (二八九) 耶馬溪の所在 (二九〇) 宇佐廟の所在と問ふ (二九一) 豐後の山川都邑及び産物如何 (二九二) 筑後川の發源地は如何 (二九三) 筑前の山川都邑及び産物と問ふ (二九四) 太宰府の所在 (二九五) 筑後の山川都邑及び産物如何 (二九六) 九州第一の大河は如何 (二九七) 肥前の山川都邑及び産物如何 (二九八) 九州第一の沃野とは何れ (二九九) 我が國第一の良港は如何 (三〇〇) 唐津陶器の産地は何れ (三〇一) 肥後の山川都邑及び産物と略記せよ (三〇二) 九州第一の農産國は何れ (三〇三) 九州第一の急流とは何川 (三〇四) 九州第一の大火山は如何 (三〇五) 日向の山川都邑及び産物如何 (三〇六) 日向の沿海地は如何 (三〇七) 高千穂宮趾の所在と問ふ (三〇八) 大隅の山川都邑及び産物如何 (三〇九) 鹿兒島灣の口と扼するは何々 (三一〇) 西南海上諸島の形勢如何 (三一〇) 西南諸島居民の風習如何 (三一〇) 西南諸島中琉球に最も近きは何島なるや (三一〇) 薩摩の山川都邑及

ひ物産如何 (三三三) 薩摩の七島とは何々なるや (三三四) 薩摩産の馬は如何 (三五五) 九州の氣候を略述せよ (三五六) 九州の雨量は如何 (三三七) 西海道の市制地と問ふ (三三八) 豊岐の山川都邑及び産物如何 (三三九) 耕作方は如何 (三四〇) 對馬の山川都邑及び産物如何 (三四一) 對馬の國防的形勢如何 (三四二) 對馬島民の狀況如何 (三四三) 琉球諸島の形勢を略述せよ (三四四) 琉球の氣候は如何 (三四五) 沖縄群島の形勢都邑及び産物と略述せよ (三四六) 琉球諸島中最大なるは何島なるや (三四七) 琉球諸島中風景絶佳の地は何れ (三四八) 宮古群島の形勢都邑及び産物と擧げよ (三四九) 八重山群島の形勢都邑及び産物と記せ (三五〇) 我が國版圖の極西は如何 (三五二) 我が邦版圖の極南は如何

第十章 北海篇……………一六三頁

(三三三) 北海道の位置形勢及び區劃如何 (三三三) 北海道の國名は如何 (三三四) 千島の由來如何 (三三五) 形狀は如何 (三三六) 北海道の氣候及び産物の總括 (三三七) 我が版圖中世界の流場と稱せらるゝは何れの地方なるや (三三八) 渡島の山川都邑及び産物 (三三九) 箱館の形勢及び氣候は如何 (三三〇) 津輕海峡の東西門口と問ふ (三三一) 後志の山川都邑及び産物と問ふ (三三二) 小樽港の所在と問ふ (三三三) 石狩の山川都邑及び産物と記せ (三三四) 北海道第一の大河と問ふ (三三五) 我が國第一の瀑布は何れにありや (三三六) 北海道第一嚴寒の地は何れ (三三七) 札幌及びひらの近傍の形勢如何 (三三八) 北海道の炭礦と擧げよ (三三九) 天鹽の山川都邑及び産物と問ふ (三三〇) 北見の山川都邑及び産物如何 (三三一) 北海道第一の太湖

日本地理問答目次畢

(三三二) 北見の氣候は如何 (三三三) 宗谷地方と網走地方との比較と示せ (三三四) 膽振の山川都邑及び産物と擧げよ (三三五) 日高の山川都邑及び産物と問ふ (三三六) 日高の氣候と問ふ (三三七) アイヌの風俗と記せ (三三八) アイヌ人の最も多く住居する地は何れ (三三九) 十勝の山川都邑及び産物と問ふ (三四〇) 釧路の山川都邑及び産物と問ふ (三九二) 根室の山川都邑及び産物と問ふ (三九三) 根室の形勢如何 (三九四) 千島諸島の形勢を略記すへし (三九五) 地積は如何 (三九六) 氣候は如何 (三九七) 海産は如何 (三九八) 千島列島と南北に分つ海峡と何といふや (三九九) 色丹島の形勢如何 (四〇〇) 列島中最も殖民に適する地は何れ (四〇一) 地味は如何 (四〇二) 國後島の形勢と問ふ (四〇三) 擇捉島は如何 (四〇四) 得撫島の住民と問ふ (四〇五) アンタクト人の風俗は如何 (四〇六) 新知島の有様と問ふ (四〇七) プロットン港の景況如何 (四〇八) 新知島の住民は如何 (四〇九) 恩福古丹島の形勢と記せ (四一〇) 幌筈島は如何 (四一一) 占守島の形勢を略述せよ (四一二) 千島列島中の良港と何といふや (四一三) 千島土人の風俗如何 (四一四) アイヌ人との比較如何 (四一五) 阿頼渡島の形勢如何 (四一六) 我が邦版圖の最北は如何 (四一七) 北海道の沿革と略叙すへし (四一八) 總括 (沿革)

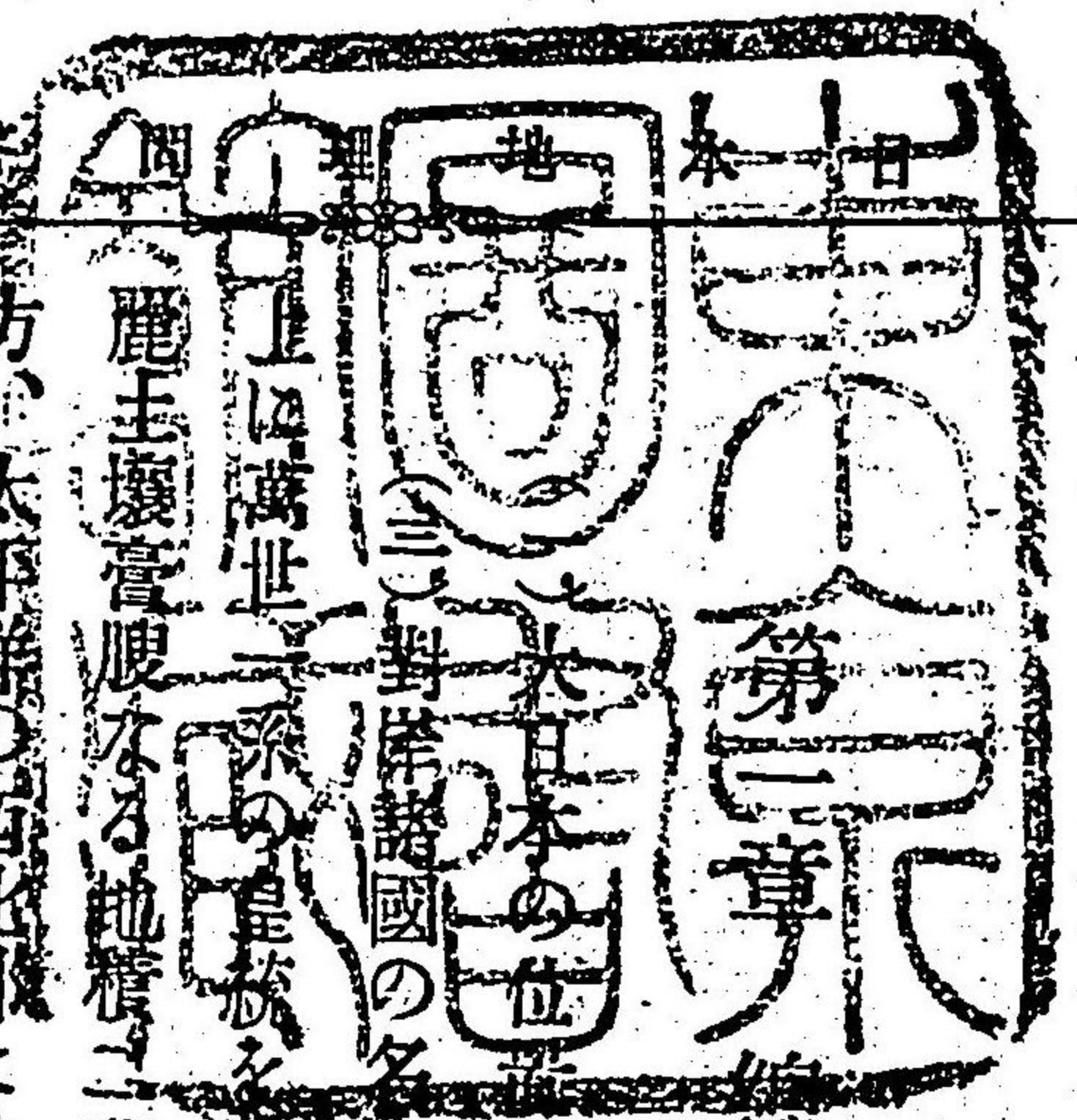
昔伊弉諾尊目此國。曰日本者。浦安國。細戈千足國。磯輪上秀真國。復大己貴大神目之。曰玉牆內國。及至饒速日命乘天磐船而翔行太虛也。睨是鄉而降之。故因目之曰虛空見日本國矣。神武天皇三十有一年。夏四月乙酉朔。皇興巡幸。因登腋上曠間丘。而廻望國狀。曰。妍哉乎。國之獲矣。雖內木綿之真。迨國。猶蜻蛉之聲吐焉。由是始有秋津洲之號也。

日本地理問答

總國篇



山房編纂



及ひ境界は如何 (二) 周圍の海洋の名を問ふ

(1) 滿州朝鮮支那に對す

答 方、太平洋の西北部に屹峙し、四個の大島と無數の小島とより成り、北はオオノスノ海及魯領カムサツカ半島に接し、東南は縹漫たる太平洋にして遙に北亞米利加洲及び南洋諸島に面し、西は日本海東海を隔て、樺太

(四) 經緯度及び廣袤幅員は如何 (五) 周邊の長さは如何

國の極南、北緯廿四度〇六分硫黃島は北回歸線を距る僅に半度に在りて殆んど熱帶に入らんとし、極北、北緯五十六度五十六分オオコッソク海の門口をなせる千島群島のアライト島北緯五十六度五十六分は北極圈を距ること十五度半、其の間實に二十六度五十分の廣かりを有し首尾全く温帶中に在り、又其の極西端なる英國綠威東經百二十二度四十六分より極西端なる千島海峡を以て魯領カムサツカ半島に對する占守島全上百五十六度三十二分に至るまで經度三十四度強、時差凡二時十五分餘なり、而して其西南端より斜に東北端に至る延長は一千一百五十里許、幅三十里より百二十里の間を出入し、周邊凡そ七千零二十九里餘面積二萬四千七百九十四方里餘なり、

(六) 島嶼の位置及び大小の比較を示せ (七) 四大島の名を問ふ

(八) 屬島の主なるもの及び其の大數を示せ

我が國を形成する諸島中最大にして且つ中央に位するものを本州と稱す、其の地形狹長にして中央彎折し首尾を以て日本海を抱擁す、全長凡五百餘里幅の廣き所は百里に垂んとし面積全國の十分の六を占む、本州の西南に當り大さ本州の十分の六なるもの之を九州と稱し、本州と九州との間に介り東西長く南北は狹く其大さ九州の半に相當するものを四國とし、本州の北に在りて大さ本州の三分の一即ち九州の二倍に相當するものを北海道島といふ、其他本州と四國の間にあるを淡路とし、日本海に在るものを佐渡隱岐とし、日本海の咽喉を扼するものを壹岐對馬とし、北海道の東北に在りてオオコッソク海の門戸を成すものを千島諸島三十個とし、本州中央部の南に連る一列の島鎖を豆南諸島と云ひ、更に其の南に在る一群を小笠原島四十七個といひ、九州の南に在るを琉球諸島五十個と名

く本州以下の島嶼之を數ふれば無慮二千有餘なり

(九) 地勢の概要を示せ (一〇) 山脉の趨向は如何

(一一) 火山脈の配布は如何

(4)

我が國は西南より斜に東北に延長し中央一大磔折をなす、是れ此の國土を構成する所の二大山系の方向に依るものなり今之を細説せん其一是亞細亞大陸支那山彙の餘派を受けて西南より東北に蜿蜒し國の南半を成すもの之れを南部山系と稱し、他の一は樺太島と其脈を通して殆んど南北に連亘し以て國の北半を成すもの之れを北部山系と稱すへし、此二大山系の會合する所は即ち本州中其幅最も廣く地勢亦最も高峻を極むる彼の磔折地なり

此二大山系の他別に三大火山脈あり、南北兩山系の會合する所に於て本州を南北の二部に兩斷するものを富士帶火山脈とし、南方九州の地に現るるものを霧島帶火山脈とし北部山系の北端を横斷して北海道の地に現はるるものを千島帶火山脈といふ

此の二大山系及び三大火山脈を以て本邦の骨髄脊梁を形成す

(三) 南北南部の比較如何

(5)

中央の磔折地富士帶火山脈の在る所を以て分界線となし以南を南日本とし、以北を北日本となし、而して此二部を比較するときは左の格段なる異點を認む

南日本

○南部山系其の骨髄となす

●川流及び平地は其規模小なり

●黒潮(暖流)其海岸を浸し氣候溫暖なり

●南端(琉球)の地は熱帶の動植物を産す

●日本民族の舊地にして人文夙に開けたり

(三) 南日本の地勢を略述せよ

(五) 南日本の火山脈を示せ

我が國南半の脊梁をなせる南部山系は支那山彙の餘派なること既に之を説けり蓋し西藏高原より派出して黄河楊子江間を蜿蜒し東海の邊に於て

北日本

○北部山系其の骨髄となす

●川流及び平地は其規模大なり

●親潮(寒流)其海岸を洗ひ寒暑の差甚し

●北端(千島)の地は寒帶の特産なる美麗の毛皮を有する動物に富む

●蝦夷人の舊土にして開明の漸化大に遅し

(四) 南日本の中主要の山脈を問ふ

(6)

其跡を晦ませる北嶺の再び海を出で、崛起するものなるべし、其の九州の地に現るゝや二個の起程點を有せり其の一は九州の西南部に於てし他の一は西北部に於てし共に相駢んで國の中央(南北兩山系の會合點)に聚合す、其の太平洋の側に在るものを南走山脈とし日本海の側に在るものを北走山脈と稱す

南走山脈は程を薩摩の地に起し九州の東岸佐賀關に至りて一旦豊後洋に没し出て、四國の脊梁となり、再び紀伊海峽に没して遂に本州に入り紀伊半島の骨髄をなし志摩半島を去りて三たひ伊勢内海の底に没し三たひ參河の地に上り遠江を経て集合點に達す、北走山脈の起點は肥前に在り其の本州に入らんとして一たひ海底に没する所を赤間關といふ既にして本州に入るや中國を南北に横斷して其の分水界をなし琵琶湖北を過ぎて東北走し連山重疊以て中央集合點に一層の高峻を加ふ霧島帶火山脈は九州の南部多良岳温泉岳ワンセンに起りて霧島山五五四を成し高

(7)

千穂、櫻島、海開諸山に連りて西南琉球諸島に及び阿蘇帶火山脈は九州の中央に蟠蝸して九州の最大火山なる阿蘇山肥後五二を起し餘勢四國の石槌山に及ぶ又東北日本海の岸に沿うて斷續せる火山脈あり青野、三瓶、大山、立山等諸山を噴起せり以上南北兩走山脈と霧島帶阿蘇帶及び日本海沿岸の火山脈とを以て南日本之地を構成す

(二) 南走山脈中の高山を列舉せよ

- | | | | | | |
|-----|----------------|-----|----------------|-----|-----------------|
| 市房山 | 日向、六〇〇 | 祖母岳 | 豊後、日向五
六四六尺 | 劍山 | 土佐、七三九
八尺 |
| 高野山 | 紀伊、二六七
三尺 | 秋葉山 | 遠江、一八五
九尺 | 赤石山 | 信濃、遠江一
〇一三五尺 |
| 駒ヶ岳 | 甲斐、信濃九
九〇〇尺 | 石槌山 | 伊豫、土佐九
四三八尺 | | |

(三) 北走山脈中の高山を舉げよ

- | | | | | | |
|-----|-----------------|-----|--------------|-----|-----------------|
| 雷山 | 筑前、肥前三
二六七尺 | 徳佐峰 | 石見、三二六
七尺 | 英彦山 | 豊前、三三六
六尺 |
| 鎗ヶ岳 | 飛騨、信濃一
一六五二尺 | 御嶽 | 信濃、一〇五
二尺 | 乗鞍山 | 飛騨、信濃一
〇四五二尺 |

駒ヶ岳

信濃、七八二〇尺

惠那山

信濃、七〇九二尺

(一八) 北日本の地勢は如何

(一九) 北日本中主要の山脈を問ふ

(二〇) 北日本中の火山脈を擧げよ (二一) 諸山脈中最も火山に富めるものは何なるや

北日本は本州の東北部と北海道とより成る、北海道の山脈は北端樺太に對する宗谷岬より南端襟裳崎に達するものを主軸とし、東北千島諸島より來りて本島の東北端知床岬に上り斜に道の中央部を西南走するものを千島帯火山脈とす、

北海道には火山脈尙ほ二あり一は襟裳崎の西方室蘭岬より石狩海に達し、一は噴火灣の東南端惠山岬より西北に走る、此二火山脈は主として北海道西南部の骨格をなせり

本州の東北部には三派の山脈あり、一は東北端より遙に南方の内地に起程し近く太平洋岸に沿うて南走し仙臺灣に至りて一旦海底に沈み更に阿

武隈河口の南方に出て、再び隆起し漸く内地に屈曲す是實に南日本の南走山脈に應ずるものなり、二は日本海に沿うて南走する火山脈にして宛も南日本の沿岸火山脈に於けるが如く一連の山脈をなすことなし、三は其の中間に駢走せるものにして尻矢岬に發程し本州東北部の中央を南走し漸く首を西方に轉し那須岳磐城岩代下野の境に至りて俄に西折し以て中央會合點に達する一大山系なり此脈は東北諸州の分水界をなすを以て又分水山脈と稱し、本邦諸山脈中最も火山に富めるものとす

(三二) 北日本の高山を擧げよ

早池峯山 <small>ハヤチノネ</small>	陸中、六三〇三尺	入溝山 <small>ハツコウ</small>	常陸、磐城三三三三尺	筑波山 <small>ツクバ</small>	常陸、二八九七尺
八甲田山 <small>ヤチノネ</small>	陸奥、六一一四尺	岩手山 <small>イハテ</small>	陸中、七〇一六尺	月山 <small>グワツ</small>	羽前、六四八六尺
男体山 <small>オウタイ</small>	下野、八一九四尺	白根山 <small>シラネ</small>	下野、七九二〇尺	岩木山 <small>イハキ</small>	陸奥、五二六〇尺
鳥海山 <small>トウカイ</small>	羽前、羽後七一八尺	阿寒岳 <small>アヒノ</small>	釧路、四七九〇尺		

(三)富士帶火山脈の形勢を問ふ (四)富士山の位置及高さは如何
 南北兩山系の會合點即ち中央礮折の地を南北に横過せる富士帶は我が國
 第一の高山富士山甲斐、駿河一二四六七尺を以て主軸となし南北に分走す、其の南に
 走るものは函根山、天城山より大島の三原山、八丈島の甌峯となり、北
 に趨くものは八ヶ岳蓼科山妙高山等となり焼山に終る

(五)我が國火山の總數附地震

我が國は富士、霧島、千島三帶の大火山脈を主とし國の南端より北端に
 至るまで到る所火山の噴起せざる所なき世界著名の火山國にして現今活
 火山三十八座、消火山百三十四座總數實に百七十二座に上れり、故に地
 震の度數甚だ多く震動の勢亦激烈なるを常とす

(六)礦泉分數の有様は如何

礦泉は火山に伴ふものなれば全國到る所之れ無きはなし、而して其最も
 多き地は本州の東北部、中央富士帶の連亘する東山道併に伊豆半島、及

ひ九州にして南日本の日本海沿岸及び北海道東部の地之に次ぎ、北海道
 の西部及び四國の地は甚だ少し、其總數千有餘にして最著名なるものも
 尙は四百に餘れり

(七)本邦礦泉の種類を問ふ (八)著名の礦泉を示せ

本邦の礦泉は硫黃質のもの最多く、鹽質及び鹽類質のもの之に次ぎ、炭
 酸質鐵質を帶ふるものは極めて少し、今其の最も著名なるものを擧ぐれ
 は上野の草津、伊香保、伊豆の熱海、伊豫の道後等は硫黃泉にして下野
 の鹽原、攝津の有馬等は鹽泉、豐前の古湯、豐後の別府、出雲の頓原等
 は炭酸泉なり、又七湯の名ある箱根に於ては蘆の湯は硫黃泉、塔ノ澤、
 堂ヶ島、宮ノ下は鹽泉、湯本は鐵泉なり

(九)礦産物及び其の産地を擧げよ

礦物も亦概して火山地方に多し九州に於ては阿蘇山の硫黃、四國にては
 別子の銅山及び市川の安質母尼鑛山あり、中國にては笹ヶ谷銅山、大森

銀山(石見)生野銀山(但馬)あり、又砂鐵、滿庵を産すること頗る多し、東北地方には尾去澤、小真木の銀銅鑛(陸中)院内銅山(羽後)足尾銅山及び佐渡の金銀鑛あり、北上川山系には鐵鑛多く、千島帯には硫黄多し、又滿庵は北海道四國、上野、能登等にも之を産せり、石炭は肥前の高島、筑前、筑後の諸炭礦及び北海道を主とし、石灰は豊前長門、大理石は美濃常陸、花崗石は鉾津、水晶は若狹、甲斐等より産出す

(三〇) 河流の形勢及び都會との關係如何

地圖を披いて一見せば即ち知らん我國は地形狹長にして高峻なる山脈其の脊梁を爲せることを、從て又一年間降雨の量頗る多く水流極めて夥しきに拘らず江河の舟楫灌溉の利を與ふるものに乏しきを知らん、而して地理を修むるに山脈の形勢に従ひ各河流及び其の灌漑の大要を説くと同時に著名の都會を示すを便なりとす蓋し河流の近傍は灌漑運輸の便あるを以て人烟の稠密、製造商賈の繁盛は必ず之に伴ふものなり、彼の東京、

大坂、名古屋、新潟の如き大都會は皆河川の灌漑する平原に立てるを見て知るべし

(三一) 九州の河流及び都會を示せ

九州の分水界をなす所の諸山脈は其中央を通して南走す而して其西岸は地勢稍々開豁なるを以て川流も亦長大なり、筑後川、白川、玖摩川、川内川皆西流す等是なり

筑後川は一名を筑紫二郎と稱し九州第一の大河なり、沿岸の地膏腴にして農産に富み久留米、柳川、佐賀市の如き皆其の間に在り、分水界の東區即ち大隅半島より國東半島ノコサキに至るの地日向は地勢稍々平坦なれども川流の巨大なるものなく皆東流して海に注ぐ大淀川、佐土原川一名一高鍋川、下流に高鍋あり五箇瀬川下流に延岡あり等是なり

國東半島以北分水脈以外の地は河流皆北走し、佐賀關海峽に注ぐ大野川、玄界灘に注ぐ遠賀川テングは其主なるものなり

(三) 四國の河流及び都會を擧げよ

四國は所謂四國山系其の中央を通して東西に連亘し地勢東南北三面に向て低下するを以て河流も亦三方に向て注ぐ然れども皆細流にして灌域と稱すへき平坦の地全くなし獨り吉野川三國長大にして沿岸は藍の産獲に富み東流して海に注ぐ河口の南に徳島市あり、南流するものは西南の渡川、中央の仁淀川二國稍々大なり、仁淀川の下流に高知市あり、松山、丸龜、高松は瀬戸内海沿岸の平地に在り

(三三) 中國の河流及び都會を列擧せよ (三四) 山陽道第一の都會は何

(三五) 山陰道第一の都會を問ふ

中國の地は分水山脈其の中央を通して東西に連亘するを以て河流も亦正しく南北流す獨り江河山南道山陽の地に發源し山脈を横斷して北流し日本海に注ぐ

其の南流するものは吉井川東大旭川西大河邊川大最大なり、吉井川の上流

に津山あり、旭川には勝山あり又其の下流に岡山市あり、河邊川には高梁あり、廣島市は太田川の河口に在りて山陽道の大都會なり、又其の北流するものは簸ノ川、日野川、千代川加露等稍々大なり、簸ノ川の東方尖道湖シムダの東岸に松江市山陰道第一の都會あり、又其の東方中海湖口に境港あり、千代川の下流に鳥取市あり、

(三六) 紀伊半島の河流及び都會は如何

此に紀伊半島と稱するは琵琶湖及び其下流即ち宇治川淀川以南の地を云ふなり此の地は紀伊山脈その中央に蟠廻するあるを以て河流從て四方に向ふ宮川東流熊野川南流大和川北流は其の大なるものなり、宮川河口に山田あり其の以北沿海の地に松坂、津、四日市あり、熊野河口に新宮シシヅカあり、紀ノ川の下流に和歌山市あり、大和川の上流には奈良(中流は河内木綿の産地)下流には堺市あり、

琵琶湖沿岸の地は田野遠く開け東南岸は地勢殊に平坦にして長濱、彦根、

草津、大津等の諸市街あり、流末の宇治淀二川の灌漑には京都、大坂の二大都府あり、

(三七)琵琶湖東富士帶以西の河流及び都會を問ふ

此の地は赤石山系、木曾山系、飛彈山系の蟠廻するを以て川流從て多く且つ長大なり、其の南流するものは木曾川ナガノ川、天龍川、大井川、富士川にして北流するものは日野川、黒部川、射水川、神通川なり、

木曾川の灌漑は所謂濃尾の平原にして大垣、岐阜、名古屋、桑名等の名邑大市あり、神通上流の地に高山あり下流に富山市あり、射水下流に高岡及び伏木港あり、

(三八)關東の河流及び都會を舉げよ (三九)本州第一の大平野を問ふ

關東の地は本州第一の大平野にして四方大凡三四十里利根川坂東太郎其の中央の大部を灌漑し其の西には隅田、多摩、馬入諸川あり、東には那賀

川あり、皆東南流して海に注ぐ隅田河口東京灣に瀕する所には帝都東京あり

利根川支流鬼怒川、分流江戸川の沿岸には有名なる市邑多し、前橋、高崎、宇都宮、栃

木、佐倉、關宿、銚子等是なり、又其下流の地は卑濕にして湖沼多し、

北にあるものは霞浦周圖三北浦にして、南に在るものは手賀沼、印幡沼、十二里長沼等なり

(四〇)東北地方の河流及び都會を舉げよ (四一)我邦第一の長流は

如何 (四二)日本海沿岸最大の平野は何れ (四三)北陸第一の都會を問ふ

本州東北部の太平洋に濱する地は所謂奥の平野にして北上阿武隈の二大河南北流して中央仙臺灣に注ぎ以て此地を灌漑す、此の地方と腹背相接する日本海沿岸の地は山脈海岸に近く又所々に沿岸火山脈の噴起するを以て、最上川、雄物川、岩木川、能代川等皆長大ならずと雖も關東の

平野と南北相對する越後の地は我邦第一の長流なる信濃川里百及び阿賀川の貫通するに會し兩河の灌域殆んど四十里に亘り日本海沿岸唯一の大平野をなす

北上川の上流に盛岡、中流に一ノ關、河口に石巻あり、阿武隈川の上流に白河、中流に福島あり、兩河口を連接する沿岸に仙臺市あり

信濃川の上流なる千隈川の沿岸に小諸、上田、松代あり、又其の支流なる犀川の沿岸には松本あり二川會合點の東北に長野あり、其の下流に飯山信長岡越あり、其の河口三角洲をなせる地には北陸第一の都會なる新潟港あり

最上川には米澤、山形あり、雄物川には秋田あり、岩木川には弘前あり

(四) 北海道の河流湖沼及び都會を示せ (五) 我邦第一の大河を

問ふ (四) 北海道の大湖は如何

北海道の地は其の西南の地頸部を除くの外は地形本州の如く狹長ならず

東西南北の幅員略相等しく山岳も亦多くは急峻ならざるを以て水勢緩徐本邦第一の大河石狩川百六十七里を涵養せり、又此地の河流は土砂の堆積によりて河水停滞し所々に湖沼を成せるもの多し、その西流するものは石狩川天鹽川にして、南流するものは十勝川、釧路川なり、北流するものに至ては長大なるものなく只湧別ユツベツ、常呂トコロ、網走アバシリの三川を稍大なりとす、又道の西南地頸部にあるものは後志河なり

石狩川の下流(二小支流の畔)に札幌あり、天鹽川の河口に天鹽あり、十勝川支流の源頭に然別チンベツあり、釧路河口に釧路あり、釧路川は水勢甚た緩徐なるを以て小舟に楫して源頭釧路湖に達し得へし、釧路湖西に阿寒湖あり、其の南方に摩周湖マシウあり阿寒湖の水は阿寒川となり、釧路川と東西相對して流れ海岸に近きて合流す

根室の南方フカレン楓蓮河口に同名の湖周圍十あり本道第二の大湖なり湧別常呂兩川口の間周圍十にサルマ湖八里あり之を本道第一の大湖とす、網走河口

に網走港あり

(四七) 海岸の模様如何 (四八) 海岸線の延長幾何

我邦の海岸は日本海沿岸の地及び北海道の東岸に於て稍單一なりと雖も概するに凹凸甚しく港灣の數四百六所海峡の數六十二個にして海岸線の延長合計一萬五千三百里に及べり、之を面積に比するに大約四方に付、一里の海岸を有する割合なりとす

(四九) 近海の模様を問ふ (五〇) 世界最深の海は何れなりや

我國は地勢急峻なるを以て四周の海水概して深し、特に千島諸島の東南マスカロラ海床は世界最深の所と稱し深さ大約四千乃至五千尋なり、彼の朝鮮に對せる對馬海峡は環海中最も淺き所にして僅に八十尋なりといふ

(五一) 北海道の港灣は如何

北海道の東海岸は屈曲極めて稀にして港灣と稱すべきもの少く僅に根室

灣に根室港、南方太平洋岸(牡蠣を以て有名なる厚岸灣)に厚岸あるのみ、西海岸は之に反して港灣頗る多く積丹半島の左右に石狩、後志の二灣あり石狩灣頭に小樽港、後志灣に壽都港あり、噴火灣の東門に室蘭あり箱館灣奥に箱館あり其の西に福山あり、共に著名の良港なり

(五二) 本州東南海岸の港灣を舉げよ (五三) 東京灣は何によりて形つくらるゝや (五四) 大坂灣の各門口を示せ

本州の東海岸の北端に陸奥灣ありて青森大湊の諸港を含み、北上川山系の沿岸は屈折鋸齒の如く其の間に釜石、宮古諸港あり、仙臺灣内には狭濱あれども、それより以南犬吠岬に至る常陸一帯の海岸には港灣と稱すべきものなし

犬吠岬より四國の西端蹉陀岬に至るの間は有名なる岬角灣入頗る多し、其主なるものを東京灣、伊勢内海、大坂灣とす、東京灣は房總半島と三浦半島とを以て包めるものにして帝都東京の門口なり、横濱、横須賀、

千葉、水更津の諸港兩岸に散在す

大東崎より犬吠岬に至る灣形の地は九十九里濱と稱し、有名なる鱚の漁場たり

三浦半島より伊豆半島に至る大灣は相摸灘にして石廊崎より御前崎に至るの間は駿河灣なり、石廊崎の東に在る下田より志州島羽に至るの間は所謂遠州灘にして海上七十五里、一も良港の碇泊すへき所なく風浪頗る荒し

伊勢内海は志摩渥美兩半島の相扼する所にして桑名、四日市、熱田等の港泊あり、又知多半島と渥美半島との間を三河灣といひ其の北方の灣入衣浦には半田港あり

志摩半島以西潮岬紀伊の南端 以東を熊野沖と稱し熊野川口には新宮あり潮岬以西の海岸には田邊港あり

大坂灣は畿内諸國の門口にして淡路島と紀伊半島との間に在る由良海峽

及び四國と紀伊半島との間なる紀伊海峽を出つれば、南外洋に通すべく西方明石海峽を出れば瀬戸内海に通すべし、灣の東北には關西商業の中心なる大坂市あり其の南に堺、西に神戸あり、又紀伊海峽の北部には和歌山徳島の二港相對す

(五) 四國の沿岸並に瀬戸内海の港灣を問ふ (五) 瀬戸内海の各

門口を擧げよ

四國に於て紀伊海峽の西南蒲生田岬ガマツタより室戸岬に至る海岸は峻峻にして良港灣なく、室戸岬より蹠陀岬に至る土佐沖には須崎浦戸の二港あり

四國中國及び九州の間に介る瀬戸内海は風浪の危険極めて稀なるのみならず海岸凸凹無數の島嶼散在して風光明媚交通亦最頻繁なり明石海峽の西播磨灘の北岸中國の側に室津港あり、小豆島以西周防半島に至るの間に兒島灣、水島灣、廣島灣ありて鞆、尾道、吳港軍港を包み其の南岸四國の側には高

松、多度津、三津濱等あり又深く南方に灣入したるものを燧灘と稱し、伊豫の西北岸を硫黃灘と稱し、周防の近海を周防灘と稱す、硫黃灘は豊後海峽速吸瀬戸を以て南外洋に通し周防灘は下關海峽によりて北日本海に通す下關は即ち下關海峽の内側に在り

(五七)九州の沿海及び港灣は如何 (五八)岬灣の出入最も多きは何れの地方なるや

九州の沿海は全國中最も岬灣の出入に富み、殊に西海岸を甚しとす、其の正北の外海を響灘、玄界灘とす共に風波の難ありと稱す、此の間に博多、唐津、平戸の三港あり、玄界灘の西方の海上には急峻にして而も岬灣に富める壹岐島あり、又其の西北には險阻なる對馬島あり、兩島の間を對馬海峽と稱す

西岸には肥前半島紆餘曲折して西方には五島を控へ、南方には上島下島あり最も港灣に富む、而して半島の西に大村灣あり、灣口に佐世保港軍

あり、東には所謂有明灘ありて九州諸大河の水を受け、其の南部に三角の良港あり、半島の南甌島に至るの間を天草灘と稱す

薩摩半島と大隅半島との間を鹿兒島灣といふ櫻島其の内_ミに在りて常に黒煙を吐き其の西方對岸に鹿兒島あり、薩摩半島の西南角を野間岬といひ、大隅半島の南角を佐多岬といふ、其の南に種子タネ、屋久等の諸島あり、種子島と佐多岬との間は即ち霧深き大隅海峽なり、佐多岬より東北の海岸は只大隅の一小灣あるのみにして屈曲極めて稀なりとす

(五九)日本海の沿岸及び港灣は如何 (六〇)本州中央の地頸部とは何れぞ

日本海沿岸の地は屈折少く海岸の延長太平洋沿岸の二分の一に過ぎず六百五十里中國の西端より若狹灣に至るの間は只其の中央に當りて(出雲の北部の海中に斗出して)境港を包むの外一も著名なるものなく、其の他長門に萩、石見に濱田あり、隱岐島に西郷あり

若狹灣は立石岬と經岬との扼する所にして舞鶴、宮津の二港あり、南のかた陸路僅に二十六里を隔て、伊勢内海に通ずるを以て此の間を本州の地頸と稱すへし、立石岬以東には有名なる敦賀及び阪井港日野あり、能登半島の東岸に七尾港あり、富山灣内に伏木港射水あり、之より東北陸奥の龍飛岬タツヒに至るまでは唯新瀉信濃河口酒田最上河口及び佐渡島の夷、小木等諸港ナギあるのみ

- (六二) 我が國沿海の潮流を示せ (六三) 暖流の起點及び徑路を問ふ
- (六三) 寒流の起點及び其の徑路を問ふ

我邦は太平洋の潮水還流の衝路に當るを以て寒暖二流共に其の沿岸を洗へり

● 暖流は赤道北流のフィリッピン群島に衝突して北轉せるものにして臺灣呂宋の間を過ぎ東北に向つて南部琉球諸島を通過し九州四國の南岸を洗ひ紀伊半島の前面を横過し豆南諸島を経て稍東北に轉し犬吠岬を経て流

域大に散漫し遂に近海を距りて太平洋に出つ、暖潮の海水は尋常の海水より著しく黒色を帯び其の流動又頗る急激なるを以て又黒潮の名あり、其の流域御倉島と八丈島との間に於て最も判明なるを以て其の間の海流を世俗黒瀬川と稱す

● 寒流は北極洋よりベーリング海峽を出て西南に向ひカムサツカ半島の東岸を洗ふものと、オコスツ海の東北隅より出て全半島の西岸を洗ふものとの二流相合したるものにして千島諸島の間を通過し北海道の東岸を流るゝや方向南に轉して本州の東海岸を經犬吠岬に至りて其の跡を減す寒流は暗濁色を帯ひ一名親潮の稱あり

- (六四) 潮汐の景況如何 (六五) 我が國近海中潮差の最も大なる地及び其の原因を問ふ

我國は潮汐の微なるを以て有名なり即ち太平洋中に於ては大潮の時すら尙ほ二尺以上に昇ることなく四面陸地を以て閉鎖せらるゝ日本海にては

一尺を昇ることなし、唯、海水の深く内地に灣入せる處若くは河口に於て河流と相激する處は其の潮差大に増進す、例へば大潮の時筑後河口に於て十八尺六寸、大坂灣にては八尺七寸、横濱にては六尺なり

(六六)氣候の大別を記せ (六七)寒暑の差少き地方及び寒暑の差大なる地方を擧げよ

我が國は亞細亞大陸の東方太平洋の西北にありて西南より斜に東北に延長し其の南岸には黒潮の暖流を受け(日本海沿岸にも亦其の一支流あり)北海道及び本州の東海岸には親潮寒流の流るゝあり、内地に於ても高山峻嶺至る所に起伏するを以て氣候は緯度及び土地の高低によりて著く左右せらるゝのみならず、更に海洋及び大陸の爲めに支配さるゝこと少からず、彼の太平洋に瀕する南方日本海、及び瀬戸内海に瀕する地方は寒暑の差大ならずと雖も太平洋岸の北方及び本州北部の中央仙臺奥羽の中央及び北海道の中央の地は寒暑の差甚た大なり

(六八)風位の梗概 (六九)夏日南風多き所以を問ふ (七〇)冬日北風

多き所以を問ふ (七一)暴風の起る原因を問ふ

我邦は大陸を西北に控へ大洋を東南に受くるを以て風位は主として此二者に支配せらる、即ち夏日は亞細亞の内地非常に熱せらるゝを以て太平洋上の空氣其の處に向ひ以て我邦に南風若くは東南風を起す、冬日は之に反して亞細亞の内地沍寒にして高氣壓を示すを以て風位夫より西方に向ふ是れ冬日西北風多き所以なり

又九月中旬即ち陰曆二百十日前後稻の花咲く頃には颶風起るを常とす、是れ氣候頓に變し、氣壓に劇變を生ずる故なり、而して其の方向は大抵フィリッピン島若くは臺灣近海より來りて九州四國の地を襲ひ斜に本州の地を掠めて北海道に及ぶ

(七二)雨雪の量は如何 (七三)我が國の雨雪は主に如何なる所より

來るか (七四)瀬戸内海沿岸地方の天候如何 (七五)梅雨の起

因は如何

我が國は四面海に臨み濕氣多きを以て雨雪の量頗る多し殊に夏は太平洋より來る南風若くは東南風の齎し來る濕氣の爲に外面の地即ち九州四國の南部及紀州の南端は降雨多く、冬日は西北風の日本海上の濕氣を帶來るを以て内面即ち山陰北陸兩道の地は降雪多し、然れども東北地方は寒冷にして空氣の水蒸氣を含むこと少く又風の影響少きを以て雨雪鮮く、瀬戸内海沿岸の地は四國山系及び中國山系の南北に連亘して外部より來る濕氣を遮るを以て空氣乾燥清朝の天候多し故に此地は製鹽業盛なり又六月の候に方り南太平洋より來る風と北日本海より來る風との相衝突して霧狀の雨を生ずることあり之を梅雨と稱す霖雨大約三十日に亘る、九月も亦颶風に伴へる暴雨多し

(七) 植物分布の狀況を示せ (七) 我が國森林地の廣さ如何

我が國は其の位置によりて寒温熱三帶の植物を併有し、地勢高峻氣候各

異なるを以て其の種類も夥しく、雨量潤澤地味肥沃なるを以て到る所森林蒼鬱として全國の面積殆んど三分の一一千五百萬町歩を占む

小笠原諸島、琉球諸島、九州及び四國の南端には蘇鉄日本特有の植物ヘゴ、ナギ、自大樹、榕樹、甘蔗あり、九州、四國、中國、畿内、東海道及び北陸道の西半部には、厚皮香、松柏類、樟、茶、密柑、竹、櫨樹等生育し、又木綿、藍、甘蔗、桑を生ず、本州東北部の平地には櫟、杉、松、楓、檜、柏、樅、樺、漆樹あり、各地の諸高山には山毛櫸、栗、赤楊、檜、羅漢松、ツガ及び偃松等あり、農産物は全國を通して稻の生育せざる處なく高山高地を除き大小麥、粟、玉蜀黍、豆類、大麻、煙草、甘藷、馬鈴薯、林檎等皆能く生育す

(七) 動物の種類は如何 (七) 極南地方と極北地方との動物相違如何

極南諸群島には毒蛇等の如き熱帶性のもの多けれども内地には家禽、牛、馬、豚、猪、鹿、猿、兔、狐等温帶性のものを産す、海産動物は太平洋

に於ては土佐の鯉魚、廣島の海鼠、房州の鱧、仙臺の鮪等有名にして其
 他鱒、烏賊、鰻等あり、日本海には鯛若狹比目魚、烏賊、鰻等夥し、又
 淡水産は鮎を最とし山間諸處に鮠魚を産す
 北海道及び本州東北地方には熊、狼を産し札幌近傍の鯨、北海道東海岸
 の鮭、千島の赤鯮及び海獸の最も有名なるものなり

(八〇) 邦制の大体及び沿革を略述せよ

我が國上古は大八洲オホヤシマと稱し本州四國九州佐渡隱岐淡路壹岐對馬の八大島
 を以て國を形成するものとなせり、神武天皇海内統一より以後諸國の分
 合一ならず、成務天皇に至り山河の形勢に隨ひ大國小國大縣小縣を定め、
 國數凡百四十四と稱す、大化の革新に至り國を省きて郡となし、大寶年
 間に至り國郡郷の制漸く定まりぬ、而して孝謙天皇に至りて國の數六十
 二と稱す、然れども前後數分合ありて其數亦一定ならず、持統天皇の
 頃には和泉は河内の一郡たるに過ぎずして四畿の稱あり、元正天皇の靈

龜元年に至りて五畿内に改む、其他和銅五年に出羽を置き、丹後美作大隅
 は同六年に、能登安房石城石背イムセは養老二年に分れ、諏訪は天平三年に信濃
 に合し、佐渡は全十五年に越後に併せられしも後また舊に復し、加賀は
 弘仁十年に分ち、而して天長年中多藪マクシマ島を大隅に併せてより六十六國二
 島となり、以て明治維新に至る、道は其の初め定かならず、崇神天皇の
 朝四道將軍の稱あり、七道の名は文武天皇の時より存するものと如し
 明治の初年車駕東京に幸し、奥羽の地を分ちて七國となし、蝦夷及び千
 島を北海道と稱して十一國を建て、以て現今の五畿八道八十五國となり、
 之を分轄統治するに一道廳三府四十三縣を以てす

(八一) 管轄及里程一覽表

道別及 北海國 十一道	道廳府縣名	其所在地	管轄 區	域	自東京 廳地 里程
北海道	札幌區	北海道一圓、函館及根室に支廳あり			二七六

道 陰 山 內 畿 道 陽 山 道
國 八 國 五 國 八 國

和歌山縣 島根縣 鳥取縣 京都府 奈良縣 大坂府 兵庫縣 岡山縣 廣島縣 山口縣 秋田縣 山形縣 青森縣 岩手縣 宮城縣

和歌山市 松江市 島取市 京都市 奈良市 大坂市 神戶市 岡山市 廣島市 山口町 秋田市 山形市 青森町 盛岡市 仙臺市

陸前一市十三郡、磐城三郡
陸前一郡、陸中一市十七郡、陸奥一郡
陸奥一市八郡
羽前、羽後一郡
羽後一市八郡、陸中一郡
周防、長門
備後、安藝
美作、備前、備中
播磨、但馬、淡路
河內、和泉、攝津一市七郡
大和
山城、丹後、丹波五郡
因幡、伯耆
出雪、石見、隱岐
紀伊一市八郡

九二
一四〇
一九二
九五
一五一
二六六
一三一
一八六
一五〇
一四四
一四〇
一三一
一九四
三三一
一六一

山 東 道 海 東
三 十 國 五 十

福島縣 枋木縣 群馬縣 長野縣 岐阜縣 滋賀縣 山梨縣 靜岡縣 愛知縣 三重縣 茨城縣 千葉縣 埼玉縣 神奈川縣 東京府

福島町 宇津宮町 前橋市 長野町 岐阜市 大津市 甲府市 靜岡市 名古屋市 津市 水戸市 千葉町 浦和市 橫濱市 東京市

武藏一市九郡、伊豆七島、小笠原島
相模、武藏一市三郡
武藏十七郡、下總一郡
安房、上總、下總八郡
常陸、下總六郡
伊勢、伊賀、志摩、紀伊二郡
尾張、三河
遠江、駿河、伊豆七島除く
甲斐
近江
美濃、飛騨
信濃
上野
下野
岩代、磐城十一郡

七一
二七
二八
五九
一〇四
一二八
三四
四六
九五
一一三
二九
一〇
六
八
〇

道海西		道海南	
國二十		國六	
沖繩縣	鹿兒島縣	宮崎縣	熊本縣
那霸	鹿兒島市	宮崎市	熊本市
沖繩諸島	大隅、薩摩、日向一郡	日向九郡	肥後
		肥前一市十郡	壹岐、對馬、肥前一市六郡
		豐後、豐前二郡	
		筑前、筑後、豐前六郡	
		土佐	
		高知市	伊豫
		高松市	讚岐
		高松市	阿波
		徳島市	一七八
		徳島縣	二〇七
		香川縣	二三七
		愛媛縣	二三四
		高知縣	三〇三
		福岡縣	三一七
		大分縣	三一四
		佐賀縣	三四四
		長崎縣	三二五
		熊本縣	三六八
		宮崎縣	三八一
		鹿兒島縣	五七四

（本書の下文には各府縣の所在地を指定するのみにして管轄區域を再記せず讀者諒焉）

(八三) 各府縣別郡名一覽表

兵庫縣	加古郡	七美郡	二方郡	氷上郡	多紀郡	津名郡	三原郡
	美夔郡	城崎郡	美含郡	出石郡	氣多郡	養父郡	朝來郡
	菟原郡	川邊郡	揖東郡	揖西郡	赤穂郡	佐用郡	夙粟郡
	神戶市	姫路市	八郡郡	印南郡	飾東郡	飾西郡	神東郡
	神奈川縣	横濱市	久良岐郡	橋樹郡	都筑郡	三浦郡	鎌倉郡
	油綾郡	足柄上郡	足柄下郡	愛甲郡	津久井郡	高座郡	大住郡
	大坂府	東區	西區	南區	北區	堺市	西成郡
	島下郡	豐島郡	能勢郡	大島郡	泉郡	南郡	日根郡
	八上郡	古市郡	安宿部郡	丹南郡	志紀郡	丹北郡	高安郡
	若江郡	澁川郡	茨田郡	交野郡	讚良郡	大縣郡	河内郡
東京府	麹町區	神田區	日本橋區	京橋區	芝區	麻布區	赤坂區
小石川區	本郷區	下谷區	淺草區	本所區	深川區	荏原郡	東多摩郡
西多摩郡	南多摩郡	北多摩郡	南豐島郡	北豐島郡	南足立郡	南葛飾郡	
住吉郡	島上郡	錦部郡					

新潟縣

新潟市 北蒲原郡 中蒲原郡 西蒲原郡 南蒲原郡 東蒲原郡 三島郡
古志郡 東頸城郡 中頸城郡 西頸城郡 北魚沼郡 南魚沼郡 中魚沼郡
刈羽郡 岩船郡 雜太郡 加茂郡 羽茂郡

埼玉縣

北足立郡 比企郡 橫見郡 秩父郡 新座郡 兒玉郡 賀美郡 那珂郡
入間郡 大里郡 幡羅郡 榛澤郡 男衾郡 高麗郡 北埼玉郡 南埼玉郡
北葛飾郡 中葛飾郡

群馬縣

前橋市 東群馬郡 南勢多郡 西群馬郡 片岡郡 綠野郡 多胡郡 南群馬郡
北甘樂郡 碓氷郡 吾妻郡 利根郡 北勢多郡 佐位郡 那波郡 新田郡
山田郡 邑樂郡

千葉縣

千葉郡 市原郡 東葛飾郡 印幡郡 安房郡 下埴生郡 南相馬郡 長柄郡
上埴生郡 平郡 山邊郡 武射郡 香取郡 海上郡 朝夷郡 匝差郡
望陀郡 周准郡 天羽郡 夷隅郡 長狹郡

茨城縣

水戸市 東茨城郡 西茨城郡 那珂郡 久慈郡 多賀郡 鹿島郡 行方郡
信太郡 河内郡 新治郡 筑波郡 眞壁郡 結城郡 岡田郡 豐田郡
西葛飾郡 猿島郡 北相馬郡

長崎縣

長崎市 西彼杵郡 東彼杵郡 北高來郡 北松浦郡 南松浦郡 壹岐郡
石田郡

栃木縣

河内郡 上都賀郡 芳賀郡 下都賀郡 鹽谷郡 那須郡 安蘇郡 足利郡
梁田郡

三重縣

津市 桑名郡 員辨郡 三重郡 朝明郡 鈴鹿郡 奄藝郡 河曲郡 安濃郡
一志郡 飯高郡 飯野郡 多氣郡 度會郡 阿拜郡 山田郡 名張郡 伊賀郡
蒼志郡 英虞郡 北牟婁郡 南牟婁郡

靜岡縣

靜岡市 賀茂郡 那賀郡 君澤郡 田方郡 駿東郡 富士郡 庵原郡 有渡郡
安倍郡 志太郡 益津郡 榛原郡 佐野郡 城東郡 周智郡 磐田郡 山名郡
豐田郡 敷知郡 長上郡 濱名郡 引佐郡 龜玉郡

京都府

上京區 下京區 愛宕郡 葛野郡 乙訓郡 紀伊郡 宇治郡 久世郡 綾喜郡
相樂郡 南桑田郡 北桑田郡 船井郡 天田郡 何鹿郡 加佐郡 與謝郡
中郡 竹野郡 熊野郡

滋賀縣

滋賀郡 栗太郡 野洲郡 甲賀郡 蒲生郡 神崎郡 愛知郡 犬上郡
阪田郡 東淺井郡 伊香郡 西淺井郡 高島郡

奈良縣

添上郡 平群郡 式上郡 式下郡 添下郡 宇陀郡 十市郡 高市郡

長野縣

山邊郡 葛上郡 葛下郡 忍海郡 廣瀬郡 宇智郡 吉野郡
南佐久郡 北佐久郡 小縣郡 諏訪郡 上伊那郡 下伊那郡 西筑摩郡
東筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡 更級郡 埴科郡 上高井郡 下高井郡
上水内郡 下水内郡

宮城縣

仙臺市 柴田郡 刈田郡 伊具郡 亙理郡 名取郡 宮城郡 黒川郡 加美郡
志田郡 玉造郡 遠田郡 栗原郡 登米郡 桃生郡 牡鹿郡 本吉郡

岩手縣

盛岡市 南巖手郡 北巖手郡 紫波郡 稗貫郡 東和賀郡 西和賀郡 膽澤郡
江刺郡 西磐井郡 東磐井郡 氣仙郡 西閉伊郡 南 郡 東閉伊郡
中閉伊郡 北閉伊郡 南九戸郡 北九戸郡 二戸郡

青森縣

弘前市 東津輕郡 西津輕郡 中津輕郡 南津輕郡 北津輕郡 上北郡
下北郡 三戸郡

山形縣

山形市 米澤市 東田川郡 西田川郡 南村山郡 東村山郡
西置賜郡 東置賜郡 西村山郡 北村山郡 南置賜郡 最上郡
鮎海郡

福井縣

福井市 足羽郡 吉田郡 坂井郡 大野郡 南條郡 今立郡 丹生郡
敦賀郡 三方郡 遠敷郡 大飯郡

石川縣

金澤市 江沼郡 能美郡 河北郡 石川郡 羽咋郡 鹿島郡 鳳至郡
珠洲郡

山梨縣

甲府市 東山梨郡 西八代郡 南巨摩郡 中巨摩郡 北巨摩郡 西山梨郡
南都留郡 北都留郡 東八代郡

岐阜縣

岐阜市 厚見郡 各務郡 方縣郡 羽栗郡 中島郡 石下津郡 海西郡 多藝郡
上石津郡 不破郡 安八郡 大野郡 池田郡 本巢郡 席田郡 山縣郡 郡上郡
武儀郡 加茂郡 可兒郡 土岐郡 惠那郡 益田郡 大野郡 吉城郡

福島縣

信夫郡 伊達郡 安達郡 石川郡 田村郡 安積郡 岩瀬郡 南會津郡
菊多郡 磐前郡 北會津郡 耶麻郡 河沼郡 磐城郡 檜葉郡 大沼郡
東白川郡 西白河郡 標葉郡 行方郡 宇多郡

富山縣

富山市 上新川郡 下新川郡 礪波郡 婦負郡 射水郡 高岡市

島根縣

松江市 島根郡 秋鹿郡 意宇郡 能義郡

(八三) 外交の沿革を略叙せよ

我が國の外交は、上代既に大に開け素盞鳴尊の朝鮮に往かれしと等ありと雖も史乘具はらず、其の初めて我が國に朝貢せしは崇神の朝任那の入貢を始めとす、紀元九百年代に至り、神功皇后の御親征に依り、朝鮮の地我が領土に歸し、國司を置きて之を統御したり、茲に於て漢土の工藝、學術及び風俗、宗教等朝鮮の地を経て漸く我が邦に入り、推古の朝隋に通せしより、皇極の朝、朝鮮半島を捨てし後と雖も、歷朝尙は遣唐使の舉あり、龜山天皇に至り、擊て元寇を卻くるや、國人進取の氣象は頓に伸張し、足利時代に於ては、我が邦人の支那の海岸より安南、暹羅、呂宋、マラッカ、印度地方に行きて通商するもの多く、和泉の堺、九州の博多は實に商業の中心たり

歐米との交通は我が紀元二千二百〇二年葡萄牙の商船九州に漂着したるを始めとし、西班牙、和蘭、英吉利等の諸國人相尋きて通商貿易をなせ

しが、之れとともに耶蘇教の侵入甚しきを以て豊臣秀吉其の徒を放逐し、徳川氏に至りても鳥原の亂以後益々耶蘇教を嚴禁し、併せて内外國船の往來を停止したり、唯、和蘭支那二國の商船のみは宗教に關係せざるを以て尙は長崎に來りて貿易するを許せり、是を以て外交は一時殆んど斷絶の姿となれり

紀元二千五百十三年合衆國の使節ペルリ下田港に來りて交通貿易を請ふに及び、積年の國禁を解除して長崎の外、下田箱館の二港を開き、後下田を閉ぢて更に横濱、神戸、新潟の三港を開きたり、爾來英佛獨露等通信を請ふもの續々絶えず、條約國の數現今實に二十國の多きに及へり

(八四) 我邦の制度及び立法部の組織如何

現今我が國の政体は(東洋唯一の)立憲君主制にして、上に萬世一系の天皇ありて、國の統治權を總攬し、海陸軍を統帥し、戰を宣し和を講じ、文武百官を任免し給ふ、行政の事務は國務大臣天皇を輔弼し、詔勅に副

(八三) 外交の沿革を略叙せよ

我が國の外交は、上代既に大に開け素盞鳴尊の朝鮮に往かれしと等ありと雖も史乘具はらず、其の初めて我が國に朝貢せしは崇神の朝任那の入貢を始めとす、紀元九百年代に至り、神功皇后の御親征に依り、朝鮮の地我が領土に歸し、國司を置きて之を統御したり、茲に於て漢土の工藝、學術及び風俗、宗教等朝鮮の地を経て漸く我が邦に入り、推古の朝隋に通せしより、皇極の朝、朝鮮半島を捨てし後と雖も、歷朝尙は遣唐使の舉あり、龜山天皇に至り、擊て元寇を卻くるや、國人進取の氣象は頓に伸張し、足利時代に於ては、我が邦人の支那の海岸より安南、暹羅、呂宋、マラッカ、印度地方に行きて通商するもの多く、和泉の堺、九州の博多は實に商業の中心たり

歐米との交通は我が紀元二千二百〇二年葡萄牙の商船九州に漂着したるを始めとし、西班牙、和蘭、英吉利等の諸國人相尋きて通商貿易をなせ

しが、之れとともに耶蘇教の侵入甚しきを以て豊臣秀吉其の徒を放逐し、徳川氏に至りても高原の亂以後益々耶蘇教を嚴禁し、併せて内外國船の往來を停止したり、唯、和蘭支那二國の商船のみは宗教に關係せざるを以て尙ほ長崎に來りて貿易するを許せり、是を以て外交は一時殆んど斷絶の姿となれり

紀元二千五百十三年合衆國の使節ペルリ下田港に來りて交通貿易を請ふに及び、積年の國禁を解除して長崎の外、下田箱館の二港を開き、後下田を閉ちて更に横濱、神戸、新潟の三港を開きたり、爾來英佛獨露等通信を請ふもの續々絶えず、條約國の數現今實に二十國の多さに及へり

(八四) 我邦の制度及び立法部の組織如何

現今我が國の政体は(東洋唯一の)立憲君主制にして、上に萬世一系の天皇ありて、國の統治權を總攬し、海陸軍を統帥し、戰を宣し和を講じ、文武百官を任免し給ふ、行政の事務は國務大臣天皇を輔弼し、詔勅に副

署して其の責に任じ、樞密顧問官國事を審議して天皇の諮詢に應へ、立法權は帝國議會の協賛を以て之を行ひ、司法權は天皇の名に於て裁判所之を執行す

帝國議會は貴族院衆議院の兩院を以て成立し、憲法の規定に従ひ、凡て法律を協賛する立法部にして、貴族院は皇族、華族、勅選せられたる議員及び各府縣大地主の互撰に依れる議員を以て組織し、其の數凡そ三百人あり、衆議院は公選の議員より組織せられ其の總數三百人なり

(八五) 司法上の組織を略記せよ

司法權を行ふ處の裁判所は、通常四種より成る、即ち區裁判所、地方裁判所、控訴院及び大審院是れなり、區裁判所は單獨の判事之を行ひ、地方裁判所、控訴院及び大審院は合議裁判とす、區裁判所の判決に對する控訴は地方裁判所之を審判し、地方裁判所に對する控訴は控訴院之を審判し、控訴院に對する上告は、大審院之を裁判するの權を有す、大審院

は最高裁判所にして、其の判決を以て終審とす、大審院は東京に設け、控訴院は東京、大坂、名古屋、廣島、長崎、仙臺、箱館の各地に在り、又行政裁判所ありて、行政官廳の違法處分に係る事件を判決す、すべて裁判官は刑法の宣告又は懲戒の處分に由るの外は其の職を免せらるゝとなし

(八六) 行政部の組織は如何

内閣は行政最高の府にして、内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の各國務大臣を以て組織し、別に機務を奏宣し、天皇の旨を承けて、行政各部を統理するが爲に内閣總理大臣入つては大政を參畫し、出ては各部の職務に就き大政施行の責に任す、是れ即ち中央政務府なり、また地方の政務を行はんが爲には、全國を一道廳三府四十三縣に區畫し、北海道長官及び府縣知事を置き、内務大臣の指揮監督に屬し部内の行政事務を總理せしむ、道廳府縣は更に之れを小行政区に分劃し、市區郡役所、若くは島廳を置き、郡の下又た町村を分ち各其の長

を置き、人民直接の政務を執行せしむ

(六七) 租税の種別を挙げよ

凡そ國政上の費用は、國民之を分擔するの義務を有せり、之れを納税の義務と云ふ、其の税目は通常之を國税及び地方税の二種に區別す、國税は即ち國庫の歳入にして國家全体の政費に供するものなり、中に地租、酒造税、所得税、煙草税、證券印紙税、醬油税等の別あり、國庫の歳出とは、帝室費、國債費、官吏俸給、土木、海陸軍、裁判所、教育、遞信等の諸費をいふ、國庫の歳出入は毎年豫算を起し、帝國議會の協賛を以て議定す、地方税は一地方部内の政費に供するものにして地租割、戸數割、營業税、所得税、追加税等の種目あり、而して之れを其の地方の警察費、教育費、衛生費、勸業、土木費等に支出す、而して其の徴収支出は府縣會の議決を経るものとす

(六八) 族制及戸數人口を挙げよ (六九) 一方里の平均人口を問ふ

(九〇) 一戸平均の人口如何

人種は蒙古人種に屬し、純然たる一種族アイヌ一萬五千餘を除くを以て國を成し、言語風俗習慣思想を一にして忠勇義烈に富み、國風の善美なる宇内其の比を見ず、國民の宗家たる皇族の外別に華士族平民を分ち、人口四千七十一萬八千六百七十七人二十四年未調査あり、之れを面積に平分すれば一方里二千六百六十四人の割合とす、(世界に於て人口稠密なる國の一に居れり)又之れを全國の戸數七百八十八萬六千三百六十九戸に配當するときは平均一戸に付五人二九とす

(九一) 都府の大なるものを示せ 五萬以上

全國都府の中人口二萬五千以上を有するもの總て五十三あり、中に就て最も著名なるものは廿六年末統計東京一二七萬九千九百九十九、大坂四八萬八千九百九十九、京都三六萬六千九百九十九、名古屋一八萬九千九百九十九、濱一五萬三千六百九十九、金澤九萬八千九百九十九、仙臺六萬七千九百九十九、富山八萬五千九百九十九、熊本七萬五千九百九十九、鹿兒島六萬五千九百九十九、福岡五萬五千九百九十九、岡山五萬五千九百九十九、等なり

(九三) 兵役の種別を問ふ

現今の兵制を見るに、帝國臣民たるものは満十七歳より四十歳までの男子は悉く兵役に服するの義務を有す、之を兵役の義務と云ふ、兵役に三種あり、常備後備及び國民兵役是れなり、又常備兵を分ちて更に現役及び豫備役とす、現役は陸軍三年海軍四年にして、満二十歳に達したる男子之れに服す、現役を終れば豫備役に服す、其の年限陸軍は四年にして、海軍は三年なり、現役豫備の常備兵役を終りたるものは更に五年間後備役に服す、又常備後備の兵役に服せざる十七歳乃至四十歳の男子は總て國民兵役に服す、陸軍は適齡の壯丁を全國より徵募すれども、海軍は沿海地方及び島嶼の壯丁より之れを採用す

(九四) 軍事の監督及び教育は如何

東京に陸軍參謀本部を置き、陸軍に關する事務を管理せしむるに帝國全軍の參謀總長に親補せられたる陸軍大將若くは中將を以てし、専ら出師

國防作戰の計畫を掌る、其他軍隊の練習は監軍部の監督に屬し、砲工に關するとは砲兵工兵兩會議之れを司る、又軍人を養成する學校は陸軍大學校、士官學校、幼年學校、戶山學校、教導團、軍醫學校等あり、兵器の製造には砲兵工廠、軍服被服の製造には製絨所あり、海軍は毎海軍區の軍港に鎮守府を置き出師の準備軍港要港の防禦、管海の警備、軍艦の製造修理、兵員の徵募訓練を掌らしむ、艦隊は大艦隊、中艦隊、小艦隊の三種に區別し、艦隊司令官之れを統率して環海を守衛し攻守の役務に服せしむ、海軍にも亦海軍參謀本部を始めとし、將官會議、水路部、造船所、火藥工廠等あり、又海軍々人を養成せんが爲には、海軍大學校、海軍兵學校、主計學校等あり

(九五) 陸軍の編制及び配置を記せ

陸軍は之を六師管に分ち更に十二旅管に小分し、現役將官兵卒凡そ六萬人三十六聯隊を以て編制す

第一師管

第一旅管(東京) 管區(東京の内十區六郡及伊豆七島小笠原島、神奈川、埼玉の内十二郡、山梨、群馬、長野)

第二師管

第二旅管(佐倉) 管區(千葉、茨城、東京の内五區)
第三旅管(仙臺) 管區(宮城の内一市十三郡)
第四旅管(青森) 管區(青森、岩手、宮城の内三郡)
第五旅管(名古屋) 管區(愛知の内一市十四郡、三重の内一市十七郡、靜岡)

第三師管

第六旅管(金澤) 管區(石川、富山、岐阜、愛知の内五郡、福井の内一市八郡)
第七旅管(大坂) 管區(大坂の内二市二十二郡、和歌山、奈良、滋賀、三重の内四郡、京都の内一市八郡)

第四師管

第八旅管(姫路) 管區(兵庫、鳥取、岡山の内一市二十郡、大坂の内五郡、京都の内十郡、福井の内三郡)
第九旅管(廣島) 管區(廣島、岡山の内十一郡、山口の内十一郡、島根)

第五師管

第十旅管(松山) 管區(愛媛、香川、徳島、高知)
第十一旅管(熊本) 管區(熊本、宮崎、大分の内八郡、鹿兒島、沖縄)

第六師管

第十二旅管(小倉) 管區(山口の内一市一郡、福岡、佐賀、大分の内四郡、長崎)

(九五)砲臺の位置を記せ

沿海樞要の地には漸次砲臺建築の舉あり、其の既に落成せしもの及び築造中のものは左の如し

東京灣防禦砲臺

相摸三ヶ所(内一ヶ所は海堡) 上總三ヶ所(内二ヶ所海堡)

横須賀軍港防禦砲臺

相摸五ヶ所(海岸砲臺)

紀淡海峽防禦砲臺

紀伊三ヶ所、淡路二ヶ所

下ノ關海峽防禦砲臺

長門六ヶ所(内二ヶ所海岸堡) 豊前三ヶ所

淺瀬灣防禦砲臺

對馬四ヶ所(海岸砲臺)

(九〇)海軍區の分割を問ふ

全國の海岸及び海面を五區に區分し、各區の軍港に鎮守府を設置し以て環海を防衛す、即ち左の如し

軍 港

區 劃

第一相模國横須賀

陸中の南北閉伊郡界より紀伊の南東牟婁郡界に至るの海岸海面及小笠原島の海岸海面

第二安藝國吳 港

九州の東岸及紀伊國南東牟婁郡界より石見長門の國界に至る海岸海面及四國の四周並に内海

第三肥前國佐世保港

九州の南西北岸及び壹岐對馬諸島の海岸海面

第四丹後國舞鶴港

石見長門國界より羽後陸奥國界に至る海岸海面及び隱岐佐渡の海岸海面

第五加賀國室蘭港

北海道、陸奥、及び陸中北九戸、南九戸兩郡の海岸海面

以上五軍港の内舞鶴及室蘭港には未だ鎮守府の設置なきを以て、現今は第四海軍區中越後以東及び第五海軍區を横須賀鎮守府に、第四海軍區中越中以西を吳鎮守府に管せしむ、而して以上の海岸線延長は實に七千九百五十二哩なり

(九七)海軍の編成は如何

我が國の軍艦は目下機裝中のものを加へ三十八隻凡そ六萬噸、水雷船艇二十三隻あり、之を以て常備艦隊を編成し、又各鎮守府に分管す、乗組人員大約六千人、軍人凡そ一萬四千人なり

(九八)教育機關の組織は如何

兒童滿六歳より八ヶ年を學齡とし、學齡兒童の保護者は、尋常小學校の教科を卒へざる間は就學せしむるの義務を有す、尋常高等小學校の上には尋常中學校、高等學校あり、更に進んで専門の學識を究めんと欲するものは帝國大學に入る、又中學校を卒業するの後實業に就くべき豫備をなさんとするには高等商業學校、工業學校、商船學校等あり、帝國大學は東京に設け、高等學校は東京、仙臺、京都、金澤、熊本の五ヶ所に設け、更に山口の山口高等學校及び鹿兒島の造士館之れと同等の資格を有す、中學校は概ね各府縣廳の所在地に設け、其數六十餘あり、又小學校の教員を養成せんが爲に各府縣に尋常師範學校を設け、尋常師範、尋常

中學及び高等女學校の教師を養成せんが爲めに高等師範學校を東京に設く、其他女學校、幼稚園、職業學校、音樂學校、盲啞學校等の設あり、書籍館は、東京圖書館、大日本教育會圖書館を初めとし、各所に二十箇所あり、古今内外の書籍を縦覽せしめ、人文の進歩を助成す、將來益々盛大ならんとするの勢あり

(九) 小學教育上の統計を示せ (一〇) 學齡兒童の數及び不就學者との比例如何

近年我邦の小學教育大に進歩し、二十四年末の統計に據れば大略左表の如し

	學校數	教員數	生徒數
官立	五一	一六二二	一、二〇九九
公立	二、四七五四	七、〇〇〇〇	三一、三六三三
私立	二四八四	六三四七	一五、九六六二
計	二、七二八九	七、七九六九	三二、八、五三九四

又小學學齡兒童の總數は七百二十二萬〇四百五十人にして、修學者の總數は三百六十三萬二千二百五十二人なり、即ち學齡百中五〇、三一の修學者ありて四九、六九の不修學者あるものと如し。

(一一) 宗教及び社寺の有名なるものを列舉せよ (一二) 宗派の數及び名目は如何

我が邦神社の有名なるもの現今伊勢内外宮の宗廟を始めとし、尾張の熱田、出雲の大社、山城の男山、信濃の諏訪、戸隠、攝津の湊川等官國幣社を併せて百六十二社、之れに府縣鄉村社等を合するときは總數實に十九萬三千百五十三社、神職祠官凡そ一萬四千七百人、教派には神道、神宮教、大社教、扶桑教、實行教、黒住教、修成派、大成教、御嶽教等十數派の別あり
 佛教は當時天台、眞言、淨土、臨濟、曹洞、黃檗、眞、日蓮、時、融通念佛、法相、華嚴の十二宗二十八派に分れ、寺院の數七萬千八百五十九
 境外佛堂三萬六千許あり 住職の數五萬二千五百十一人あり、寺院佛閣の有名なるもの

は京都の東西本願寺、智恩院、延暦寺、紀伊の高野山、甲州の身延山、能登の總持寺、越前の永平寺、信濃の善光寺等なり
 耶蘇教會堂の有名なるものは東京のニコライ會堂中央會堂等にして信徒の數又頗る多し

(二〇三)土地の種別を問ふ (二〇四)官有地と民有地との比例は如何

(二〇五)耕地の面積は如何

土地を分ちて官有民有の二とし、更に官有地を四種に、民有地を二種に細別す

- 官有
- 第一種 皇宮地、伊勢神宮、山陵、官國幣社、府縣社地等
 - 第二種 皇族賜地、官用地(府縣廳、裁判所、警視廳等)
 - 第三種 山嶽、丘陵、原野、道路、鐵道、燈台、公園等
 - 第四種 寺院、學校、病院、貧院敷地等

民有

第一種

田畑、宅地、鹽田、鑛泉、池沼、山林、原野にして地稅及地方稅を課するもの

第二種

官有にあらざる鄉村社地及墳墓地公衆の用に供する道路等にして徵稅せざるもの

官有地は全國總面積の凡五分の三、民有地は五分の二を占む
 又耕地の面積は僅に全國の一割七分なり

(二〇六)鐵道の延長は幾何なるや

鐵道既設線路の延長は二十六年九月末の調査に據るに官設に係るもの五百五十七哩餘、私設に係るもの千九百六十二哩餘、總計實に二千五百二十哩二六にして其設計工事中に在るもの又二千哩に垂んとす

(二〇七)郵便及び電信

二十五年末内外國發信郵便物の總計は二億七千七百八十萬五千七百四十三箇にして人口一に付六信六六なり、而して外國に輸送する郵便物は去る明治十年加盟したる萬國聯合郵便線に托するものにして、歐洲に送達するものは横濱神戸馬關及び長崎に於て之を集め、以て上海に送る、又

上海天津釜山仁川浦鹽斯德等には長崎より之を輸送す

電信線路の延長は二十六年三月末の現在三千三百七十七哩四七、線條の長九千八百二十哩五〇にして百人に付私報數十一、六一なり、電話も亦日を追ふて盛に赴き、二十六年三月線路延長現在七十八哩三〇、線條長百哩四九に及へり、而して清國と戰を開き其の土地を占領するや、郵便電信の増設加架頻りにして公私通信の數亦極めて増加せり

(二〇八)條約國名を列舉せよ

現今條約國の數二十あり

- | | | | |
|-------|-------|------|-------|
| 北米合衆國 | 大貌利顛國 | 魯西亞國 | 和蘭國 |
| 佛蘭西國 | 葡萄牙國 | 日耳曼國 | 瑞西國 |
| 白耳義國 | 伊太利國 | 丁抹國 | 瑞典那威國 |
| 西班牙國 | 埃士利國 | 布哇國 | 清國 |
| 白露國 | 朝鮮國 | 暹羅國 | 墨西哥國 |

(二〇九)輸出入の主要なるものを擧げよ

二十五年外外國貿易の總額は一億六七一三萬〇八九七圓、内輸出は九一七萬八五五三圓輸入七五九五萬二三四四圓にして、輸出の超過實に一五二二萬六二〇九圓なり、而して其の品目は輸出の主なるものは蠶紙蠶綿類、及び飲食物類、製茶類、雜貨、金屬、布帛及び衣裳類、藥材及び製藥類、油及び蠟類、書籍及び紙類、毛皮甲角類、煙草等にして、輸入の主なるものは綿及び綿絲、綿布類、毛及び毛糸毛布類、砂糖類、兵器及び諸機械類、鐵及び鋼類、油及び蠟類、雜貨、藥材及び製藥類、角牙及び毛皮類、彩料類、書籍及び文具類、諸金屬類、酒類、衣服類、飲食物類、穀物、絹絲絹布類、諸布帛類、玻璃類、麻及び麻糸麻布類、煙草類なり、而して外國貿易は頻年盛況を呈するものゝ如し

(二一〇)四方海に接せざる國は如何

岩代、上野、下野、甲斐、伊賀以上東海道、信濃、飛騨、美濃、近江以上東山道、大

和、河内以上丹波、美作以上山陰道の十四國なり、

(二二) 近海に於ける航路の難所は如何

長門赤間關、遠州灘、阿波鳴門、豊前玄界灘、能登珠洲近傍等なり

(二三) 美術の起原及び其の發達は如何

我が國美術の發達は其の淵源甚だ遠く、紀元八百年代三韓との交通に始まり、佛法の傳來と共に佛畫、佛像、佛殿等を製作建立するの術大に發達せり、奈良京都等に遊ぶときは人をして其の盛時を追想して己まざらしむ、其の後隋唐明の畫風我が國に入り、多少の變化を経て、竟に一種特得の日本畫法を發明し、狩野流、土佐流、南畫、浮世畫等數多の畫風を生ずるに至れり、其の他畫術の進歩と共に、陶磁器詩繪等の技術も亦大に發達し、竟に現今の我が國をして美術世界に獨歩するに至らしめたり

(二三) 農産の梗概

我が國は古より豊葦原瑞穂國と稱し、最も米穀の産獲に富めり、然れども内地は山嶽多く、田畝の區域狭小なるに、農民多數を占むるを以て農家一戸の耕地は一町未滿なりとす

一方里中米の産出最も多き地方は、尾張即ち木曾川の灌域を第一とし、筑後、備前、讃岐、大坂四近の地及び利根川の灌域並ひに神通川信濃川の四近之に次く、而して肥後米及び越中米は良質を以て名あり、麥及び大小豆の産出は關東八州を第一とし、甘蔗甘薯は九州の西部を最多とす、實綿は内海の沿岸及び畿内地方に限りて東北に産せず、染物の原料たる藍は徳島(吉野川の沿水地)尾張、遠江及び筑後、肥後に多く、煙草は全國到る處に産し、大麻は九州の西南部、安藝、石見及び越前に最多なり

茶は海外輸出品の主位を占むるものにして、一月の平均温度一度の同温線を限りとし、之れより寒地に産すると少し、故に九州の西部、山城、

近江、伊賀、伊勢及び駿遠の地に最も多し
蠶業は信濃、岩代、上野、甲斐等の諸國に於ては古來之を專業とせしが
外國の交通開けてより生絲は輸出品の第一位を占め、其の産額隆盛に赴
きたり、而して其の最も盛なる地方は茶の産出部と殆んど正反對なり、
即ち一月二度の同温線以北は盛にして、以南は微々たり

(二四) 牧畜の大略を記せ

我が國に於て飼養する家畜は牛馬を第一とし、豚及び家禽之に次ぐ、牛
馬を牧畜すること最多き地方は主に伊勢、美濃以西にして、馬は本土の
東海岸(南部)及び九州の西南部(薩摩)を最多とす、牛馬共に東北産は大
にして性質順良なれども、西南の産は形体小にして性剛強なり
養豚の盛なる地は、琉球及び西南地方にして、家禽は上總及び中國の出
雲、備中、備前に最も多し

(二五) 工産物の大略を記せ

從來工産は、人工を以て各種の需要に應ずるのみなりしが、維新以來漸
く西洋の器械を採用し、近年に至り益々盛大に趣き、工業に従事する重
要なる會社の數二千有餘に及べり、就中製絲會社最も多く(全數の殆ん
ど二分一)織物會社之に次ぐ、其他鑄物金屬器會社摺附木煉瓦會社、陶
磁器會社、紡績會社、造船會社、「セメント」會社等あり

飲用品の重なるものは酒及び醬油類にして、酒は清酒、濁酒、白酒、味
醪、麥酒、葡萄酒等あり、就中造石の最多額を占むるは清酒にして、池
田、伊丹の醸造に係るものは品質良好全國に冠たり、醬油は本邦特有の
飲用品にして、割烹調理上要用なるものなれば、其の需要甚だ多く、其
の製造も亦從て普し、千葉縣の産出最多とす

絹絲は養蠶の行はるゝ地方に多く、綿絲は大坂に於ける諸紡績會社を初
とし、岡山縣の玉島、岡山、三重縣の三重及び東京の鐘淵等著名なり、
又和製機械所の盛に行はるゝ地方は愛知縣を第一とす、絹織物は日本工

藝品の主要なるものにして其の産地は京都、群馬、福島、山梨等を最とす、木綿、絹綿交織其他の織物の産額は愛知、埼玉、奈良、大坂を以て最多とす、染物は京都の專業にして友禪染其の名高し
 陶器磁器は愛知の七寶燒、瀬戸燒、佐賀の伊萬里燒、石川縣の九谷燒等著名にして、神奈川又多く之を産す、漆器は日本固有の工藝にして春慶塗、津輕塗、日光塗、輪島塗、駿府塗、和歌塗等あり、蓋し漆樹は東北に限り産するを以て南方には更に漆器を産せず
 紙類の最重要なるものは美濃紙及び半紙にして、高知縣の産出を第一とし、愛媛、福岡二縣之に次ぐ、近時西洋紙の製造に従事するもの亦少からずと雖も其の産額未だ盛大ならず、編物は疊表の類にして備後表、琉球表吳座等の最も多く産出するは大分縣にして、岡山、福岡、廣島等之れに次ぐ
 油類は菜種油を第一とし、全國一般に之を製造す、綿油は南方にあらざ

れば製出せず、其の最も多きは九州西北部にして、愛知及び大坂の四近之に次ぐ、其他摺附木は東京にて製造するを夥しく、銅器は京都及び富山に多く、革類は兵庫縣より多く産すれども、其の産額未だ大ならず
 (二六) 漁業は如何

我が國南には黒潮の暖流あり、北には親潮、「ライマン」、樺太等の寒流あるを以て南方及び北方より許多の魚族を我が近海に齎來す、即ち北海道に於ける鮭、鱒、鮠、鰈を初めとし高知、紀伊、駿河、千葉、茨城には南海の魚類例へば鯉鮪等多く、鱈は各國に多く、鱈は島根、長崎を以て最も多しとす

(二七) 道路の區別を記せ

道路は之れを國、縣、里の三道に分つ、國道とは東京より道廳府縣廳、各開港場并に伊勢太廟に達するもの、及び道府廳と師團本部を連絡するものを云ひ、縣道は各府縣を聯接し、師團より營所に通し、又都會の往

還等の類を云ひ、里道は各村の通路、田畝の徑路、或は牧場等に至る小路を云ふ、その幅員は階級に因て廣狹あり

(二八) 航路の大略を記せ

我が國は四周環らずに海を以てしまた河湖の航通すべきもの多く、内國諸港の運漕及び支那、朝鮮及び浦鹽斯德港間の往復は我が掌中にあり、日本郵船會社は横濱を中心とし、西は四日市、神戸、長崎、上海、天津、朝鮮の諸港及び浦鹽斯德等の間を往復し、東は荻ノ濱、函館、小樽、根室、千島諸島に至り、南はヒリッピン群島のマニラを経て濠洲メルボルンに至るをあり、又屢々ハワイ島に航す、大坂商船會社は大坂を中心とし、専ら關西の運漕を業とす、即ち岡山、多度津、宇和島、廣島、馬關より伯耆の境に至り、南は徳島及び和歌山等の間を往復す

(二九) 内國商業の有様は如何

全國の商業上最も必要なる貨物を米とし、之れに次くを清酒とす、其他

麥、甘藷、大豆、生絲、織物、茶、石炭、木材、魚介、綿織、陶器、紙等を主要の商業貨物とす

東京は内外の貨物悉く此に幅輳し、大坂は關西貿易の中心にして中國四國の貨物は此地に集まり、殊に米の價は此地の相場によりて左右せらるるなり、其他横濱、神戸、名古屋、仙臺、金澤、箱館、徳島、福岡等は著名の商業地なり

銀行は恰も人身の血液の如く、國家金融の融通に最も大なる關係を有するものなり、日本銀行、正金銀行、國立銀行はその主なるものにして、日本銀行は全國の財政を整理し、正金銀行は横濱にありて海外貿易を調和す、其他の商業會社は米商、貸金、織物、水産會社の類を初とし、其他無數の小會社あり

(三〇) 外國貿易の景況如何

(三一) 特別輸出港を列舉せよ

我が外國貿易に最も關係あるは、清國、合衆國、濠太利、香港、浦鹽斯

徳及び英、佛、獨等にして、將來東洋の大市場たるべきは疑ふべくもあらず

通商條約は、各其地の出稼人を保護し、併せて商事を監督す、而して本邦に於て貿易を司る所は横濱、神戸、長崎、新潟、函館の五港に大坂を加へ、此等を普通の貿易所とし、下ノ關、博多、佐須奈、鹿見及び對馬の嚴原の五港は朝鮮に限り通商貿易を許す、又米、麥、麥粉、石炭硫黃の五品を海外に輸出する特別輸出港を舉ぐれば、伊勢の四日市、肥後の三角、肥前の口ノ津、筑前の博多、後志の小樽、豊前の門司、長門の下ノ關、越中の伏木、肥前の唐津、釧路の釧路等なり

第二章 東海篇

(二三)東海道の位置境界は如何 (二三)東海道中有名の山脈を舉

げよ (三四)東海道の氣候は如何

東海道は關東平野の北境より紀伊半島の東側に至る太平洋沿岸東西百四十里南北大約二十里を出入する狹長なる地方 面積二千六百五十八方里 餘人口九百三十三萬六千にして、西は紀伊山系及び鈴鹿山脈によりて南海道及び畿内に界し、北方中仙道諸國に接する中央部には木曾赤石關東の三山系及び富士帶の諸山脈蟠繞し、東北境には阿武隈山系の餘派ありて東山道の界を分つ、而して南方はすへて太平洋に面するを以て地勢南方に漸下し河流從て南流す、海岸は屈曲甚しく總房、三浦、伊豆、志摩の四半島、東京灣、駿河灣、伊勢内海の三大灣交互に出入し、黒潮の暖流は其の前面を横過するを以て氣候溫和寒暑の差少し、道の中央伊豆半島の北に當りて箱根嶺あり、峻坂凡そ八里古より海道無双の天險と稱し、往時は此所に關門を設けたりしが近年瀛車の嶺北に開通せるを以て交通の便を妨げず、彼の八州の地を關東と稱せしは蓋し此關門ありしか爲なるへし、又道の東北隅奥羽に通ずる地に道路險惡の所あり勿來と稱す、勿來關趾今尙は存せり

(二五) 關東諸國の形勢は如何 (二六) 關八州の國名は如何

關東諸國の西方は箱根山彙及び關東山系蜿蜒し、小佛秩父の諸山重疊し地勢頗る峻峻なり、馬入川、玉川、隅田川の諸川此間の水を集め東南流して東京灣若くは相模灘に注ぐ、隅田川以東利根川下流の灌域は地勢平衍一大平野をなす、而して東北東山道に接する地は八溝、鷲子、加波、筑波(皆阿武隈山系の餘派)の諸山起伏し、那賀、久慈二川其の間を東南流して鹿島灘に注ぐ、箱根嶺以東相模灘に面する地方を相模と云ひ、其の東北地勢極めて平坦にして隅田川其の中央を流るゝの地を武藏と云ひ、武藏の東江戸利根小貝諸川の間にある平野を下總と云ひ、下總より西南海に斗出する半島の根部を上總、南端を安房と云ひ、下總の東北阿武隈山系の間にある地方を常陸と云ふ、以上の六國に加ふるに利根那賀二川の上流地方即ち東山道の上野下野の二國を以てするときは之を關東八州と稱す

(二七) 東京及び其の沿革は如何

東京は關東八州の中央武藏國に在りて隅田河口に跨る大都會なり、其の地東南は東京灣に臨みて外洋に通し、東北西の三面は平野遠く連り、四方四里の間地勢平坦河渠多く、所謂四通八達の要樞にして人口百廿八萬實に大帝國の首都たるに耻ぢざるなり、古は武藏野と稱し一望際なき平野なりしが、足利氏の末世太田道灌始て此に城き、後徳川氏の覇府を此地に開きしより頓に繁華の地となり、明治二年遷都改稱も江戸以來一層其の繁昌を増せり、織物マツチ錦繪籠甲細工蒔繪細工等の産出夥し

(二八) 東京の驛路并に貨物運輸の景況を問ふ (二九) 鐵道の起點を問ふ

東京は嘗に全國政治の中心なるのみならず、又實に貨物集散の中心なり、殊に關八州、中仙道及び奥羽地方の産物は一旦悉く此地に輻湊するを以て商賣交通極めて盛にして、所謂四宿の地は四方驛路の起點たり、即ち市

街の東北千住よりするものを奥羽街道と云ひ、北下板橋よりするものを中仙道と云ひ、南方品川よりするものを東海道とし、西内藤新宿よりするものを甲州街道とす、然れども當時の運輸は専ら鐵道の便に依る、即ち奥羽兩毛及び信越に到るものは上野よりし、甲武及び中央線は新宿より發し、東海道に致すものは新橋よりし、千葉佐倉に至るものは本所よりし、更に上野の北赤羽と品川との間を接續する山手鐵道あり

(二三)横濱の景況を記せ (二三)横濱より外國に至る航路を問ふ

東京の西南瀛車時一時間許瀛車は一時間に約八里と走るに横濱あり、我邦第一の開港場にして東京灣に臨み東京の門口をなす、人口十五萬三千餘、神奈川縣廳の所在地なり、而して北米桑港及びバンクーバーより上海若くは香港に至る要衝に當り、且つ本邦第一の輸出品なる生糸の輸出港なるを以て内外の船舶日夜絶ゆることなし、今此地に於ける貿易品の主要なるものを舉ぐれば輸出品には緑茶、絹布、熨斗糸、生銅等輸入品には綿絲、砂糖、石油、

縮緬、吳呂等(各品百萬圓以上に及ぶ)なり

(二三)横須賀浦賀附近の形勢如何 (二三)東洋第一の造船所及び其の位置を問ふ

東海道鐵道は横濱の西陸路七里半大船より一支線を三浦半島に派す、その末端は即ち横須賀なり、横須賀は東京灣に臨み東洋第一の造船場のある所にして、鎮守府開廳以來市況漸く盛況を呈す、其の南數里の地に浦賀港あり、浦賀の東端は即ち房州富津と相對して東京灣を扼守する觀音崎の要害にして堅牢なる砲臺の設あり

(三四)鎌倉江ノ島の形勝如何

鎌倉は三浦半島の西北に在り、源賴朝覇府を開きしより源氏三代北條八代の間天下政令の中心たりしを以て名勝故蹟頗る多し、鶴ヶ岡八幡、建長寺、圓覺寺、稻村崎、葛西谷、由井濱等その主なるものなり、又その前面相摸洋に濱する一体の地は江ノ島名産貝細工と稱し眺望を以て著る

(三五) 小田原箱根附近の都邑を擧げよ

相摸灘の沿岸に藤澤、平塚、大磯海水浴場、國府津等の名邑あり、瀨車は箱根の險を避くるか爲に線路北方の谿間に入りて駿州御殿場に達す、國府津の西に小田原相摸第一の都會あり、北條氏の故趾にして早雲寺今尙は存す、夫より尙は西方に行くときは湯本を経て箱根の嶮坂に出つ、此地は温泉に富み世に七湯と稱して浴客常に絶えず、頂上に風光に富める蘆湖周囲あり、箱根關趾は其の南岸に存す

(三六) 關東平野中東京以北の都會

上野東京下谷區の正北瀨車四十五分里にして(埼玉縣廳の所在地)浦和あり、又數分時にして大宮に達し、線路二條に岐れ、一は鴻巣、熊谷を経て上州高崎に達し、一は野州小山に至り又分れて水戸に達す、更に新宿驛の西方瀨車一時程里の地に織業を以て有名なる(舊甲州街道の一驛)八王子あり、其の北に五日市あり、又大宮の西北に川越名産あり

(三七) 秩父地方の形勢如何 (三八) 東京市水道の起端を問ふ

平野の西北地勢嶮峽の地を秩父といふ、武甲、三峯諸山重疊して檜杉縦等の良材を出す、此等の木材は皆此山間より發する荒川隅田川の上流を筏下す、彼の東京百萬の人民に清良なる飲用水を供給する多摩川も亦此山間より發するものなり

(三九) 利根下流の都會及び産物の著名なるものを記せ

利根川は上野に發源し、武藏の北境に沿うて下總に入つ關宿に至りて一支流を分つ、即ち江戸川にして武藏の國境を南下し野田名産醤油、流山名産市川味淋、及ひ里見氏の舊蹟甲府臺下を過さて東京灣に入る、甲府臺の東には小金ケ原及び習志野あり、而して本流は關宿より東南流して下野より來る鬼怒川を合せ、又(河の南)手賀沼、印旛沼、長沼及び(河の北)霞浦、北浦等の水を合せ縮布を以て有名なる銚子又名の漁場なりに至り海に入る、印旛沼の南に第一旅管の分營地佐倉あり、東京灣の東岸に千葉縣廳の所在地千葉あり

り、共に主要の都會にして鐵道を以て東京に通すへし、利根河口の南端を犬吠岬といひ、燈臺の設あり、其の西南九十九里濱は、鯔漁を以て有名なり

(二四〇)常陸の形勢及び都會を擧げよ

利根本流以北常陸の南半は地勢平衍なれども北半は山岳起伏し、國境は阿武隈山系連亘す、唯東方沿海の地のみ僅に平坦にして奥州濱街道を通せり、その磐城に通ずる峻峻の地に勿來關趾あり、國境の連山を離れて國の南北兩半部の中央に聳ゆるを筑波山二八九七尺とす、徳川三家の一なる水戸公の舊藩地水戸市は山の東北那賀川の沿岸に在り、茨城縣廳の所在地にして、人口二萬六千餘之を關東平野の東北端とす、此地より野州小山を経て上州高崎に達する水戸鐵道あり、水戸に次く都會を土浦といふ、霞浦の北端にあり

(二四一)房總半島の形勢及び産物如何

上總安房の地は遠く海中に斗出し、沿岸の地は漁業最も盛に、内地は山岳起伏平地少く、石材木材を産す、鋸山清澄の諸山半島の中央部を東西に綿亘し兩國の境界をなす、安房には館山、北條の名邑あり、半島の南端野島崎に燈臺あり、觀音崎と東西相對して東京灣口を扼守する富津砲臺は上總の地にあり

(二四二)富士帶地方の形勢は如何 (二四三)甲斐の地勢は如何 (二四四)

甲斐の産物は如何 (二四五)伊豆の地勢は如何 (二四六)伊豆の温泉は如何 (二四七)伊豆の産物は如何

富士帶火山脈の盟主たるものは甲駿の境上に屹立する富士山なり、拔海一萬二千四百六十七尺、容姿の秀麗なること宇内に冠たり

富士山北高臺の地を甲斐とす、西には赤石山系に屬する駒ヶ岳、地藏岳及び北岳、七面山、身延山法華宗の本山 久遠寺あり等の諸高峯二條の連鎖をなし、東は關東山系の峯巒ありて武相と境を分ち、北は富士帶の八ヶ岳を以て

信濃と境を接し山嶽四環地勢峻峽唯中央の甲府四邊の地のみ僅に平夷なり、甲府往時武田氏根據の地は國中唯一の都會にして、人口三萬二千餘、山梨縣廳の所立地なり、此地方は織蠶及び葡萄の栽培を以て著る地勢此の如きを以て此の間に發源する水流は皆國外に流出す、釜無川は西北境に發源して南流し、笛吹早川の二川を合せて富士川となり、殆んど全國の水を集む、東南方天目山武田勝頼戦死の地笹子峠以南の水は二派に分れ、北部の水は多摩川となりて武藏に入り、南部の水は富士山の北麓山中湖より發する馬入川に注ぎて相摸に入る、山中湖西(富士の北麓)には河口、西、精進、本栖等小湖相連れり、箱根嶺南相摸灣と駿河灣とを分つ半島地を伊豆といふ、此の地は甲斐と全く其の關係を異にし、重巒國の中部に蟠坼し、東南西の三方沿海の地のみ僅に平坦なり、國の中央に聳ゆる天城山四六六尺は水石材及び薪炭を産す、國中温泉の湧出する所極めて多く、熱海修善寺土肥等最有名なり、國の南端に下田港あり、其の西方の石廊崎

及び南方の神子元島ニコセトに燈臺あり、所謂七島は國の東南海上に點在す、此國河流の大なるものなく、獨り狩野川天城山に發源し北流して駿河灣に注ぐ、葦山修善寺等は皆其の近傍に在り

(二四八) 豆南諸島及び小笠原島の形勢を問ふ (二四九) 八丈島の産物は如何

は如何 (二五〇) 小笠原島の沿革及び産物は如何

富山帶火山脈は一旦伊豆に盡き、更に南方大洋中に現出して豆南諸島を起す、伊豆の正東に在りて諸島中最大なるものを大島周圍三十三里餘東京と距ると三十二里といふ、三原山中央に峙ち噴烟常に絶えず土地礫確なるを以て住民多くは漁獵に従事す、其の西南に利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御倉島等の諸島あり、其の南に八丈織を以て有名なる八丈島東京と距る七十餘里あり、各島皆海産物に富み就中鯨鮪を最とす

豆南諸島の南方に當り殆んど熱帯に近接して小笠原群島あり東京と距る三百八十餘里三百年前小笠原貞頼(信州深志城主)の發見に係り、人口千餘あり、寒暑の

差甚しからず、地味一般に豊饒にして耕作牧畜に適し、能く芭蕉、へちま、鳳梨、珈琲等の熱帯植物を生し又漁獵の利夥しいふ、群島中の大なるものを父島(北)母島(南)とす、其の南方の硫黄島は硫黄の産出夥し、以上の諸島は皆東京府の管轄に屬す

(二五)駿河の地勢及び河流を記せ

富士帯以西駿河灣に面する地は即ち駿河にして富士山其の北境に峙ち地勢斜に南下するを以て、甲斐より來りて國の中央を流るる富士川十八里間舟楫の利あり赤石山系に發して遠江の境を流るる大井川海道第一の難渡及び二川の間利ありに在る安倍川等皆急流の稱あり、蓋し國名の因て起る所なるへし

(二五)駿河の形勝及び産物を問ふ (二五)東海道中第一の勝地は

何れなるや (二五)静岡の沿革は如何

今東海道瀛車に乗して御殿場を發し、黄瀬川に沿うて足柄山の西麓を南下し沼津に去るときは、瀛車は夫より東海道と共に浮島原なる平地の海

岸田子浦に沿うて走り、富士川の急湍を越え、薩陀山絶壁の下を過ぎて今川義元及び徳川家康の舊趾を以て有名なる静岡駿府又は府中と稱すに達す、此の間の海岸には興津名産清見瀨、三保崎、清水港、久能山家康故廟の所在地等の勝地あり、加ふるに富士愛鷹アシメカの諸山其の趣を添うるを以て形勝古來海道第一と稱す、静岡は静岡縣廳の所在地にして東京及び名古屋の中央に位し(瀛車時各六時間)紙類漆器竹器の製造及び製絲製茶の業盛なり、其の淺間社は嘗て山田長政の暹羅より軍艦の額を獻せし名社なり、瀛車静岡を發するの後直に安倍川を渡り、日本武尊の故蹟焼津野を經、海道第一の荒川なる大井川を渡る

(二五)遠江の山川都邑及び産物を問ふ (二五)今切の沿革如何

(二五)遠州灘航行の困難

大井川を過ぎ牧野原に入れば即ち遠江なり、此の間の鉄道は海岸を距ること稍遠く(信濃諏訪湖に發源して此の國の中央を貫流する)天龍河東

の磐田原及び河西三方原の南に在る(國中唯一の都會)濱松を過くるの後濱名灣口の鉄橋を渡るの時に於て始めて海岸に出づるなり、濱名灣は昔時全く湖水なりしか四百年前地震海嘯の爲に湖口陷落して現形となり、其の鉄道の通する灣口を今切渡と名く、國の中部以北は秋葉、鳶巢、高天神等赤石山系の諸山重疊し、山林に富み良材を大井、天龍諸川に出す、以南は平原の地多く茶樹の栽培に適し、海岸は一帶の砂濱遠く連り、牧野原の極南御前崎(燈台あり)より參河なる渥美半島の極端伊良古岬に至るまで碇泊の便なく遠州難航行の難を加ふ、御前崎は伊豆の石廊崎と東西相對して駿河灣口を扼する所のものなり

(二五)東海道西部諸國と關東諸國との比較を示せ

本道西部諸國は其の規模小なるのみにして諸部の關係酷だ關東諸國と相似たり、即ち其の中央なる伊勢内海及び參河灣は東京灣及び相摸灣の如く、西境の紀伊山系鈴鹿山脈及び東北境の木曾山系の餘派は富士帶、關

東山脈及び阿武隈山系の餘派の如く、豊川、矢矧川、木曾川、町屋川、三岳川、雲出川、宮川諸川の平野を灌溉するも關東諸川の八州の平野を灌溉するか如く、名古屋市の水曾川下流の灌漑に立ち四日市の良港を控ゆるも亦東京市の隅田下流の灌漑に立ち横濱港を有するか如し

(二五)參河の山川都邑及び物産を問ふ (二六)參河灣は何により

て形つくらるゝや (二六)伊勢内海の門口をなすものは何なるや

瀨車濱名灣を渡るの後少時にして參河の地に入り、國の東部山間に發源する豊川の下流豊橋(第三旅管の分營あり)に至り、一旦海岸に出て更に内地に向て國の中央に至り國中唯一の都會岡崎(徳川氏創業の地)を經、北境美濃の界に發源する矢矧川を渡り平野の間を通過し、大平川一名境川(參尾の國境)を越えて尾張に入る

豊川の注入する所を渥美灣といひ、矢作川大平川の流入する所を衣ヶ浦

といふ、共に渥美半島と尾張の智多半島とによりて扼せらるる三河灣の一部たり、渥美半島の極端伊良古崎は管に智多半島の師崎と共に三河灣を扼するのみならず、又志摩半島と相對して伊勢内海の門口をなす、國の東北方遠江信濃美濃の國境及び尾張に接する西北部は木曾山系の餘派連亘するを以て國の北半部は地勢概ね峻峻なり、國の東北豐川上流の地に有名なる砥石の産地名倉あり

(二六三)尾張の山川都邑及び産物を擧げよ (二六四)三府に次ける大都會は何れ (二六五)名古屋の名産は如何

尾張の地は東北方(參河及び美濃の境)に木曾山系の餘派あるのみ、國內平坦にして伊勢内海に臨み信濃に發源せる木曾川其の西北境を流る、東海道瀛車參河より來り熱田神宮(草薙劍を祭る)を以て有名なる熱田又單に宮を過ぎて名古屋(愛知縣廳の所在地)に至り、更に西北に走りて美濃の岐阜に通ず

名古屋は尾州公の舊城市にして人口十八萬九十餘、三府に亞ける大都會なり、舊城は市の北部にあり金鯨を以て著れ、第三師管の營所たり、七寶燒、織物、扇、生絲、酒等を産す、熱田の東方數里街道に沿うて綵織に有名なる鳴海及び有松あり、有松の南に桶狹間(今川義元戰没地)あり、知多半島の東岸に半田、武豐あり、西岸に陶器を以て名ある常滑あり、名古屋の北方一里半の地に清洲(信長の居城地)あり、木曾川の末流三角洲の地は地味膏腴人烟稠密にして、一ノ宮、江本、津島等の名邑あり

(二六六)伊勢の山川都邑交通及び物産の概略を示せ (二六七)皇廟の所在地を問ふ (二六八)東京より神廟巡拜の順路を示せ (二六九)二見浦の位置は如何

伊勢は内海の西岸に在り、沿岸の地は平坦なれども南西北の三方(志摩紀伊大和近江美濃に接する國境)一帯の地は大臺原、國見、經ヶ峯、鈴鹿の諸山駢列して地勢頗る峻峻なり、桑名の南に在る町屋川、四日市を流

るゝ三岳川、津の南を流るゝ雲出川、山田の北を流るゝ宮川等皆此の連山の間に出てゝ東流す

熱田に渡る要津桑名(名産時雨蛤)は木曾河口の南にあり、その近傍より萬古焼を出す、其の南に四日市あり、横濱以西の良港にして洋紙綿絲の製造盛なり、又其の南方に津市(藤堂氏の舊藩地)あり、人口二萬九千餘、三重縣廳の所在地なり、此の地より南の方松坂を過ぎ大臺原山に發する宮川を渡れば則ち皇廟の地に達すべし、外宮(豐受太神を祭る)は山田に内宮(皇太神を祭る)は宇治に在り、人口二萬八千餘、春慶塗は此の地方の特産なり、又東南海上に二見浦の勝地あり

此國の鐵道は近江の草津より伊賀の地を経て來り、龜山に至りて二條に岐れ、一は四日市に至り、一は南方神廟の地に達す

(二六九) 志摩半島の形勢如何 (二七〇) 鳥羽港の盛衰を問ふ

志摩は伊勢の東南端の一小區にして紀伊山系の東端なるを以て平坦の地

なく、東西三里南北七里の小國なれども海岸の屈曲極めて多く、沿岸の長さ殆んど九十里に及ぶ、國の北岸二見浦に臨める地に鳥羽港あり、昔時は豆州下田より遠州灘七十五里を航行せし船舶は必ず此處に碇泊せしか、今は其の繁華を四日市に奪はる、國の東南安乘崎に燈臺あり

(二七一) 伊賀の地勢都會及び産物を問ふ

伊勢の西方大和山城近江三國の間に介在する小國を伊賀といふ、峯巒圍繞して中央の地僅に平坦なり、此國唯一の都會なる上野は東海道より畿内に通ずる間道にして伊賀越の要路に當れり、此國各所より石炭を産す

(二七二) 東海道の市制地を列擧せよ

東海道中の市制地は武藏の東京、横濱、尾張の名古屋、駿河の静岡、伊勢の津、甲斐の甲府、常陸の水戸是なり

第三章 畿内篇

(二七)畿内の位置并に地勢を略記せよ (二八)全國第一の美術地
 とは何れぞ (二九)全國第一の工業地は如何 (三〇)畿内
 の國名を問ふ

畿内は瀬戸内海凹地帯の大坂灣より東北に進入したる低地にして、琵琶湖の流末なる淀河其の中央を貫流し、東南は鈴鹿山脈及び紀伊山系によりて東海道の伊賀伊勢及び南海道の紀伊に界し、西は茅渟海及び山陽道の播磨に連り、北は中國山系によりて山陰道の丹波及び東山道の近江に接す、地積四百四十五方里五九東海道の六分の一人口二百五十萬二千餘全上四分の一あり、往時は所謂中州にして政治及び商業の中心なりしか、明治遷都の後は多少其の繁華を減殺せらる、然れども舊蹟故趾甚た多く従て美術の淵藪とし又工藝地とし、商業地として全國肩を比すへき地なし、乃ち山城、大和、河内、和泉、攝津の五國より成る

(三七)京都の所在は如何

京都は山城の中央に位し鴨川に沿うて立てり、人口三十一萬六千餘、桓武天皇以來千七十餘年の帝都たりしを以て今尙は舊規を存す、現今は京都府廳の所在地にして第三高等學校及び美術學校等の設あり

(二六)京都の勝地を擧げよ

加茂川は京都の東北丘陵の間に發源し、市の東部を南流し、大に水利及び風致を興ふ、此の川に架せる三條通の大橋は美を以て稱せらる、而して四方皆山なるを以て山水の風景四時皆賞すへく、嵐山(櫻花)高尾(紅葉)は其の主なるものなり、其他音羽瀑布、清水觀音、男山八幡、賀茂神社、淨土真宗の本山なる東西本願寺、足利氏の建立に係る金閣(義滿)銀閣(義政)、(東北近江の境に在る)比叡山上の延曆寺(天台宗の本山)等一々枚舉に遑わらず

(二七)山城の地勢及び産物を問ふ

桓武天皇遷都の大詔に曰く、山背の地山河襟帶自然に城を爲すと、實に北

方(丹波の界)には愛宕鞍馬の諸山ありて(東北方近江の境に峙つ)比叡山に連り、東南(近江伊賀大和に接する所)にも丘陵起伏し(其間に笠置山あり)、東の方近江の琵琶湖は瀬田川となりて茶の名邑宇治に至りて宇治川となり、加茂川及び(丹波より来る)桂川を合せて、淀に至り又木津川を合せて淀川と稱し、大坂の北に至りて海に注ぐ、京都の南方伏見(人口一萬七千餘)の南に巨椋沼(大池)あり、此の邊田野遠く開け地味豊饒なり、此國の産物は西陣織、清水焼及び友禪染等の工藝品を主とす

(二八〇)大和の地勢及び都會を問ふ (二八一)奈良の沿革は如何

れず

(二八二)舊都吉野の所在を問ふ (二八三)全國第一の櫻花の勝地は何

大和の北部平野の間に奈良(南都)あり、元明天皇より七代八十餘年間の帝都にして我邦古代の美術工藝の存するもの甚だ多し、現今奈良縣廳の在る所なり、市街の東方東大寺に有名なる大佛(丈五丈餘)あり、名産を奈

良晒及び奈良漬とす、此地より大坂に至る瀧車の經路に郡山あり、奈良に亞く都會とす、國の南部紀川上流の地は山岳重疊交通極めて不便にして、南朝の舊都吉野は其の間に在り、紙及び葛を産す、吉野山の櫻花は一目千本の稱あり、以南は紀伊の山林に接し、良材に富み、十津川の便によりて南紀伊に輸出するもの多し、紀川は國の中央を西流して紀伊に入る

此國は上代帝都の所在地なれば今尙ほ名勝故蹟の存するもの甚だ多し、神武天皇奠都の畝傍橿原等其の主なるものなり

(二八四)大坂の狀勢を略記せよ (二八五)大坂の沿革は如何 (二八六)

外國貿易の景況は如何 (二八七)鐵道の起點を問ふ

大坂は攝津國に在り、大坂灣頭淀河口(河村瑞賢の開鑿せしより安治川の名あり)に位し、人口四十八萬五千餘關西の要衝たり、古は難波と稱し仁德天皇の都し給へし地にして豊臣秀吉築城以來市況宇内に冠たり、舊

城には第四師管の營所を設く、棉布煙管一貫張真田織の産出甚た盛なり、市の東南に在る四天王寺、北方に在る天満宮等は市人遊覽の勝地なり、市は外國貿易場地なれども大艦寄航の便を缺くを以て貨物の出入は西方神戸の奪ふ所となれり、鐵道は北方梅田よりして東は京都西は神戸に至り、南方難波よりして泉州堺及び湊町よりして奈良に至るを得へし

(二八) 釀酒の名地は如何

大坂の西數里にして池田川あり、酒の釀造を以て有名なる池田、伊丹の諸邑此の河邊に在り、尼崎西宮の名邑は又其の西にあり

(二九) 神戸の形勢如何 (三〇) 神戸の外國貿易の景況は如何

(三一) 湊川神社の所在は (三二) 福原の由來を問ふ

神戸は攝津の西部に在り、元と兵庫神戸の二市街中央に湊川ありなりしが今は合して一市となり人口十五萬二千餘名古屋に亞く我邦第二の互市場たり、其の輸物の主なるものを舉ぐれば米、綠茶、樟腦、マッチ、石炭(以上各百萬圓以

(磁器、陶器、錫、生銅、アンチモニー、椎茸等にして輸入の主なるものは綿糸織、石油、練綿、生綿、砂糖、金巾(以上各百萬圓以上)縮緬、吳呂、紡績機械、毛繻子、フランネル等なり、市は又洋紙及び食牛を出す、元の兵庫の地に湊川神社(楠正成を祭る)あり、又安徳天皇の舊都福原あり

(三三) 攝津の山川及び名勝を問ふ

大坂神戸等の他神戸の北方に布引瀑及び有馬温泉あり、播磨の境に鶴越(源平の古戰場)あり、須磨浦は明石海峡を隔て淡路島に對し風光明媚なり、此國の北境は山岳重疊して交通不便なり、武庫川は西北境に發し、國の中央を澁漑し西宮の東に至りて海に注ぐ

(三四) 河内の山川及び産物を問ふ (三五) 金剛山の位置を問ふ

河内は大和和泉の兩國に挟まれる狭長の平地にして、大和北部の水を集めたる大和川その中央を貫流し、西南部に在る狭山池(崇神の朝之を穿

つとと共に灌漑を便し棉の栽培を助く、是れ此の國の木綿の産出多き所以なり、東南大和の境に金剛山あり、千早城趾今尙は山腹に存す

(二九六)和泉の都會を擧げよ (二九七)堺港の盛衰を聞かん

堺は和泉の北境大和河口の南に位し大坂を距る僅に三里半の地に在り、人口四萬六千餘鉄器及び段通を産す、昔時は外國貿易の要地なりしが神戸開港以來大に其の繁盛を減せり、和泉國中堺に亞ける都會を岸和田とす、堺の西南國の中央部の西岸に在りて、商況頗る盛なり

(二九八)畿内の市制地を問ふ

山城の京都、攝津の大坂、神戸、和泉の堺なり

第四章 東山篇

(二九九)東山道の位置及び地勢を略記せよ (三〇〇)本州大河の發源地とは何れ (三〇一)東山道の國名を問ふ

(三〇二)東山道の國名を問ふ

東山道は本州東半部の中央を西より東に駛る山勝ヤマガキの地方(山道の名ある所以)にして本州大河の發源地たり、其の形倒く字狀をなし恰も本州を代表するか如く、面積六千八百五十方里(約ね東海道の二倍に畿内三倍を加ふ)人口八百六十五萬あり、道の西半(近江美濃飛騨信濃上野及び下野の六國)は東海道及び北陸道の間に入り、西端の近江を以て畿内の山城及び纔に山陰道の丹波に接す、昔時は京都江戸間第二の往還にして中仙道(道程東海道より稍長し)と稱したり、東半(磐城岩代陸前陸中陸奥羽前羽後の七國)は太平洋及び日本海の間に入りて北端津輕海峽を隔てて北海道に對す、即ち古の奥羽の地なり

(三〇三)近江の山川都邑を問ふ (三〇四)我邦第一の大湖及び其の四邊の都會は如何 (三〇五)關ヶ原の位置を問ふ

(三〇六)關ヶ原の位置を問ふ

近江は東方美濃に通ずる所及び西南山城に通ずる所のみ平坦にして、四境皆山脈を以て圍まる、即ち東南(伊勢伊賀の境)に鈴鹿山脈あり、西北(山

城丹波若狹越前飛驒の境には中國山系の餘派及び三國山系の濃飛高原に連るあり、然れども其の中央には(國名の因て起れる)我邦第一の大湖なる琵琶湖周回七十三里を湛へて交通を利し風致を興へ、四近の平野は此に流入する諸川流の爲に灌漑の便を得、地味肥沃米穀に適す、鐵道は中仙道と共に京都より來り、湖水の河となる所に位する天智帝の故都大津(滋賀縣廳の所在地)を經草津に至りて一支線を派し、鈴鹿山麓(往古三關の一)を紆回して伊勢に通し、本線は湖岸に沿ふて東北走し煙草及び藍の栽培に適する地方を經、井伊氏(二十五萬石)の舊藩地彦根を過ぎ米原に至りて越前敦賀より來る鐵道に會して美濃に入る、縮緬の名を以て著はるゝ長濱は米原の北に在り、琵琶湖北に余吾湖あり、湖畔に七槍の名ある賤嶽あり、此の近傍は養蠶の業盛なり

國中の高山を膽吹山(四五二〇尺)とす、美濃の境に峙ち(美濃伊勢近江三國の境に聳ゆる)三國山と南北相對して徳川氏の古戰場關ヶ原を挾む

(二〇五)美濃の山川都會及び産物を擧げよ (二〇六)平野の大なるものを擧げよ

尾張平野の北方木曾、飛驒、長良、揖斐四川の灌漑する平地を美濃大野加茂原野ありといふ、鐵道は中仙道と共に西の方關ヶ原不破關より來り、戸田氏の舊城地大垣を過ぎ、揖斐川及び鵜飼を以て有名なる長良川を渡りて(提灯の名産地)岐阜岐阜縣廳所在地に達す、鐵道は此より南折して名古屋に至り、中仙道は木曾川に沿うて信濃に入る、飛驒川は飛驒に發し、此國の東北境唯一の切れ目なる谿間を通過して此國に入り南流して木曾川に入る、國の西北境に發源する揖斐長良の二川も亦國の西南に近きて木曾川に合す、木曾川は夫より南流し伊勢尾張の國境に入る

(二〇七)中仙道中央部の形勢如何 (二〇八)全國第一の高地は何れなるや、又其の地方に聳ゆる高山の名を示せ

信濃飛驒、兩國の地は南北兩山系の集合する處にして、我邦第一の高臺

地なり、故に大河の此間に涵養せらるるもの多く、又悉く他國に流入す、天龍木曾飛驒の三川は南に流れ、千曲、犀信濃川宮川神通川は北に向ふ、共に長大の河流なり、而して兩國の境及び美濃に接する處には、鎗ヶ岳、乘鞍山（一〇四五一尺我國第二の高山）御嶽等所謂飛驒山系綿亘し、東南境には赤石山系關東山系富士帶の諸山相連り、北は三國山系重疊し内地も亦高山多く、飛驒の如きは地味礪确全く耕作に適せざるなり

(二〇九) 飛驒の都會及び産物を問ふ

飛驒唯一の都會を高山といふ、中央の平地にあり、住民多く紡績に従事す、其の西南に位山あり、全山皆水松にして良材の名あり、山の東部地方は茶を産し、西部は紙陶器の製造盛なり

(二一〇) 信濃の山川都會及び産物を略記せよ (二二二) 信濃の名刹を問ふ (二三三) 我國に於て鐵道にアプト式を用ゆるは何れぞ

(二三三) 日本武尊東望詠嘆の地は何れぞ (二三四) 川中島の位置は如何

何 (二二五) 觀月の勝地は何所なるや (二二六) 生絲の産額最も多きは何れなるや

信濃は十州に境する大國にして地勢高峻本州中部の脊梁たり、氣候は從て寒く東北部は冬日雪深し、昔時は交通極めて不便なりしか近年大に道路を修め、鐵道を通し大に其の趣を異にす、當時既設の鐵道は上野高崎間の延長線にしてアプト式瀛車を以て有名なる碓氷峠日本武尊東望の地の隧道二十六箇所を通過し來り、善光寺如來を以て有名なる長野人口三萬長野縣廳所在地を経て越後直江津に達するものなり、上野の界なる輕井澤地名の東北に淺間（噴火）山あり、其の南方は（米の産地）佐久平にして諏訪の平地との間に蓼科山（八八二二尺）和田嶺等峙てり、瀛車の沿道に小諸、上田（人口二萬餘）等の名邑、姨捨山、鏡臺山（田毎の月）の勝地、川中島の古戰場あり、千曲川は佐久平の東南に發して西北流し、更に東北に向て川中島の東南を流れ、松本（人口二萬七千餘）の西南に發して川中島の西北

を流るゝ犀川と合し、越後に入りて信濃川となる、水源より國境に至る約六十里、沿岸の地を灌漑するを以て農産物頗る多し、此地方一般に養蠶紡績の業盛にして諏訪^{生絲の産額}、^{我邦第一}松代^{真田氏の舊城地}、須坂及び飯田等特に著名なり、上田地方は又蠶卵紙を出すこと夥し

天龍川は諏訪湖に發源し、紙傘及び漆を産する伊那の平地を南下して遠江に入り、木曾川は駒ヶ嶽に發源し、山林を以て有名なる木曾峽^{棧道及びの勝ありの下を過ぎ美濃に入る}

此國又温泉を湧出する夥しく北方の平穩、豐澤、別所、南部の諏訪、淺間、小谷等其の名高し

(三七) 中仙道東部の地勢は如何

中仙道の東部は其の形勢甚た相肖たる上野下野の二國(中間に日光諸山あり)に分つ、上野は利根川の上流、下野は那賀鬼怒二川の上流地たり、二國共に東北境は地勢極めて峻峻に、南方は平行にして關東八州の一部

をなせり

(三八) 上野下野の山川名勝及び産物を問ふ (三九) 我國第一の製

絲場は何れにあるや (四〇) 日光山の縁起及び景況は如何

高崎は上州南部の中央に在り、人口二萬七千餘第一師管の分營あり、東京を距る瀛車時約三時間中仙道の通路たり、其の西南に有名の製絲場富岡あり、兩毛鐵道は高崎に起り、前橋^{人口三萬二千餘群}及ひ有名なる織物の產地^{桐生野上足利野下}地方を過ぎて小山^{野下}に達す、高崎前橋地方は養蠶の業盛なり、利根川は上野の北境三國峠に發し、沼田に至りて日光白根諸山より發する片品川を合せ、又吾妻山より發する吾妻川を合せ、赤城、榛名、妙義三山の間を回流して武藏の國境に沿ひ下總に入る、榛名山麓の伊香保、吾妻山麓の草津及び磯部は温泉を以て著る

宇都宮(栃木縣廳所在地)は下野第一の都會にして小山の北方瀛車時五十分時に在り、東北鐵道一支線を此地に發し西北日光に至る、日光^{名産は徳塗物}

川氏祖廟の在る所にして結構宏大金碧燦爛たり、其の北に峙つ男體山一名山八一中に中禪寺湖あり、湖水溢れて大谷川の上流華嚴瀑直下四十丈となり、鬼怒沼に發する鬼怒川に入る、日光の南方に足尾の銅礦あり、宇津宮の東南に綿布の産地眞岡あり、東北鐵道は宇都宮より北走し、曠漠なる那須野を通過して磐城に入る

(三三)會津諸郡の山川都會及び産物を示せ

岩代の地は中央に安達太郎諸山南北に連亘して分水界をなし、地勢自ら二部に分る、其の西部は即ち會津諸郡の地にして宛も近江の如く、中央は低平にして猪苗代湖周圍十六里を湛へ、湖水の流末日橋川の西北流して越後に入る所を除くの外四境皆山を以て圍みたり、南西諸郡の水は大川及び只見川となりて日橋川に合流し、越後に入りて阿賀川となる、維新史上に有名なる若松松平氏舊藩地は湖の西北にあり、明治二十一年噴火せる磐梯六二六四尺其の東北に峙つ、會津諸郡の地は地味一般に礫确、農産漆

を除く)に乏しく鉄器、漆器、陶器、蠟等工藝品の製造盛なり

(三三)阿武隈上流地の山川都會及び産物を問ふ

阿武隈河上流の地は安達太郎山脈と阿武隈山系との間に挾れる谿谷的平原の地にして、磐城の西南部及び岩代の東北部を含有す、阿武隈川は磐城の西南境那須岳に發し、白河を貫き北折して兩國の境界をなし、岩代の地を過ぎて更に磐城に入り、陸前の境に至りて太平洋に注ぐ、白河は東京を距る瀛車時六時間に在り、戊辰激戦の地たり、其の北方二時餘(岩代の地に入り)にして二本松(丹羽氏舊城地)あり、又其の北方一時間にして福嶋(福島縣治在所)あり、阿武隈山系以東海岸一帯の平地は勿來に連る濱街道の通する所にして、平は東南地方の名邑たり、其の近傍は石炭を産し、三春駒と稱する良馬を出す、又福島地方は信州に亞ける養蠶製絲の名地たり

(三三)陸前の山川都邑名勝及び産物を擧げよ (三四)東山道第一

の都會は如何 (三五) 松島の位置及び風景は如何
 陸前の地は(西南)阿武隈下流の平地と(東北)北上下流の平地とを接續する平原にして、西北境は分水山脈を以て割り、本州東海岸の大灣なる仙臺灣を東南に控め、仙臺(宮城縣治在所)は平野の中央名取川の中流に在り、山道第一の都會にして、東京を距る瀧車時十二時間、人口六萬七千餘あり、第二師團及び第二高等學校の設あり、精好織(仙臺平)綾羽二重、銅器、漆器、埋木細工を産す、我邦三景の一なる松島は仙臺の東に當り、仙臺灣の西北隅にあり、無數の小島一々老松を戴きて碁布羅列せり、製鹽を以て名ある鹽竈は其の西南灣頭にあり、鐵道支線の至る所なり、灣の東部に牡鹿半島あり、北上川の本流(七十六里)其の西方石巻港に注ぎ、支流は北方に注ぐ、半島の南端に金華山あり、美觀を以て著はる、石巻は北上川の舟楫を以て内地と運輸を通するあり、又横濱と交通の便ありて此の地方の要港たり、米穀の輸出頗る多し

(三三) 北上川上流地の山川都邑を問ふ (三七) 衣川柵の位置如何

陸中は北上川山系と分水山脈との間にある長谷的平地にして阿武隈上流地と其の關係を同うす、北上川國の北境に發源し兩山脈間の水を集めて中央を南下し陸前に入る、南部氏の舊城地盛岡岩手縣廳所在地 人口三萬二千餘は青森に通する要路に當り、仙臺を距る瀧車時六時半(國の中央)に在り、安部貞任が戰死せし衣川柵趾は其の近傍に在り、北上川山系以外東部の海岸地は平地少く鑛山多く、南方陸前の牡鹿半島に至るまでの間は海岸の屈曲甚しく良泊從て多し、其の主なるものを宮古及び釜石の二港とす

(三八) 陸奥の山川都邑及び産物を擧げよ

陸奥は本州の最北端にありて三面海に瀕す(東は太平洋、北は津輕海峽西は日本海) 斗南津輕の二半島東西より北方に斗出して中間陸奥の大灣を抱き、中央分水山脈の起端恐山は斗南半島の北端に崛起し、國の中央八甲田山(六一一尺)に連り、尙ほ南方に延いて國內を東西二部に分つ、東南

境に發源する馬淵川及び十和田湖に發する相坂川アツサカは東部の平地を灌漑して東太平洋に注ぎ、岩木川は西南境に發源し、西部の平地を北流して日本海に入る、鐵道は陸中より來り、東岸に沿ひ陸奥灣に近き野邊地を過き、西に折れ小湊を経て本州最北の都會青森青森縣治所在地 人口三萬二千餘に達す、盛岡を距る瀨車時八時間餘なり、此地又東京及び箱館の間に瀨船の往復あり、青森の西南山を越ゆる數里の地に津輕氏の舊藩地弘前(人口三萬餘)あり、國中第一の都會にして商賈繁盛漆器を産し、鐵道を以て青森と相通す、岩木川の灌漑は地味豊饒米穀に適し、東部沿海の地は漁獵に適す

(三九) 羽前の山川都邑及び物産は如何

羽前は羽後と共に分水嶺の西にありて、南半部は磐城岩代越後の間に介り、西北の一部は日本海に臨み、北方鳥海山(六四六八尺)を以て羽後と境を分つ、最上川南境に發し、絲織(米澤織)精好織其他絹布の産出を以て有名なる米澤人口二萬九千より山形山形縣治所在 地人口三萬の近傍を通過し、米の産額夥しき平

地を灌漑し、國の中央の高峯月山(六四六八尺)の下を繞り、國境羽後の酒田に至りて海に注ぐ、全長五十六里此地方の大河なり、新莊は東北平野の間にあり、秋田に通する要路に當り、市街殷賑なり、鶴ヶ岡は西北部にあり又繁盛の一都會なり

(三〇) 羽後の山川都邑及び産物を記せ

羽後は分水嶺以西羽前と陸奥との間に在りて、西方一帯日本海に臨む、其の海岸は甚だ簡單にして、牡鹿半島の斗出して八郎瀨(周圍十五里)を擁するあるのみ、御物能代の二川國の南北を灌漑し、中央の地を除くの外田野開け米穀の産出夥し、能代川は陸中の北部尾去澤銅山の近傍に發源し、阿仁銀山より來る阿仁川を合せ、西流して漆器を以て有名なる能代港に注ぐ、御物川は東南境に發し蔭の産地を西北流し、秋田縣廳の所在地秋田舊佐竹藩地人 口二萬七千餘を過き土崎港に注ぐ、秋田は八丈織を産す

(三一) 東山道の氣候を問ふ

中仙道の地は本州の中央に在りて、高低の差甚しき故に寒暑の差亦著し、就中岐阜の地は一月中他よりも寒く八月亦暑く、長野の地之に次ぐ、一月中雨雪の量は長野最も多く八月は最も少し、舊奥羽の地は其の地勢によりて北上するに従ひ漸次温度を減す、青森の地は一月中の平均温度零下三、一にして、秋田の如きは雨雪の日數一ヶ月中二十七日餘に當り、其の量も亦夥し

(三三)東山道中の市制地を問ふ

市制地は美濃の岐阜、上野の前橋、陸前の仙臺、陸中の盛岡、陸奥の弘前、羽前の山形、米澤、羽後の秋田なり

(三三)東山道南北二部の比較を示せ

南部

- 舊中仙道の地なり
- 東海北陸二道の間に入りて海に瀕せず

北部

- 舊奥羽の地なり
- 岩代を除くの外各國皆海に瀕す

●殆んど東西に横ばる

○大河は多く南北に流る

○蠶絲の業盛なり

●氣候一月の平均温度殆んど氷點にして八月の平均温度は二四、七なり

●面積東海道より稍小にして人口は其の半に足らず一方里の平均千百人なり

第五章 北陸篇

(三四)北陸道の地勢及び區劃如何

東は羽越山脈によりて東山道の羽前岩代に接し、南は高峻なる山嶽によりて中仙道の諸國に界し、西は狹少なる若狹によりて山陰道に通し、北方一帯日本海に沿へる狹長全長約百三十里幅廣き處凡二十里なる地方なり、面積千五百七十七方里餘奥羽の三分一人口三百七十八萬餘奥羽の三分二より多し海岸は日本海沿岸の特相とし

●殆んど南北に横ばる

○大河は多く南北に流る

○一般蠶桑に従事す

●氣候一月の平均温度は零下一、〇にして夏八月の平均温度は二三、二なり

●面積中仙道の一倍半餘にして一方里の人口平均千〇三十五人なり

て屈折少く、獨り能登半島の突出して富山灣を抱き、若狹の灣曲して且つ鋸齒狀をなすあるのみ、區劃は西方より海に沿うて漸次に若狹、陸前、加賀、越中、越後、に分ち之に能登及び島地の佐渡を合せて七國とす

(三五)北陸道西部の山川都邑及び産物を擧げよ (三六)新田義貞

戦死地の所在を問ふ

道の西部に形勢全く相反せる二國あり、一は狹長にして岬灣出入犬牙の如く、一は海岸の屈折乏しく廣大なる平地を有す、前者を若狹といひ後者を越前といふ、海産(殊に鯛)に富める若狹の中央に小濱(名産若狹塗)あり、小濱灣に臨み敦賀との間に漁船の往復あり、敦賀は兩國の境に近き越前の地に在り、北陸第一の要津にして郵便會社の定期航海あり、南のかた鐵道によりて江州米原に至り、東海道鐵道に通すへし、其の北に金崎城趾及び新田義貞戦死の故趾(藤澤)あり、越前の北部に松平氏の舊城地福井(福井縣廳所在地)あり、人口四萬二千餘、往時北ノ莊柴田勝家と稱せと稱せ

し地なり、足羽川南境より來り市街を貫き、北方に至り東南境に發する九頭龍川と共に西南境に發する日野川に會し、坂井港に注ぐ、九頭龍上流の地に奉書紬、羽二重織を以て有名なる大野あり、福井の南數里の地に蚊帳及び鳥の子紙を以て有名なる武生あり、京都に通する要路とす

(三七)加賀の山川都邑及び産物は如何 (三八)九谷燒の産地は如何

何

加賀の南境に白山(八九四七尺)あり、其の脈東北に走りて越中の境をなし、能登の極端に至る、かくて地勢は西北に漸低するを以て河流も亦皆西北流す、東方犀川の下流に前田氏(百萬石)の舊藩地金澤(石川縣廳所在地)あり、人口九萬餘(横濱に亞く)の大都會にして第三師管及び第四高等學校の設あり、象眼細工、陶器銅器を産す、犀川の河口に金石港あり、金澤の東北越中の境に俱利伽羅山木曾義仲の古戰場あり、金澤の西南八里にして小松あり、陶器及び木綿を産す、夫より西南五里越前の境に近く大聖寺あり

り、陶器の名産を以て有名なる山中村九谷は其の北にあり、海岸の地は漁獲の利夥しく鯛、鰈、鯖、鰯等は其の重なるものなり

(三三九)能登の山川都邑及び物産を挙げよ (三四〇)日本海沿岸中第

一の製鹽地は何れ (三四一)輪島漆器の産地は何れ

能登は日本海沿岸中最大の半島にして東部の中央灣曲して七尾灣を抱く、其の西南(加賀越中の境なる寶達山の近傍)より滿庵を産し、西南一部の平地僅に耕作に適するのみにして全國到る所稔確農作に適せず、然れども漁鹽の利甚た多く製鹽は日本海沿岸第一と稱す、又北方の海岸に輪島あり、精好なる漆器を出す、七尾は灣の南岸にあり、北海の良港とす、半島極端の北角綠剛崎に燈台あり、其の南角珠洲崎に至るの間は近海暗礁多く、舟行頗る危険なり

(三四二)越中の山川都邑及び産物を記せ

越中は東南西三境皆山にして北方一帯海に臨む立山(タテヤマ)(九四〇一尺)は國の

東方に峙ち山の西方は神通射水二川の灌漑する平地なり、神通川は飛騨より來り、藥種(及び金銀銅鐵器)を以て有名なる富山(人口五萬七千餘富山縣治の在る所)を過ぎ北の方富山灣に注ぐ、富山の東北海岸の地に漆器及び織物を以て有名なる魚津あり、射水川も亦飛騨より來り金銀銅鐵器及び漆器を産する高岡(人口三萬餘)の東を過ぎ、伏木港に注ぐ、伏木港は郵船會社の定期航海あり、米、麥、麥粉、石炭、硫黃(皆此國の産物)等を海外に輸出する特別輸出港なり

(三四三)越後の山川都邑及び産物は如何 (三四四)新潟の形勢如何

越後は北陸道東部の大國にして面積殆んど以上六國を併せたるものと均し、國境には高峻なる山嶺綿亘するに拘らず、地勢平衍、只中央部に米(コメ)山脈の國を東西に兩斷するあるのみ、其の東部は信濃阿賀二川の灌漑にして米穀の産額夥しく又運輸の便あり、信濃川河口の西に我邦五港の一なる新潟(新潟縣廳所在地)あり

新潟は人口四萬九千餘、信濃川の上流長岡との間に小漁船の往復あり、港内は泥砂海底を埋め大船の碇泊に便ならざるを以て、輸出入額は毎年二萬六千餘圓の少額なりと雖も、一旦西比利亞鐵道完成の期に至らば形勢忽ちにして一變せん

新潟の東南に織物(五泉平及び糸織)を以て有名なる五泉町あり、東部に新發田あり第三師管の分營を設く、此地方は又石油を産すると夥し、新發田より新潟を経て直江津に達する鐵道は遠からずして起工せんとす米山山脈以西の平野も亦米穀を産すること多く、又信濃及び越中との交通頻繁なり、鐵道は信濃より來り雪を以て有名なる高田を過ぎ、北海の要津直江津(長野を距る二時間)に達す、高田の西に上杉謙信の故趾春日山あり、直江津の西方に糸魚川(地名)あり、直江津、新潟の中間に出雲崎(地名)あり、出雲崎は佐渡に渡るの要津なり

信濃の境に近く妙高山、燒山、戸隠山等の高山あり、越中との國境海岸

の地に親不知、子不知の險道あり、海岸一帯八十里許、至る所漁獵の利に富む

(二四五)佐渡の山川都邑及び産物 (二四六)日本海中の金庫とは何れ

なるや (二四七)順徳天皇御陵の所在は如何

日本海中の金庫と稱せらるる佐渡島は出雲崎の北方十一里餘(二十四海里)に在り、其の形恰も法馬の如く、南北の兩部共に東西に走る山脈あり、中央は低地にして米穀を産する多し、其の北方に金北山あり、金北山の西南に有名なる礦山を有する相川あり、相川は眞野の入江に臨み、金銀の産出夥しく居民亦漁業を能くす、其の近傍の眞野に順徳天皇の御陵あり、金北山の東北に夷町あり、對岸の港町と相對して船を泊するに便なり、又島の南岸に赤羽、小木の二港ありて本州との交通盛なり

(二四八)本道の氣候は如何

寒暑共に甚しからずと雖も降雪多く、夏季は寧ろ乾燥せり

(二四九)本道中の市制地を問ふ
市制地は越前の福井、加賀の金澤、越中の富山、高岡、越後の新潟の五ヶ所なり

(二五〇)北陸道東西部の比較を示せ

北陸道の東部即ち越後、佐渡地方と西部即ち若狹、越前、加賀、能登、越中、五國との比較左の如し、

東部

- 海岸の屈曲至て少く良港に乏し
- 山脈南北に走る者少く二三の大平野あり
- 從て川流少なければも其の流れ大なり
- 都會相集る
- 米穀魚族及び工藝品を産すること夥し
- 氣候寒暑の差甚しからずと雖も降雨の量殊に雪は非常に多し

西部

- 海岸の屈曲割合に多く良港も亦割合に多し
- 山脈南北に走るもの多く平地數小區となす
- 從て川流多ければも其の流れ小なり
- 都會各所に散在す
- 米穀魚族及び工藝品を産すること多し
- 氣候寒暑の差甚しからずと雖も降雨の量殊に雪は非常に多し

(二五一)東海道と北陸道との比較を示せ

東海道と北陸道とは東山道を隔てて腹背をなす今其の大体を比較せんに

東海道

- 海岸複雑にして岬灣半島の出入夥し
- 北方に山を貫ひ河流南に流る
- 冬日は降雨少く夏日は多し
- 交通頻繁なり
- 航行遠州灘は嶮難なり

北陸道

- 海岸簡單にして岬灣半島の出入少し
- 南方に山を貫ひ河流北に流る
- 冬日は降雪雨多く夏日は少し
- 交通頻繁ならず
- 航行嶮難冬時は殊に風波荒し

第六章 山陰篇

(二五二)山陰道の位置地勢及び區劃如何 (二五三)中國とは何れの部

分の名稱なるや (二五四)山陰道の國名を問ふ

山陰道は山陽道と共に古來中國と汎稱せし所にして往古中原の一部なり、其の南方山陽道と境を接する所には所謂中國山系東西に綿亘し、北

方は一体日本海に枕む、其の海岸は北陸道の如く屈折少く、唯東部に丹後の一部斗出して與謝灣を抱き、中部に島根半島斗出して中海及び美保灣を擁するのみ、全積千八十六方里(北陸道の三分の二)人口百七十九萬(全上二分の一)四方海に接せざる丹波及び島國なる隱岐を除けば他は皆海に沿ふて順次之を分割す、曰く丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見是なり

(三五) 丹後丹波の山川都邑及び産物を示せ (三五) 天ノ橋立の位

置及び風景は如何

本道の東端畿内北陸二道に接する所を南北二國に分つ、その南に在りて海に瀕せざるものを丹波とし、その北に在りて若狹の如く海岸の屈折出入多きものを丹後とす、丹波は四方連山を負ひ地勢自ら高きを以て、其の東南部の水は大堰川となりて龜岡(明智光秀築城の地)の北を流れ、山城に入りて桂川と稱し、西南部の水は播磨に入りて加古川となり、北部の水は福知山の近傍を過ぐるの際、福知川又は音無瀬川と呼ばれ、國境大江山

の東を過ぎ、蠶業及び縮緬の産出多き丹後に入りて由良川(又大川)となり、その中央を串流して由良港に注ぐ、全長三十里灌漑の利あり、丹後の東北角(成生岬)は西北(半島部の東北)角經ヶ岬と相對して與謝灣を抱く、灣内の東部に鶴舞港(海軍鎮守府豫定地)西部に宮津港あり、宮津の近傍に我邦三景の一なる天ノ橋立あり、蒼松の茂生せる砂嘴一帶海中に突出し風光絶佳なり、舞鶴京都間には鐵道布設の計畫あり

(三五) 但馬の山川都邑及び産物は如何 (三五) 生野銀山の所在を

問ふ

但馬は産牛を以て有名なる地にして海岸は屈曲少く良泊に乏し、南方播磨に通する近傍に有名なる金銀鑛山生野あり、朝來川(鮎を産す)其の北方に發源し國の東部平野の間を流れ、京極氏の舊藩地豊岡(名産柳行李)を過ぎて海に入る、豊岡の東南朝來川支流の近傍に出石(陶器を産す)あり、湯島温泉は豊岡の北方にあり、國の西部は矢田川の灌域なり

西南播磨、因幡と接する地に三國山あり、其の脈北方に延いて因幡との國界をなす

(三五) 因幡の山川都會及び産物を擧げよ

因幡は但因幡三國の境なる三國山の北方延長線と、因幡作三國の境なる三國山の北方延長線との間に挟まれる小國なり、南境は一帶砂鐵の産出多き中國山系にして、北は屈曲少き日本海なり、南部及び東部の水は國の中央に合流して千代川(加露川)といひ、池田氏の舊城地鳥取人口二萬七千餘鳥取縣廳の在る所を過ぎて海に注ぐ、鳥取の西方に湖山池(周圍三里餘)あり、市人遊覽の勝地たり

(三六) 伯耆の山川都邑及び産物如何 (三七) 中國第一の高山を問

ふ (三八) 船上山の所在は如何

伯耆は因幡伯作の三國山北走脈と、雲伯備の三國山北走脈との間に介り、因幡の如く南方は砂鐵を産する山脈を負ひ、北方は簡單なる日本海沿岸な

り、中國第一の高峯大山(五八七七尺)國の中央に峙ち、其の脈東に延きて後醍醐天皇の行在所たりし船上山を起す、大山の麓は毎年牛馬市を開く所にして京坂地方の食牛は大抵此地方より輸送するものなりといふ、大山東部の平地は東南境に發源する天神川の灌漑地にして、木綿及び飛白を産する倉吉は其の中流にあり、大山の西部は西南境三國山に發源(し美保灣に注入)する日野川の灌漑にして米の産額夥しき平野なり、日野川の分流米川は享保年間の開鑿に係り、木綿の産地を灌漑す、日野河口の西に米子あり、夫より夜見ヶ濱形によりて弓ヶ濱ともいふ長く海中に突出し、美保灣と中海とを分つ、其の先端境港の地は對岸島根半島を距る僅に數丁、其の間の海水を中江の海峽といふ、境港は東西航行の要津にして、氣象測候所の設あり

(三九) 出雲の山川都邑及び産物は如何 (四〇) 大社の位置及び祭

神を問ふ

出雲は石見と共に砂鐵を産する中國山系より西北方に漸低する地にして海岸は屈曲夥しく、山勝なる島根半島其の北部の中央より長く東北に斗出し、西北には十六島海苔を産する十六島鼻を突出す、半島の最東端を地藏崎といひ、美保灣を抱き、美保關は其の南方の内面にあり、夫より中江海峽を西に入れば半淡半鹹の中海(周圍十六里)にして魚族を産す、中海より更に西に入れば宍道湖(周圍三里)にして鱸、鰻、白魚を産す、湖の東畔に松江(島根縣廳所在地)あり、人口三萬五千餘、四近の地多く陶器を産す、東部に安來、廣瀬の諸邑あり、廣瀬の東南に尼子氏の舊趾富田城あり、内地は一般に人參を栽培す、南部及び西部の水は簸川神門川となりて米の産地を灌漑し、神門川は外洋に注ぎ、簸川は宍道湖に入る、國の西北隅に杵築あり、大社(大己貴命を祭る)のある所にして參詣の旅人輻湊す

(三三)石見の山川都邑及び産物如何 (三六)中國第一の大河の名

を問ふ

石見は本道の西端にある狹長の地にして、西北沿海の地は屈折至て稀なり、三瓶山(三八七〇尺)出雲の境に峙ち、大江高山その西に聳へ、大森又其の北にありて銀を産す、江川は備後安藝の境より來り、大江高山の南麓に激して方向西に轉し郷田に至り海に注ぐ、全長五十餘里、中國第一の大河にして備後と舟楫を通すへし、郷田の西に此國第一の都會濱田あり、東西航行の要港なり、國の西南部に高津川あり、西南境青野山(休火山)の近傍に發し、笹ヶ谷銅山の南なる津和野(此邊に津和野川と稱す)を過ぎ、高津に至りて海に注ぐ、高津に柿本人麿を祭れる神社あり、長州に通する街道とす、高津沿川の地は抄紙を以て有名なり

(三七)隱岐の山川邑都及び産物を舉げよ (三八)後鳥羽天皇山陵

の所在を問ふ

隱岐は道の中央北方に位する火山岩より成れる群島にして、地味礫确耕

作に適せず、然れども四周の海は魚族夥しく繁殖し、殊に鰯の輸出(主に支那及び朝鮮)を以て名あり、其の他干鰯、和布荒布等を産する甚だ多し、群島の大なるもの四あり、中に就て西島知夫里島中島の三島は本土に近きを以て島前と稱し、最大なる大島を島後といふ、西島には後醍醐天皇の御座しませし黒木御所の故蹟あり、中島には後鳥羽天皇の御陵あり、大島の南岸に西郷港あり、出雲の美保關を距る十八里餘、良港の稱あり

(二六九)山陰道の氣候(北陸道との比較)は如何

全道日本海に面し黒潮温流の一支流其の海岸を洗ふを以て寒暑の差甚しからず、之を北陸道に比すれば冬日は温暖にして降雪少く、夏日の温度及び降雨の量は略々北陸道と同様なり、而して南境山間の地は北陸道に於けるが如く降雪非常に多しといふ

(二七〇)山陰道の市制地を擧げよ

市制地二あり、一は出雲の松江にして一は因幡の鳥取なり

第七章 山陽篇

(二七一)山陽道の位置地勢及び區劃如何 (二七二)海岸の有様如何

山陽道は山陰道の南西を包圍し、中國山系を北に負へる地方なれども、之を山陰道に比すれば地勢稍々平夷にして、田野闢け地味豊饒なり、海岸の屈曲出入も亦山陰道の比にあらず、加ふるに無数の島嶼沿海に羅列し、良港泊夥し、面積千五百七十方里(北陸道と等し)人口四百八十萬餘(全上より遙に多し)美作を除くの外皆海に沿うて逐次播磨、備前、備中、備後、安藝、周防、長門の八國に分割す

(二七三)播磨の山川都會及び産物を問ふ

播磨は本道の東端攝津に接する所にあり、川流多く國內を灌漑し米麥の産額非常に多し、加古川は東北丹波より來り國の東部を南流す、東南攝津の境に近く明石あり、同名の海峽を隔て淡路に對し舞子、須磨と共に著

名の勝地にして帆木綿を産し、良港の名あり、國境は即ち一の谷(源平の古戰場)なり、市川は但馬に發源し、生野銀山を経て此の國に入り、國の中央を流れ革細工を以て有名なる姫路(人口二萬七千)を過ぎて海に注ぐ、姫路の北に奇景を以て著はるゝ書寫山あり、西部に楫保川有年川(千草川)あり、共に國の西北部に發源し、南流して海に注ぐ、有年川の河口に四十七士と共に有名なる赤穂あり、海濱は遠淺にして製鹽に適し良品を産す

(二四)美作備前の山川都邑及び産物を問ふ (三五)兒島高德勃興の地は何れなるや (三六)長船刀劍を産せし地方は何れなるや

播磨の西に當り東大川西大川(旭川)二川の灌漑する地方の南半を備前とし、北半を美作とす、美作は海に瀕せされども備前の海岸は出入多く兒島半島其の西南藤戸地頭より東方に斗出して兒島灣を抱く、半島の地に兒島高德の舊趾あり、岡山(岡山縣治の在る所)は灣北の内地西大川の下流

にあり、人口五萬餘市况頗る盛なり、西大川は美作の西北に發し高田を過ぎて備前に入り、三番港に注ぐ、全長三十七里高田以下舟楫の便あり、東大川は美作の東北境に發源し、美作中央の都會津山(名産足袋)四近の藍烟草の栽培地を過ぎて備前に入り、其の東部を流れ、長船刀劍を以て有名なる地方を過ぎて兒島灣口に注ぐ、國の東方備前の境に近く三石あり、繁盛の都會なり

(三七)備中の山川都會及び物産を問ふ

備前美作の西方大川の灌漑地を備中とす、國は東西に狹く南北に長く、地勢平坦ならずと雖も、大河其の中央を流通するを以て灌漑便利にして棉及蘭糖を産すること夥しく、海濱又製鹽の業盛なり、大川は其の源二あり一は國の北境に發し、一は備後の東北部に發し、共に砂鐵の産地を流れ、國の中央に至りて合流し玉島港に注ぐ、又舟運の便あり、玉島は東西航行の良津なり

(二七六) 備後の山川都邑及び産物は如何 (二七九) 江ノ川の上流を問ふ

備後の内地には西南より東北に亘る山脈あるを以て河流の方向一ならず、東南區の水は蘆田川となりて東南流し、西北區の水は安藝の東北區の濠流吉田川と三次ミヨシに於て相會し三次川となりて西北流し、石見に入りて江ノ川となり、東北區の濠流は備中に入りて大川に合す、福山(名産繰綿)は國の東南隅に在り、尾ノ道は西南隅にあり、共に國中の都會なり、尾ノ道の西方安藝の境に近く三原あり、煙草及び鹽を産すること盛なり、大坂より來る山陽鐵道は以上各國の沿海諸都邑を經過し以て廣島に達す、海岸地方は製鹽の業盛に、河流の沿岸は蔦席の産出夥し

(二八〇) 安藝の山川都邑及び物産を挙げよ (二八二) 中國第一の都會は何れなるや (二八三) 嚴島の位置及び風景は如何

國の西南海水深く灣入す、之を廣島灣と名く、灣頭廣島市(廣島縣治の在

る所)の在るを以てなり、廣島(淺野氏の舊城地)は人口八萬六千餘、國の中央平野の濠流太田川に跨り、中國第一の都會(金澤に亞く)にして第五師管の營所あり、今年七月我が國清國と戰を開くや、車駕此の地に巡幸し、大本營の所在地となる、又第七議會も此の地に召集せられたり、繰綿、蚊帳、傘、藥罐は此の地の特産なり、太田川の河口を宇品港(軍港)とす、東西航通の要港なり、其の西南に嚴島(周圍七里餘)あり、市杵島姫を祭れる嚴島神社あるを以て又宮島と稱す(平清盛の築造せし)殿廊水に倚り、壯觀人目を驚かす、其の沿岸又七浦の景あり、我邦三景の一と稱せらる、其の東に江田島あり、海軍兵學校の設あり、その對岸は即ち吳港にして海軍鎮守府の所在地なり、東方備後の境には大土山天神山等の諸高山あり、近海は島嶼多く、海濱は鹽田多く、灣内は牡蠣を産す

(二八三) 周防の山川都邑及び物産を問ふ (二八四) 錦帶橋の所在は如何

本道の西南端は三面海に瀕する地にして、又山陰山陽兩道の西極端なり、其の東南部は周防にして西北部は長門なり、兩國の境には中國山系の餘脈綿亘し、防長石三國の境よりは更に一派を柳井津半嶋に出す、其の東部は岩國川の灌域なり、岩國川の下流に岩國(名産縮布)あり、錦帯橋を以て著る、柳井津半島の東に大島(周圍二十里)あり、廣島灣と燧灘との境界をなす、半島の南端に室津港あり、西南長崎と相對し、防長三關の一なる上ノ關あり、山脈の西方平野の北境に山口(山口縣廳所在地)あり、山口高等學校を設く、山口の南方五里にして三田尻港あり、其の西南に中ノ關あり、三田尻の東八里の地に徳山(毛利氏支藩地)あり、又一都會なり

(二六五)長門の山川都邑及び産物を示せ (二六六)防長の三關とは何

々々 (二六七)馬關の形勢如何 (二六八)檀ノ浦の所在を問ふ

長門は又山脈によりて北部及び西南部の二に分る、北部は即ち武井川の灌域地なり、萩(毛利氏の舊藩地)はその河口の東方に位する都會なり、

西南部は細流多く田野を潤すを以て能く米穀を産す、就中大なるものを厚東川とす、此の川は北の方大理石を産する地方より發して西南流し海に注ぐ、國の西南端に硯材に名ある赤間關市(下の關又は馬關ともいふ人口三萬二千餘)あり、對岸九州の地を距ること僅に入町、下ノ關海峽即ち是なり、其の東は潮汐甚た急にして早瀬瀬戸の名あり、西には引島(周圍六里)横り、港口を大小二口に分つ(其の北口に燈臺の設あり)此の地は豊前小倉を距ること海上二里、西は日本海東は瀬戸内海に通ずる咽喉なるを以て船舶の出入頻繁なり、此の地の東方一里許に豊浦(毛利氏支藩地)あり、此の間の海を檀ノ浦といふ、源平の古戰場たり、其の西北火ノ山には海峽防禦の砲臺あり

(二六九)山陽道の氣候を略述せよ

山陽の地は北方に山を負ひ地勢東に漸低するを以て氣候温暖、空氣乾燥天氣晴朗にして降雨少し、一月の平均温度は岡山地方最も低く、赤間關地

方最も高し、之に反して夏日は兩地方略々同様なり、是れ黒潮の一流其の近海を過ぐるを以てなり

(二九〇) 山陽道の市制地を擧げよ

市制地は安藝の廣島、備前の岡山、長門の赤間關なり

(二九一) 山陰山陽兩道の比較を示せ

山陰道

- 風波嶮惡にして且つ水深き日本海と控ゆ
- 海岸は屈曲乏しく、斷崖多く製鹽に適せず、二半島及び二海湾あり、三景の一は其の東灣に在り
- 潮汐の干満微少なり
- 島嶼及び良港少し
- 火山脈に富み礦山温泉多し
- 地味瘠薄

山陽道

- 風波靜穩にして水淺き瀬戸内海と控ゆ
- 海岸は小屈曲夥しく低夷にして製鹽に適す、二半島及び二海湾あり、三景の一は其の西灣内に在り
- 潮汐の干満著大なり
- 島嶼及び港泊夥多なり
- 火山脈稀にして礦山温泉少し
- 地味豐饒

● 空氣濕潤雨雪多し、是れ製鹽に適せざる一因なり

● 空氣乾燥雨雪少し、是れ製鹽に適する一因なり

第八章 南海篇

(二九二) 南海道の形勢如何 (二九三) 南海道の國名を問ふ

南海道は畿内及び山陽道の南方に瀰漫する地方の總稱にして、其の大部分は四國(阿波、讃岐、伊豫、土佐)と稱する一大島、一部分は畿内の南部を包裹せる紀伊、及び淡路と稱する孤島とより成る、斯る形勢なるを以て海岸線の延長は頗る長く、北方瀬戸内海及び西方豊後灘に面する地方の如きは岬灣の出入島嶼の散在甚だ多く、唯南方外洋に面する地方は小屈曲少しと雖も、尙ほ室戸岬、蹠陀岬と相對して土佐の大灣を擁せり、紀伊は其の西北の一部を残して全國殆んど山を以て満たし、淡路は高峻の山嶺なしと雖も全島略は平坦の地なく、四國は四國山系其の中央を東西に亘

る、故を以て紀伊の河流は東南西に分流し、四國の河流は四方に分流す

(二五四) 紀伊の山川都邑及び産物を問ふ (二五五) 和歌浦の所在を

問ふ (二五六) 本州第一の大瀑布及び其の所在を問ふ

(二五六) 良好なる密柑の産地を問ふ

國の西北部は大和の吉野川の下流紀ノ川全長三十里餘十里間舟楫を通すの灌域にして地勢平坦米穀に適す、紀ノ河口に綿織及び綿フランチルを以て有名なる和歌山市(和歌山縣廳所在地)あり、(徳川三家の一なる)紀州公の舊藩地にして人口五萬五千餘市況繁盛なり、其の南に漆器を以て有名なる黒江あり、又其の南に有田川ありて、紀ノ川と同く西流す、有田河口の邊と國の西北角(田倉岬)との間は古來著名の勝地和歌ノ浦にして、風光明媚光明浦アツカの稱あり、田倉岬は淡路の生石岬と相對して由良海峡を狹み、友ヶ島燈台あり又兩岬の中間にありて、大坂灣の南門たり、有田川の南に日高川あり、又西流す、其の河口の西北端を比井崎といひ、阿波の蒲生田岬と相對して紀伊

海峡の外門をなす、比井崎の東南に瀬戸崎あり、其の北方の灣頭に田邊港(舊安藤藩地)あり漁舟の碇泊場たり、瀬戸崎以南富田川、安宅川(共に西南流す)を渡りて更に東南に進めば、國の最南端潮岬に達すへし、潮岬の東西海上は即ち風波險惡の稱ある紀州沖なり、岬端の正東大島に燈臺の設あり、夫より海岸に沿ふて東北に進めば那智川あり、其の上流は即ち本州第一(我邦第二)の大瀑布那智瀑なり、那智瀑は大塔峯の東南に聳ゆる那智山に懸る所にして、海上より遙に之れを望むを得へし、其の東北に大和の十津川の下流新宮川(熊野川)あり、河口に新宮(舊水野藩地)あり、新宮川は全長三十四里、十六里の間舟楫を通すべく、上流の兩岸は風景殊に賞すへしといふ

内地は峯巒重疊木材を産するの外農作に適せずと雖も、沿海の地は到處漁業盛にして、生魚乾魚鹽魚若くは海草類は勿論、鯨獵も亦有名なり、且つ氣候の温暖なるを以て各地良好の密柑を産する夥しく、世に紀州密

柑の名を以て賞せらる

(三九七)淡路の山川都邑及び物産を問ふ (三九八)淡路の三海峡を舉

げよ (三九九)我が國第一人口の稠密なる土地は如何

淡路は三角形をなせる一孤島にして三角共に海峡を挟む、即ち西南の一鈍角は阿波の東北と鳴門海峡を挟み、東北の一鋭角は攝播の須磨明石と明石海峡を挟み、東南の生石岬角は紀伊の田倉岬と由良海峡をなす、國內平地少しと雖も地味膏腴にして頗る禾穀に適し、人口稠密の度は殆んど我が國の第一位たり、國の東南部は稍平坦にして此所に由良及び洲本の二港あり、鳴門海峡に臨みて福良港あり、明石海峡に面して岩屋あり、皆繁盛の都會とす、沿海の地は魚介の利少からざるのみならず、内地よりも伊賀野焼を第一とし、五穀生絲綿織及び製絲等を産す

(三〇〇)阿波の山川都會及び産物を問ふ (三〇一)四國第一の大河は

如何 (三〇二)我が國第一の産藍地は何れ

阿波は四國の東部にありて讃岐土佐兩國の間に介れる國なり、西方吉野川の流入する地は僅に伊豫に接し、東南は蒲生田岬突出して紀伊海峡を南外洋より分つ、四國第一(四國三郎と稱す)の大河吉野川(全長四十一里)は伊豫の内地及び土佐の北境より來り、國の北部を東流し緘織を以て有名なる蜂須賀氏の舊城地德島(人口六萬餘德島縣治の在る所)に到りて海に入る、此河は常に舟楫の便を沿岸地方に與ふるのみならず、五穀百果及び煙草を産し殊に本邦無比の産藍地を灌溉するものなり、吉野河口北方に撫養港あり、淡路の福良と相對し、鳴門海峡の要津なり、德島以南蒲生田岬に至る間に又一平野あり、勝浦川及び那賀川の灌漑にして小松崎、富岡は其の間の都會なり

國の最南土佐の境に鞆浦港あり、其の東に海部川カイナあり、以上の低地及び海岸は農商業及び漁業盛にして、製鹽業に従事するものも亦尠ならず、劍山は國の西南境に屹立して其の脈を四方に及ぼし、西南部の内地は地勢

峻峻なり、又北西讃岐より伊豫に至る國境一帯も亦連山綿亘せり、山間多く木材及び薪炭を出し、河流によりて各地に運搬す

(三〇三) 讃岐の山川都邑及び産物を問ふ (三〇四) 我邦第一の甘蔗産地は何れ (三〇五) 琴比羅神社の所在如何 (三〇六) 崇徳天皇の御陵は何所にあるや

讃岐は阿波の北部に位し、三面瀬戸内海に枕める國にして岬灣出入夥しく、幾多の島嶼其の前に碁布羅列せり、南方阿波の境に一帯の山脈連亘するを以て河流多く北走すれども、皆淺細にして灌漑舟行に便ならず、其の間には平原曠野相交り、地味膏腴にして米麥甘蔗綿藍を産し、殊に甘蔗は我邦第一たり、國の東方阿波の境より虎ヶ鼻岬に至るの間は漁業及び製鹽業盛にして、虎ヶ鼻の北方海上に在る小豆島(周圍三十餘里)は醬油の製造盛なり、虎ヶ鼻と國の海岸線の中央なる乃生岬との中間灣入の海邊に高松市(香川縣廳所在地)あり、人口三萬四千餘、海陸運漕の要地なり、

り、高松の西七里の地に九龜(舊京極氏落地)あり、第五師管の分營あり、其の西に多度津(京極氏支藩地)あり、兩地の間鐵道を設く、鐵道は多度津より東南に走せ、琴比羅神社の所在地琴平に達す、琴平の近傍に崇徳天皇の山陵あり、多度津の西灣を隔て三崎岬あり、伊豫灣の東端をなせり、内地の山間よりは多く薪炭及び木材を産す

(三〇七) 伊豫の山川都邑及び産物を記せ (三〇八) 四國第一の高山は何 (三〇九) 佐賀關海峽を形くるものは何々

伊豫は阿波讃岐の西方より土佐の西北方を包みて西南に亘れる狹長の地なり、其の東南境は四國山系連亘し、西北海岸は岬灣の出入甚た多く、島嶼の點在亦夥し、國の東北に一大灣あり伊豫灣といふ、灣の中央に斗出するものを恒生崎とす、其の南方の内地吉野川上流の地に別子の銅山あり、其の近傍に市川の安質母尼礦あり、共に著名の礦山とす、伊豫の西端に今治あり、其の東南の西條と共に此の地方の都會なり、今治の北端より海岸

を西南に繞れば三津濱あり、夫より南方里許にして松山(久松氏舊城地)あり、人口三萬三千餘、愛媛縣廳の所在地にして第五師管の分營あり、三津濱と瀛車相通す、市街の東十餘町を距て、古來著名の温泉場道後あり、四國第一の高峰石槌山(九四三二八尺)は此の地方の東南に峙ち、重信川は其の西に流る、更に西南に進むときは肱川あり、其中流に大洲の都會あり、二川の流入する海邊より國の西北端佐多岬に至るまでは屈曲至て稀なれども、佐田岬以南は港灣の出入甚た多し、佐多岬は狹長なる海角の尖端にして對岸豊後の關崎と佐賀關海峽を挟み(北方)硫黃灘と(南方)豊後海岳との分界にして瀬戸内海の西南門口たり、其の根部の南に八幡濱灣あり、灣頭に同名の都會あり、又其の南に宇和島灣ありて亦同名の都會を灣頭に有す、宇和島は伊達氏の舊城市にして織物及び紙を産し、西岸第一の要港なり

島嶼の有名なるものは今治の北に大島、伯方島、大三島あり、三津濱の西

北に中島、由利島及び伊豫の小富士と稱せらるる、興居島あり、西南海上に戸島、日振島あり

此國の沿海は一般魚鹽の利尠からず、西南地方は又製紙の業盛なり

(三二〇)土佐の山川都邑及び産物を擧げよ (三二二)土佐灣の沿革

土佐は阿波伊豫二國の南方にありて外洋に面する地方なり、東方の室戸岬及び西南の蹉跎岬は遠く海中に斗出して土佐の大灣を抱く、此の間は天武天皇白鳳十三年、地震の爲に陷落せし所なりといふ、室戸岬の西北物部川の灌域に安藝及び赤岡あり、國の中央を東南流する仁淀川の灌域に高岡及び須崎あり、其の中間の地東方に斗出せるを龍崎といふ、以上二川の中間平野の間に山内氏の舊城市高知(人口三萬四千高知縣廳所在地)あり、神戸港に臨む、氣候温暖なれども夏日は降雨非常に多く、數々颶風の來襲あり、西南渡川の河口に中村の名邑あり

沿海地方は水産の利少からず、殊に鯉節、珊瑚は世の賞する處にして、鯨

獵も亦國益を爲す夥し、而して沿海は地味瘠薄の所多く、内地は却て肥沃なり、山間は林叢多く、各地茶及び樟腦を出し、耕地よりは米、麥、甘蔗、烟草、藍、綿等を産す

國境の地は連山重疊殊に阿波の境を峻峻なりとす、河流は皆灌溉の便に富む

(三三) 南海道の氣候を略記せよ

本道は黒潮暖流其の南岸を掠むるを以て、氣候温暖、南方は降雨非常に多く甘蔗、藍、密柑の如き半熱帶的植物に富むと雖も、北進するに従て降雨少く、讃岐伊豫の海岸は瀬戸内海十州の内に居り、製鹽に適す

(三三) 南海道の市制地は如何

市制地は紀伊の和歌山、阿波の徳島、土佐の高知、伊豫の松山、讃岐の高松、以上五ヶ所なり

第九章 西海篇

(三四) 西海道の位置地勢を略記せよ (三五) 西海道の國名を問ふ

(三六) 九州の海岸は如何

西海道は我が國の西南端に位する國土の總稱にして、豊前、豊後、筑前、筑後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩の九國に分割せる九州大島と、壹岐、對馬、琉球の三島國とより成り、面積二千八百二十七方里餘、人口六百二十七萬餘、(舊奥羽と山陰道を合せたるものと等し) 東南は瀬戸内海及び太平洋に枕み、西北は黄海及び日本海によりて支那及び朝鮮に對す、日向の東海岸の地僅に屈曲乏しけれども、他の周邊各地は屈折出入實に夥しく、島嶼の散在すること亦多し、殊に西南海上には群島列をなして支那領臺灣島に連る、内地は山脈縦横に交錯し、高峯各所に崛起すれども、平坦の沃野各地に亘り、河川も亦四方に分流し、灌溉舟楫の利夥し

(三七) 豊前の山川都邑及び産物は如何 (三八) 耶馬溪の所在
(三九) 宇佐廟の所在を問ふ

豊前は九州の東北隅に位する小國にして、本州の地を距る最も近き所に在り、即ち國の最北端(有名の硯材を産する)門司港は長門の赤間關と相望み、水深くして大船の碇泊に便なり、此地又(福岡より久留米、佐賀、熊本に達する)九州鉄道の起點たり、其の西南に小倉織を以て有名なる小倉あり、海陸運輸の要衝にして第六師管の分營あり、小倉の東南十四里の地に中津(舊奥平藩地)あり(東南豊後の境に聳ゆる英彦山より發する)山國川の河口に位し國中の一都會なり、山國川上流の地に山國溪(耶馬溪)あり、奇景を以て著る、中津以南の地は製紙の業盛にして四日市、長州、宇佐等の名邑あり、宇佐は應神天皇及び皇妣神功皇后を祭れる宇佐神社の在る所なり、英彦山は一名を彦山といひ、頂上に天忍穗耳尊を祭り、山麓各地より石炭及び銅を産す、國の東北周防灘に面する地は漁鹽の利に富むの

みならず、内地も亦地勢平衍土壤肥沃にして禾穀に適す

(三〇) 豊後の山川都邑及び物産如何 (三一) 筑後川の發源地は如何

豊後は豊前の東南に位し、西は筑前、筑後、肥後に接し、南は日向に界す、東及び北方の海岸は大小の屈曲甚だ多し、國の東北(文珠山の聳ゆる)圓形の大半島は國東山嘴にして、周防灘及び硫黃灘を隔てて中國及び四國に面し、其の南に大分灣を擁す、灣頭大分川の注く所に大給氏の舊城市大分(大分縣廳所在地)あり、鑄物及び檜物細工を産す、大分の西北二里の地に別府温泉ありて浴客群集す、大分川の南に大野川あり、國の南部の水を集めて亦大分灣に注く、河口の東に關岬あり、伊豫の佐田岬と僅に三里を隔て、潮流急迅舟行甚だ危険なり、此處に佐賀關の要港あり、其の南に臼杵灣あり灣頭に同名の都會を有す、又其の南に佐伯灣あり保戸岬と鶴見岬との間に介る、國の西北部に平地あり、實に九州第一の大河筑

後川を涵養する處たり
此國の沿海も亦漁鹽の利多く、内地は大豆、藍、甘蔗、綿、紙、煙草及び蘭席等を産す

(三三)筑前の山川都邑及び産物を問ふ (三三)太宰府の所在

筑前は豊前の西に位し西北は一帶玄海灘に枕む、國の東部に遠賀川あり、南方筑後の境には筑後川ありて水運灌漑の便あり、海岸は岬灣出入して碇繫に宜し、國の中央より少しく北に偏して黒田氏の舊城地福岡人口五萬五千餘岡縣治あり、同名の灣に臨み第六師管の分營あり、市は博多織を以て有名なる博多と相聯り、水陸運輸の要樞なり、鐵道は門司より來り(二時四十五分)南折して一ひた肥前の地を過ぎ遂に筑後の久留米に達す、博多の東南五里の地に往時外交の事を司りし太宰府ありて、菅原道具を祭れる神社あり、此國の沿岸も亦魚介の利多く、内地は地味一般に膏腴にして禾穀菜蔬の外煙草、甘蔗及び藍を産し、櫨樹の栽培又盛んにして生蠟の産額

夥しく、炭脈彌蔓して石炭の採掘甚た多し、加之近年養蠶の業漸く開け、次第に隆盛に至らんとす

(三四)筑後の山川都邑及び産物如何 (三五)九州第一の大河は如何

筑後川(筑紫二郎)の南方一帶の平野は即ち筑後にして、東南(豊後及び肥後の境)に山脈連亘するのみ、筑後川は豊後の西北に發源し、北方筑前肥前の境を西流し、若津港に至りて筑紫海に注ぐ、矢部川は國の東南境に發し國の中央を西流し、瀬高及び柳河(立花氏舊藩地)を過ぎて又筑紫海に注ぐ、此二流は實に此の國の灌漑水運を利するものなり、國の北境(肥前の)筑彼河の南岸に久留米日有馬藩地人口二萬六千餘あり、綴織綿織及び飛白を以て著る、鐵道は福岡より來り(一時半)國の西南有名の石炭産地三池舊柳川支藩を経て肥後に入り熊本に達す

海岸の地は漁業盛に、東南境の山地は茶を産し、國中一般に菜種油、

紙、藁蓆等を産す

(三七) 肥前の山川都邑及び産物如何 (三七) 九州第一の沃野とは

何れ (三八) 我が國第一の良港は如何 (三九) 唐津陶器の

産地は何れ

肥前は九州の西北端に位し、筑前筑後の間より西南海上に斗出して、錯雜交叉せる數多の半島と、其の西北海上に碁布羅列せる許多の島嶼とより成り、山岳各地に起伏して國內を數小區に分割す、國の東方筑紫海に面する大平野は筑後河の灌域にして九州第一の沃野をなし、五穀百果の豐熟に適し、鍋島氏の舊城地佐賀佐賀縣廳所在地を有す、鐵道は東境より分岐し來り、福岡を距る約ね二時間にして佐賀に達すへし、國の東南は卍字形の大半島にして、其の東南島原灣に突出し、四時噴烟を斷たさる温泉岳の聳ゆるものを島原半島といふ、沿岸各地は牧畜盛にして牛馬羊豚の類を放牧せり、温泉岳の東麓に島原あり、市況頗る殷賑なり、其の西南の尖端

早崎(燈臺あり)は肥後の下島と早崎海峡を扼し、筑紫海に通ずる咽喉をなし、西方灣を隔て、野母崎と相對す、野母崎半島の根部の西方に我が國第一の良港長崎(長崎縣廳所在地)あり、昔時より外國貿易の要地にして五港の一に居り人口六萬四千餘、港内水深く大艦數百を容るゝに足る、長崎の西北に突出せるは西彼杵半島にして、尖端は西海の軍港佐世保(鎮守府あり)と相對し、鯛浦及び大村灣を擁す、大村灣の東南岸に大村大村氏舊城地あり、佐世保の西方海上に高島あり、周圍一里に滿たさる小島なれども炭層深く海中に入り、世に無盡藏と號す、夫より西北海上に平戸島あり、昔時外人の居留地平戸町は其の東岸に位せる都會なり、平戸島の西南海上に鏈狀をなせる群島を五島といふ、平戸島と共に漁獵盛にして鯨獵は遠く紀伊土佐の上に出つといふ

國の東北松浦川灌域の地に陶器を以て有名なる唐津あり、其の西北壹岐に對する地に名護屋あり、豐太閤征韓の役陣營を設けし所なり、其の西

方灣上に鷹島あり元寇屢殺の地筑前の支界島なりといふたり
東部平野を除くの外國の西北部は肥瘠相半するを以て、農業よりも寧ろ採炭業に従事するもの多く、西南海岸は土地概ね瘠薄なれども、亦能く藍、烟草、茶、綿、大豆、甘藷を産す

(三三〇) 肥後の山川都邑及び産物を略記せよ

(三三一) 九州第一の農

産國は何れ

(三三二) 九州第一の急流とは何川

(三三三) 九州

第一の大火山は如何

肥後は九州の中央に位する大國にして、南東北三境は山岳重疊し、川流數多其の間に發源して國中を灌溉し、米、麥、綿、藍、烟草、甘藷、玉蜀黍等を産し九州第一の農産國たり、殊に肥後米の名は人口に膾炙す、國の中央より少しく北方に偏して宇土の半島西方に斗出し、北に島原灣、南に八代灣を作る、島原灣に注ぐものを菊池川、白川、綠川とす、菊池川の下流に高瀬あり、白川の中流に細川氏の舊城地熊本熊本縣廳所在地あり、綠川の下流

に川尻あり、熊本城は加藤清正の築造に係る名城にして現今第六師管の營所たり、久留米を距る瀛車時二時半、綿織、草帽子の産出頗る多し、八代灣に注ぐものは球摩川なり、此川は我が邦三急流の一にして上流に八吉、下流に八代あり、八代に菊池氏の古城趾あり

宇土半島の根部に宇土の名邑あり、尖頭に三角港あり、此の國の沿岸は一般遠淺にして船舶の碇擧に便ならず、獨り此の港を最も便利とす、三角港の西三角瀬戸を隔てて大矢野島あり、其の西南に上島あり、上島の西僅に本渡瀬戸ホンダを隔てて下島あり、此等の諸島を天草群島と稱す、其の西方は即ち天草灘なり、諸島は地勢險峻にして平地少く、海岸漁鹽の利あるのみ、下島の西北角を志岐崎といふ、基脚に在る都會を富岡とす

白川の上流二支流の間に阿蘇山(四二二一〇尺)あり、信濃の淺間山に亞く有名の噴火山にして、西南麓各所に温泉を湧出す

(三三四) 日向の山川都邑及び産物如何

(三五) 日向の沿海地は如何

三六 高千穂宮趾の所在を問ふ

日向は九州の西南に位せる大國にして、神武天皇崛起の地なるを以て歴史上最も著名なり、國の東方日向灘に面する海岸一帯の地は凸凹極めて稀にして、纒かに野崎佃島崎都井岬永田崎志布志灣等の小出入あるのみ、九州中の一例外國たり、南西北三境は峯巒起伏し、川流皆其の間に發源して東流す、北に在るものを五箇瀬川といふ舟運の利あり、下流に延岡の都會を有す、其の南にありて美々津港に注ぐものを美々津川とし、高鍋を過ぎて海に入るものを大丸川、佐土原の東北に注ぐものを一瀬川、宮崎宮崎縣所在地の東に注ぐものを大淀川とす、宮崎には神武天皇を祭れる社あり、大淀川上流の地は稍平衍にして田圃連り、米、麥、甘藷、甘蔗を産すれども其の他河流の谿谷には未墾の地甚た多し、高千穂宮趾の所在地都城は大淀川上流平野の東南に偏在し、大隅に至るの街路に當る、志布志灣は永田崎と大隅の東南角大崎との間に在る此の國唯一の大灣にして、灣頭に同名

の都會あり

此の國の製産事業は樟腦を第一とし、砂糖及び茶の製造之に次ぐ

三七 大隅の山川都邑及び産物如何
 三八 鹿兒島灣の口を扼するは何々

九州の最南端鹿兒島灣を抱きて兩脚形をなせる二國あり、右なるを大隅といひ左なるを薩摩といふ、共に氣候温暖にして禾穀草樹能く繁茂せり、大隅の西北半部は土地稍平坦地味膏腴にして加治木、濱市、國分(名産煙草)福山等の市街あり、櫻島其の前面鹿兒島灣内に屹立し、有名の活火山御嶽(三六三七尺)島中に峙てり、居民皆山麓を繞りて部落をなし、煙草、密柑等の畦圃相連りて島内毫も無用の地なし、國の東南志布志灣に面して内浦灣あり、高崎大崎の兩岬其の左右を擁して碇泊に便なり、國の最南端を佐多岬(燈臺あり)といふ、薩摩の東南端と相對して鹿兒島灣の門口をなす

(三九) 西南海上諸島の形勢如何 (四〇) 西南諸島居民の風習如何
(四一) 西南諸島中琉球に最も近きは何島なるや

佐田岬の東南十里許の海上に種子島タネシマあり居民農漁を兼業す、天文年間葡萄牙人の鳥銃を齎せるを以て著る、島の南端門倉岬の西四里を隔て、屋久島あり、八重嶽(六三五一尺)島の中央に聳ゆ、北岸に一湊宮の浦等の小港あり、其の西北六里許に口ノ永良部島あり、島民羊豚を畜養す、是より西南海上には大島鬼界島徳ノ島沖ノ永良部島與論島等の諸島散在して沖繩群島に連る、就中大島最大にして屋久以北の諸島と其の趣を異にし、略は琉球と人情風俗言語を等し、男女共に長簪を以て頭髮を纏束し、且つ一般に徒跣を常とす、西北部に名瀬あり良港の稱あり、氣候は極めて温暖にして草木四時鬱茂し多く甘蔗、甘藷を産し製糖の業甚だ盛なり、鬼界島は大島の東に在りて早町(東岸)灣村(西岸)等皆繫舟に便なり、徳ノ島は大島の西南十里許に在り、沖ノ永良部島は又其の西南十二里許に在り

(和田港あり)與論島は沖ノ永良部島の南九里許にあり、各島皆甘蔗の栽培製糖の業盛なり、與論島は沖繩島を距る最も近き所に在りて、海上僅に八里を隔るのみ

(四二) 薩摩の山川都邑及ひ物産如何 (四三) 薩摩の七島とは何々なるや (四四) 薩摩産の馬は如何

薩摩は大隅の西方に在り、北部(川内川の灌域)は地勢平坦なれども其他は山嶺起伏せり、川内川は大隅の北部より來り、水運灌漑の利を與へ西流して海に注ぐ、川内は沿川地方の名邑なり、夫より北方に出水及び焼酎醸造を以て有名なる阿久根の小都會あり、國の北西端と天草諸島との間に獅子島、響島、伊唐島、長島等あり、長島と本國との間は即ち八代灣の西南口黒瀬戸(一名隼人瀬戸)にして潮勢最も急激なり、川内以南市來、伊集院等の諸驛を経て、國の中央を横過すれば即ち島津氏の舊城地鹿兒島(鹿兒島縣廳所在地)に達す、鹿兒島は東南同名の灣に臨み、北に城山を負

ひ人口五萬六千餘、九州の大都會にして船舶輻輳し、市況殷賑陶器の産出を以て名あり、國の南端に開聞崎及び長崎あり、西南端に野間崎あり、長崎の東に山川港あり碇泊に便とす、開聞崎の北に聳ゆるものを開聞嶽(三〇二〇尺)とす、著名の休火山たり、山東に池田湖(周圍五里)ありて大に灌漑に利す

國の西方海上に甌島(上中下)あり漁鹽の利あり、開聞崎の南方十里許の海上に硫黃島(名産硫黃)あり、其の西八里の所に黒島あり、東二里の所に竹島あり、此三島に大隅の馬毛、種子、屋久、口ノ永良部四島を併せて古來薩摩の七島と稱し、七島麩の産出を以て著る、又黒島の南二十餘里の海上に口ノ島中ノ島等羅列せり

此國の産物は鯨節、飛白を以て第一とし煙草、甘蔗及び甘藷等之に次く、又此の國に産する馬は体軀矮小なれども駿足を以て名あり

(三四五)九州の氣候を略述せよ (三四六)九州の雨量は如何

九州は氣候一般に温暖なり、就中佐賀熊本は低温にして一月の平均温度前者は三、四後者は三、〇其の他は大抵平均温度四、五以上なり、八月の平均温度は長崎の二六、八最高にして、大分の二六、〇最も低く、九州を通じて一般に寒暑の差甚た少し、雨量は甚た多く南方に至れば殊に其の量を増加す

(三四七)西海道の市制地を問ふ

市制地六あり肥前の長崎、佐賀、肥後の熊本、薩摩の鹿兒島、筑前の福岡、筑後の久留米是なり

(三四八)壹岐の山川都邑及び産物如何 (三四九)耕作方は如何

壹岐は肥前の西北海岸を距る七里許の海上に位せる小島國なり、四周岬灣の出入多く船舶の碇繋最も便なり、就中西北岸の勝本を以て最とす、沿海は鯨、鯨、鱒、鱒、海參及び海藻類の漁獲頗る多く、内地は山巒起伏して平野に乏しけれども肥沃の地亦多きを以て米麥、甘藷、大豆、菜

種の産額に富めり、此の國の農家は概ね牛を牧養して耕作に便す

(三五〇) 對馬の山川都邑及び物産如何 (三五二) 對馬の國防的形勢如何

何 (三五三) 對馬島民の狀況如何

對馬は壹岐の西北十二里許の海上に位し、南北二島に分る、其の南にありて稍、小なるを上島といひ、北にありて稍、大なるを下島といふ、二島の間は即ち淺茅浦にして水底深く、又能く數十の大艦を容るへし、此國は西北僅に一葦水を隔て、朝鮮に對し、雲烟互に相望み呼へは將さに答へんす、加ふるに日本海の咽喉にして我か邦西方海防の最要地たるを以て警備隊の設あり、嚴原は上島の東岸に位し、宗氏の舊城地にして後に山を負ひ前に港を控へて全島第一の都會をなし、船舶常に輻湊して市況頗る繁盛なり、國の四周は岬灣出入甚た多く、魚族頗る群集して屈強の漁業地なれども、島民多くは其の捕獲に勉めざるを以て、九州及び中國地方の漁民多く此地に移住して専ら斯の業に従事し、稍、多額の海産を出す、内地は

山岳起伏して平地少く、加ふるに地味概ね瘠薄にして禾穀に適せず、山間の農家に至ては頗る寒饑殆んど衣食に堪へざる者ありと云ふ

(三五三) 琉球諸島の形勢を略述せよ (三五四) 琉球の氣候は如何

琉球は大島列島の西南洋中に羅列せる群島國にして、東經百二十三度より百二十八度半、北緯二十四度より廿七度の間に亘り、東北より斜に西南に向ひ斷續相連る三大群大小五十有餘の島嶼より成る、三大群とは沖繩宮古及び八重山をいふ、地勢は諸島を通して山岳丘陵相交り平地少く、地味は肥瘠相半し甘蔗、甘藷及び菽粟等に適すれども、水利の便なく米穀を産せず、海岸は港灣乏しからされども暗礁多くして寄航に便ならず、氣候は極めて温暖にして霜雪曾て降らず、草木は冬時と雖も能く花を開く、故に周年蚊帳を撤せず、又毒虫毒蛇の危害あり、朝夕は海風清涼にして盛夏又甚た堪へ難きにあらすと雖も、毎歲定時に颶風の來襲するありて損害甚た少からすと云ふ

(三五) 沖縄群島の形勢都邑及び産物を略述せよ (三五) 琉球諸島
 中最大なるは何島なるや (三五七) 琉球諸島中風景絶佳の地
 は何れ

琉球群島中最大なるものを沖縄島といふ、東北より斜に西南に連亘する
 こと凡そ四十里、幅廣きは八九里狹きは一里なり、全島を三區に分ち北部
 を國頭、中部を中頭、南部を島尻といふ、中頭及び島尻の二區は山岳少く
 丘陵の間平坦廣潤の地多く人烟亦稠密なれども、國頭の一區は山岳起伏
 し、村落は僅に海岸及西南の低地に散在するのみ、島の沿岸は岬灣出入極
 めて多く、極北を國頭岬と云ひ極南を喜屋武崎といひ、東北隅に與那原港
 あり、西北灣内に運天港あり、喜屋武崎の北方に那覇港あり、東北に首里
 あり、那覇は島中第一の都會にして四近開豁なる平野の海頭に位し、港灣
 に臨み商業頗る繁盛なり、當時沖縄縣治の在る所にして師範學校の設あり、
 此の地は氣候非常に温暖にして冬一月の平均温度一五、七夏八月は

二七、七にして年中の平均は二一、七なり降雨亦甚た多く冬期は少けれ
 ども夏期は非常に多し、首里は那覇を距る東方一里許の地に在り、舊藩王
 尙氏の居城地にして現今第六師管の分營あり、風景絶佳全島第一と稱す、
 島の四周に許多の小島散點せり、此の地の特産は甘藷及び甘蔗にして、盛
 に砂糖を製し泡盛酒を醸造す、又飛白綿は世人の夙に稱賛する所たり、而
 して沿岸の地は漁鹽の利亦少からず

(三五八) 宮古群島の形勢都邑及び物産を擧げよ

宮古群島中主なるものを宮古島及び永良部島とす、就中宮古島最大なり、
 宮古島は沖縄島の西南凡六十六里にありて島形略は三角形をなし、沃野
 廣く丘陵稀なり、四周には暗礁交錯して西岸纔に漲水港の一礎聚場ある
 のみ、島民概ね耕種紡織を業とし甘藷及び紺飛白の名産を出す、永良部島
 は宮古島の西にあり、島中多く牛馬を牧養す

(三五九) 八重山群島の形勢都邑及び物産を記せ

(三六〇) 我が國版圖

の極西は如何 (三二) 我か邦版圖の極南は如何

八重山群島中石垣、入表二島を最大とす、石垣島は宮古島の西方二十六里許に在り、西北岸に川平港、南岸に宮良港あり共に碇泊に便なり、然れどもその他の沿岸は險崖峭立し、海底亦暗礁の伏するありて投錨甚た危険なり、島の北部には於茂登山の屹立するあれども、西南部は原野平衍地味肥沃にして頗る禾穀に適し、島民又耕種紡織を勉む

入表島は石垣島の西方六里に在り、地形略は方形をなし、周邊峭立して碇繋に便ならず、僅に東北岸に古見鬚川の二小港あるのみ、内部は山岳重疊し蒼林鬱茂して平原沃野多しと雖も、尙ほ未だ荒蕪に屬するもの多く、西北岸又石炭を産すれども絶海不便の遠島なるを以て採掘盛ならず

入表島の西方十五里許の海上に與那國島あり、實に我邦版圖の極西にして東經百二十二度四十五分に位す、沿岸概ね曠平地味膏腴能く穀蔬の栽培に適す、然れども沿海の地暗礁多く大船の碇泊に便ならず

入表島の南方凡そ七里許に波照間島あり、我か國版圖の極南にして北緯二十四度〇六分に位し、地勢概ね平坦なり

此他八重山群島に屬するもの武富、鳩間、小濱、新城等の諸島あり

第十章 北海篇

(三三) 北海道の位置形勢及び區劃如何 (三四) 北海道の國名は如何

何 (三五) 千島の由來如何 (三六) 形状は如何

北海道は本州の東北に位し我か邦北門の鎖鑰をなせる要地にして、古來蝦夷ヶ島根と稱へたる大島と、其の東北に鏈鎖狀をなして魯領東察加に突入せんとする數多の島嶼とより成り、面積六千〇九十五方里餘、宛も九州二箇と四國三箇とを合せたるものに等し、其の鏈狀の群島は明治の初年魯國の爲に樺太の瘠島と交換せる總稱千島國にして、本島は陸奥に面せる渡島より西北日本海に沿ふて逐次に後志、石狩、天鹽、北見更に太平

洋岸に沿ふて膽振、日高、十勝、釧路、根室の十國に分割し、之れを通し
て十一國となす

大体の形狀之を形容すれば宛も赤鱒魚アカマスの游泳するか如し、根室の地は即
ちその頭部にして膽振、後志、渡島の地は其の尾部に配すへし、中央諸山
脈の接合點チブタテシケ山塊は即ちその背部にして、東北山脈及び日高
山脈は其の兩翼をなすものなり

(三六) 北海道の氣候及び産物の總括 (三七) 我か版圖中世界の漁

場と稱せらるゝは何れの地方なるや

氣候は之を南方諸道に比すれば温度低しと雖も、決して世人の想像する
か如く寒冷ならず、之れを北米及び歐州北部の地に比すれば決して寒冷
なるにあらず、加之環海は魚族海草莫大にして世界の漁場を以て稱せら
る、然れども本道の中央部を除くの外地勢至て平坦にして高山峻嶺に乏
しく、沃野渺茫河流極めて緩漫に、運輸灌漑の便利大なり、而して河流に

流水多く、又河口に近く河身の屈曲すること甚しきは本道の特性なり

(三八) 渡島の山川都邑及び産物 (三九) 箱館の形勢及び氣候は如

何 (四〇) 津輕海峽の東西門口を問ふ

渡島は道の西南端最も本州に近き所にあり、東北は日高海噴火灣及び膽
振、後志に接し、南は陸奥と津輕海峽を挟み、西は日本海に面す、其の南
面は海水陸地に灣入し、我か國五港の一なる箱館を含む、箱館は箱館山を
負ひ箱館灣に望み、港内廣濶にして水深く、北海道に出入する貨物は皆一
旦此の地に集るを以て船舶の往復極めて頻繁なり、其の輸出物は主に海
産物にして、輸入の主なるものは米茶及び製造品なり、現今北海道支廳を
此の地に設く、箱館の北方一里半の地に五稜廓あり、往年幕府の築造せし
ものにして其の形五稜形をなし維新史上有名の戦地たり、此邊の氣候は
一月の平均温度零下二、二にして之を信濃長野(零下二、八)に比するに
大差なく、八月は二十一度にして之を長野(二二、一八)に比するに大差な

く、陸中の宮古と略は同様なり
 箱館の東方は火山に富める半島にして、其の尖端を惠山岬(燈台あり)といひ遙に日高の襟裳崎と相對して日高海を擁し、陸奥の尻矢崎と相對して津輕海峽の東門をなす、岬の西に惠山ありて常に硫烟を噴き、其の脈西北に延きて駒ヶ岳を起す、岳北に砂崎あり膽振の繪柄岬と相對して圓形の一灣を抱く噴火灣是なり、砂崎の西方に森港あり、膽振の室蘭港と南北相對して灣口の要津たり、森箱館間は馬車を通する良道にして交通繁く、田圃開けて麥豆類を産すること夥しきのみならず、又米作に適せり、兩地の中間に七飯村あり七重育種場ありて牛馬の牧養盛なり、國の最南端を白神崎といふ、陸奥の龍飛崎と相對し津輕海峽の西口を扼す、福山は舊名を松前(昔時蝦夷の首府)と稱し白神崎の西北にあり、國の西方日本海沿岸の中央に江差あり、箱館を距ること二十二里漁船の往復あり

(三七)後志の山川都邑及び産物を問ふ (三七)小樽港の所在を問

ふ

後志は渡島の西北日本海に瀕する狹長の地にして全國山岳多く、南方渡島の境にシリベシ山あり、海岸は屈曲多く鮭漁甚だ盛なり、膽振のマガカリヌプリ誤稱後方羊山 火山六千餘尺に發する後志川國の中部森林地方を西流す、河口の南に壽都あり碇泊に便なり、國の東北に突出せる半島の端を積丹岬といひ、銀銅鑛及び砂鐵を産す、石狩の雄多岬と相對して石狩灣を擁す、灣の南岸に小樽あり、人口二萬六千餘箱館に亞く要港にして、其の北方の手宮より鐵道を起し、小樽を過きて石狩に入り札幌に達す

(三七)石狩の山川都邑及び産物を記せ (三七)北海中第一の大河

を問ふ (三七)我が國第一の瀑布は何れにありや (三七)

北海道第一嚴寒の地は何れ

石狩は道の中部の西に位し、東北境は道中最高峻を極むる所なり、從て此に發源する諸川流は國の中部平野の間に涵養され、全國最大の河流をな

す石狩川是なり、石狩川は十勝の境に位する石狩岳の大瀑布直下百五十に大幅六間に發し國の北部上川郡の曠野を西流し、有名の急流カムイコタンとなり、緩流して北方天鹽の境に發する雨龍川と相會し、方向南に轉して平濶なる河谷を流れ十勝岳に發する空知川を合せ、尙ほ諸炭礦の近傍を流るる諸川を合せ、江別に至りて(東南十勝日高膽振の三國と境を接する所に聳ゆる夕張岳に發する夕張川と、膽振の支笏湖シコツに發する千歳川との合流なる)江別川を合せ水勢大に緩慢となり、又西南膽振の境なる札幌岳に發し札幌に流るる豊平川を合せて西北向し、石狩灣頭石狩に至りて海に注ぐ、全長百六十七里舟楫を通すること百餘里にして鮭を産するを夥し、石狩灣は即ち西北端の雄冬岬と後志の積丹岬とを擁する大灣なり、石狩川上流の地は寒氣嚴烈本道第一と稱す、即ち一月の平均温度は零下一一、六にして夏時は二〇、〇に達し、其の差實に三一、六なり

三七七 札幌及びその近傍の形勢如何

札幌は石狩の西南曠野の間に位し、豊平川に臨める本道第二の都會にして人口二萬五千六百餘、小樽を距ること東方十數里、北海道廳の所在地たり、農學校の設ありて夙に世に知らる、又炭礦鐵道會社、北海道製糖會社、製麻會社等あり、小樽より來る鐵道は此地に來り、更に諸炭礦に通するを以て交通至て便利なり、札幌四近の地は農場夥しく甘菜の栽培盛なり、市を南に距ること二里許に眞駒内あり、廣大の育種場ありて牛馬を牧す、其他林檎、葡萄等の培養最も盛にして米穀も亦産出す

三七八 北海道の炭礦を擧げよ

國の中央石狩川の東部は炭山夥しく、空知川の近傍に空知炭山あり、其の南に郁春別イッシユンベツ及び幌内ホロナイ炭山あり、皆有名の炭山にして鐵道は岩見澤に於て一支線を派し、南方膽振の苫小牧に至る

三七九 天鹽の山川都邑及び産物を問ふ

天鹽は石狩の北方に位する三稜形の地にして、東北は一帶東北山脈によ

りて北見に界し、西は天鹽海に面す、而して東南の地高峻なるを以て河流は皆西北に向ふ、河の最大なるものを天鹽川とす、天鹽川は東南天鹽岳の邊に發し、東北山脈に平行して紆餘屈曲西北流し、天鹽村に至りて海に注ぐ、其の灌域は濕潤にして濁流多しといふ

海岸は屈曲少く従て良港に乏し、然れども鯨の漁獲盛にして西南岸留別及ひ増毛地方は最も有名なり、増毛は國中唯一の良港にして小樽との交通頻繁なり、此國の沿海は昆布の産獲多し、國の西北海上に位する禮文島及ひ中央部の西に在る燒尻島も有名の漁場なり

(三〇)北見の山川都邑及び産物如何 (三一)北海道第一の大湖

北見は北海道本島の最北に位し、前面は一帶オホソク海に臨み、背後は千島帯及び東北山脈を以て劃られたる狹長の地なり、故に川流の著大なるものなく又皆地勢に準して東北向す、中に就て最大なるものを(釧路の境に聳ゆる網走岳に發する)網走川とす、下流は一旦網走湖に入り更に出て

と網走村を過ぎて海に注ぐ、猿間湖は其の西方にある大湖にして周圍十五里あり、國の東北長く海中に突出するを知床岬とし、西北端を宗谷岬(燈臺あり)とす、兩岬の中間即ち國の海岸全体は屈曲至て稀にして、而も鮭鯨の産獲に富み山間の地は自然桑を産す

(三二)北見の氣候は如何 (三三)宗谷地方と網走地方との比較を示せ

宗谷岬端の西北宗谷村は鯨の收獲最も多し、此地は本道の最北端に位すれども、緯度一度半以上の差ある網走に比して氣候大に温暖なるが如し、是れ網走は親潮寒流の爲に其の岸に洗はれ、宗谷は微少なからも黒潮暖流の餘派を受くるか爲なり

(三四)膽振の山川都邑及び産物を擧げよ

膽振は渡島の北後志石狩の南に在る狹長なる地方にして、西南の地灣曲して渡島と共に噴火灣を擁す、灣の東端は即ち室蘭岬にして、室蘭港其の